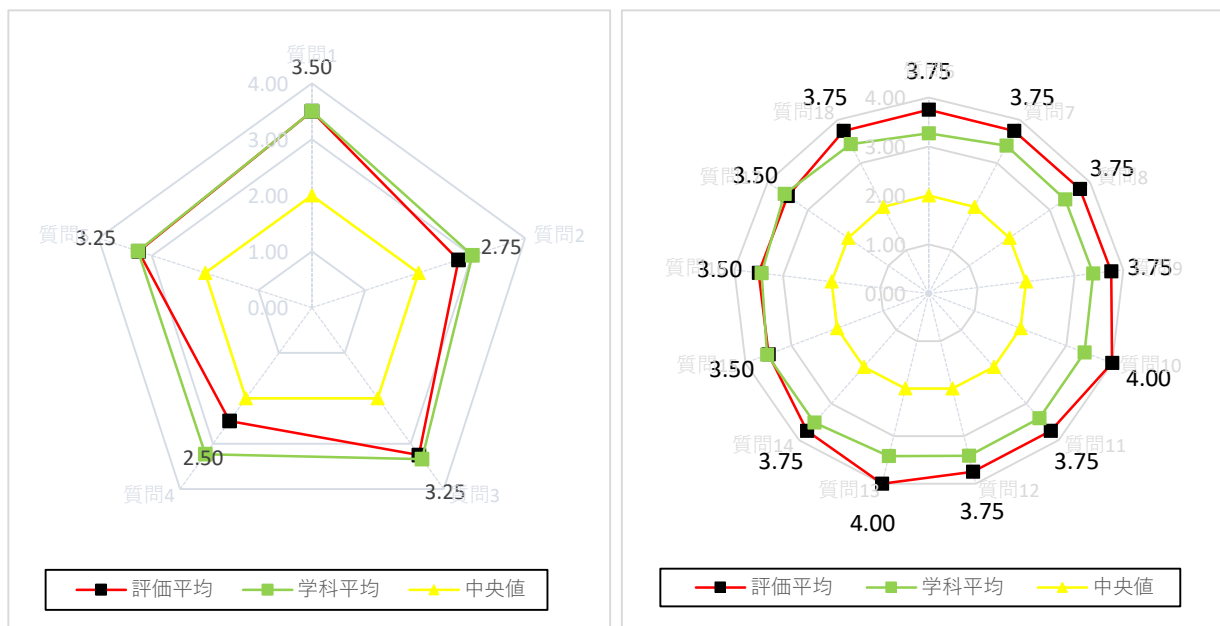


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育含）	5名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

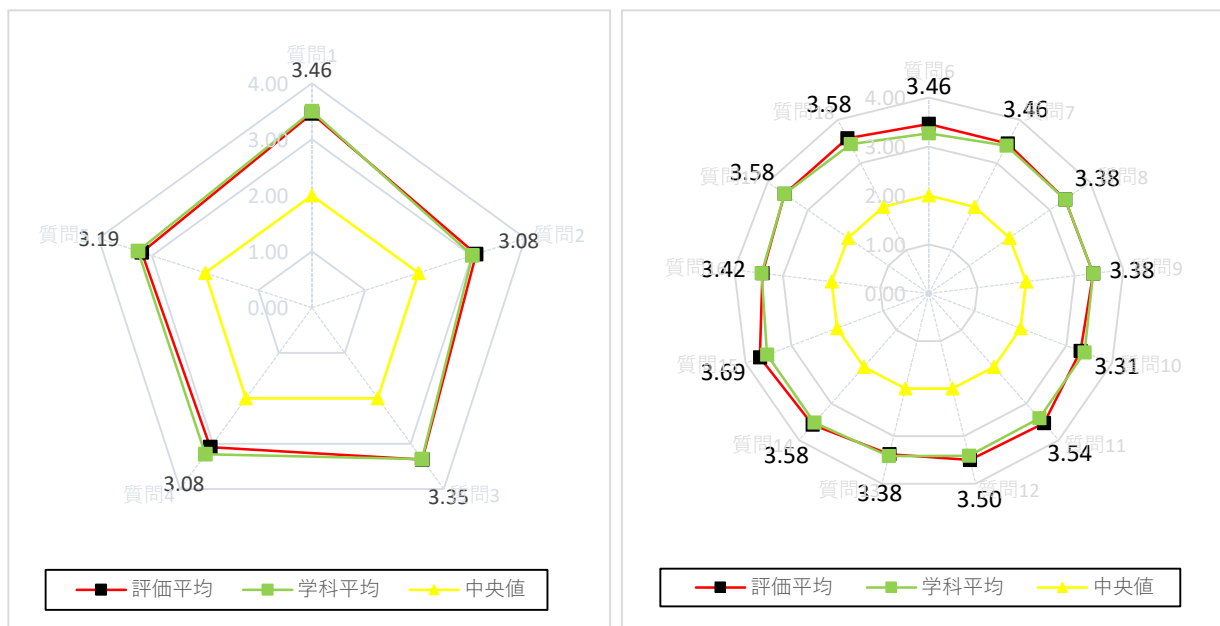
- ・ 学科平均との比較：学科平均を上回っている。社会人醸成のための科目であり、学生自身自己の弱点と向かい合う時間と捉えて実施した点の評価と考える。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫と反省点：自己の考えをまとめ、発表する機会を増やすことも必要であるが、時間的な制限もあり今後、工夫したい。

（３）次年度に向けての取り組み

- ・ 社会人にとって必要な資質である、コミュニケーション力、創造力、批判力、リーダーシップの醸成に繋がるアクティブ・ラーニングを併用したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		生活支援	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

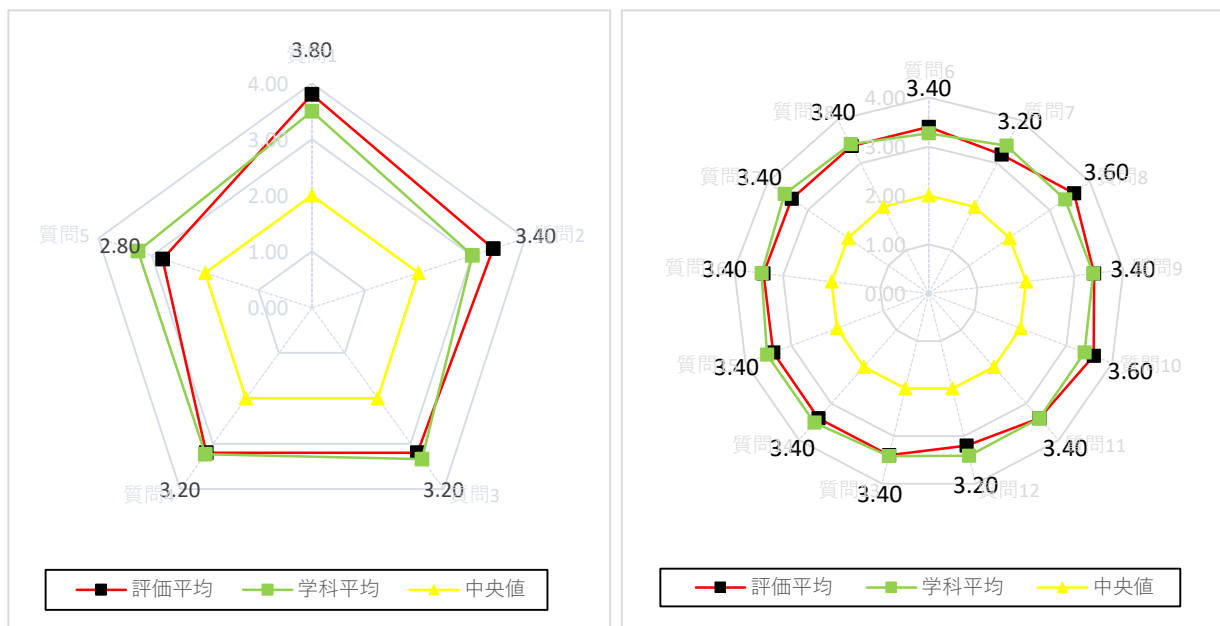
全ての項目において、ほぼ平均と同じ値の評価が得られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は各学科から計9名の教員が担当するオムニバス形式で実施されていることから、内容の統一化と共に、受講学生に戸惑いや不安感を与えないよう注意し展開していく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		地域連携	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

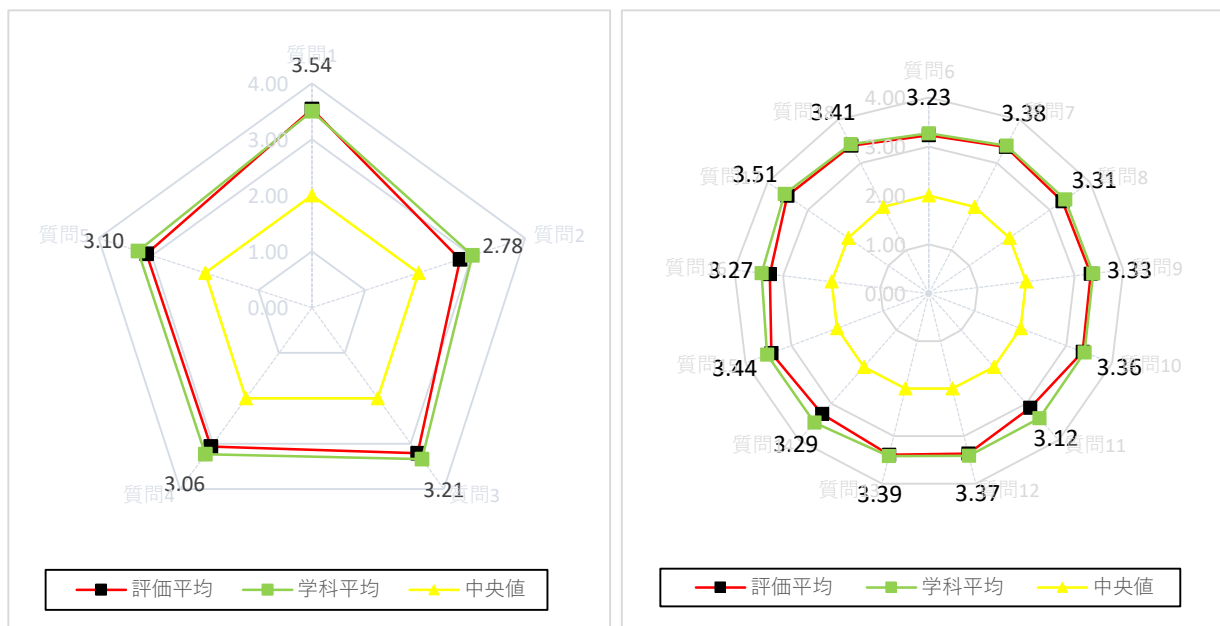
学生の自己評価が低い傾向にある。授業に関しては、質問7、12、17が低い傾向にある。

(3) 次年度に向けての取り組み

オムニバス形式で複数の教員が担当する科目であることから、教員間での評価のばらつきが生じたと思われる。次年度は教員間での情報共有を強化し、授業に取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		現代社会と倫理	205名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

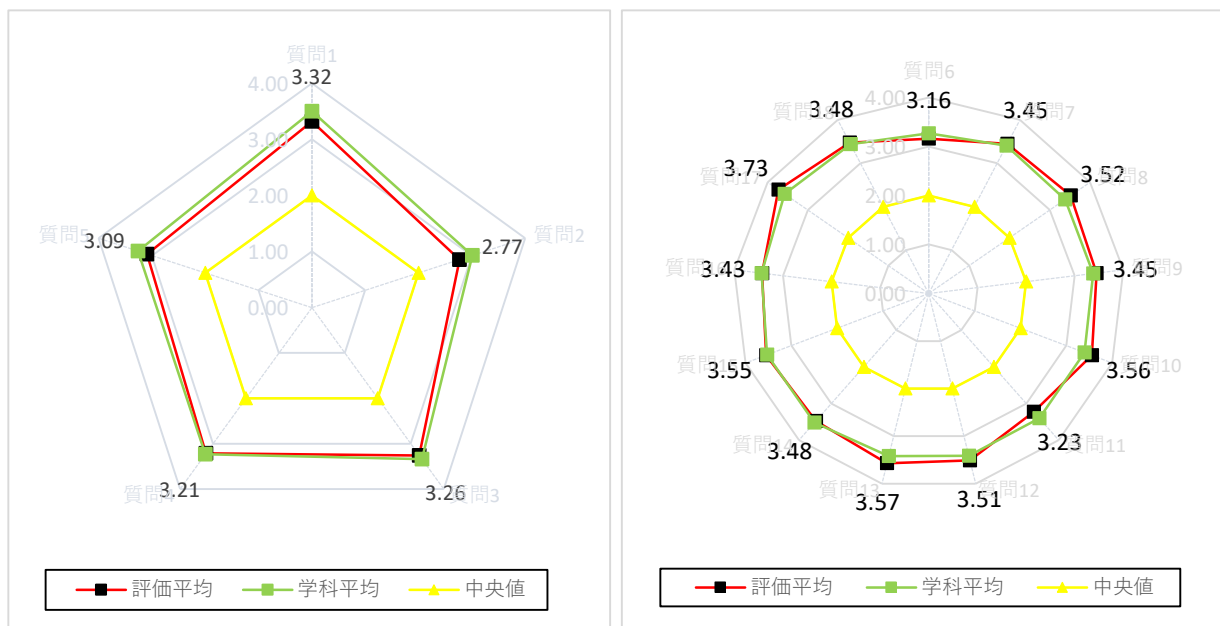
シラバスの説明、教科書、学生の質問、双方向授業、の4項目で学科平均を下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学科平均値を下回っている項目に関しては、さらに気をつけた授業運営に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		人間論と現代思想	201名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

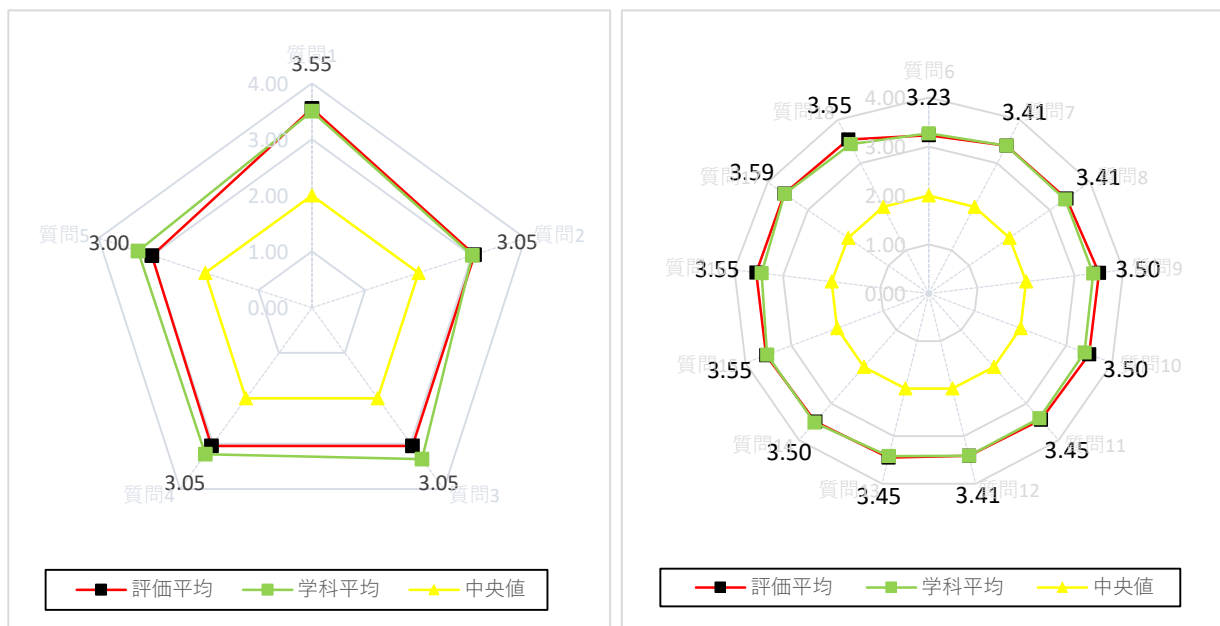
ほぼすべての項目で学科平均値に近い数値を示している。シラバスの説明、教科書についての評価が若干低くなっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明は行っているが、まだ十分に認識されていないことがわかった。教科書も使用しないことを説明しているが、こちらも十分に認識されていない。次年度は説明をもっと十分に行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		脳と認知科学	69名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

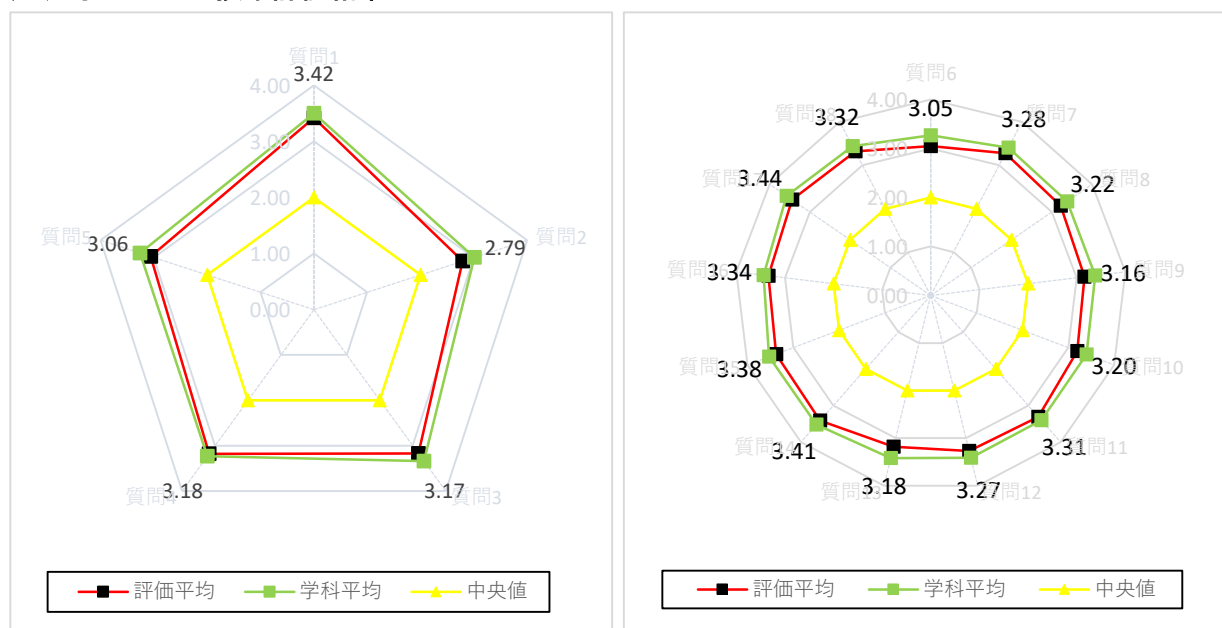
全学的に興味を持ってもらうための工夫が教員間でできていたと思われます。

(3) 次年度に向けての取り組み

さらに興味を持って頂けるように、身近な内容を取り込みながら講義を進めていきたいと考えます。単位取得のみを狙って受ける上級生がおり、受講態度などで悪影響も出ており、それらの学生さんに注意を促すなどの措置も考えたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		法学	154名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

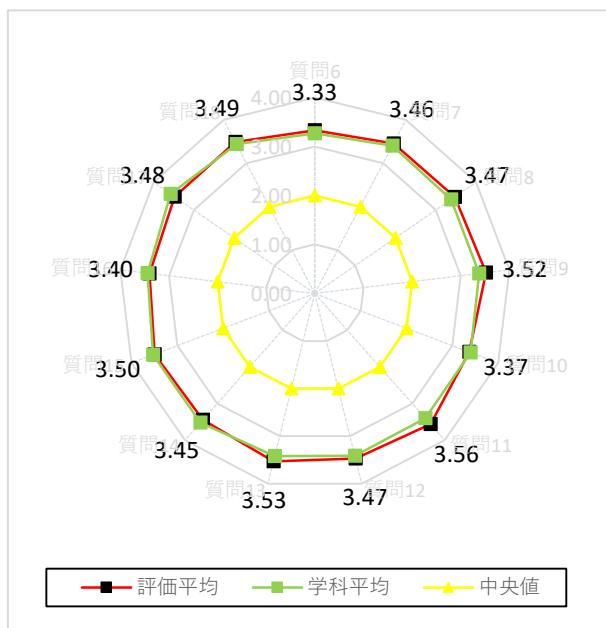
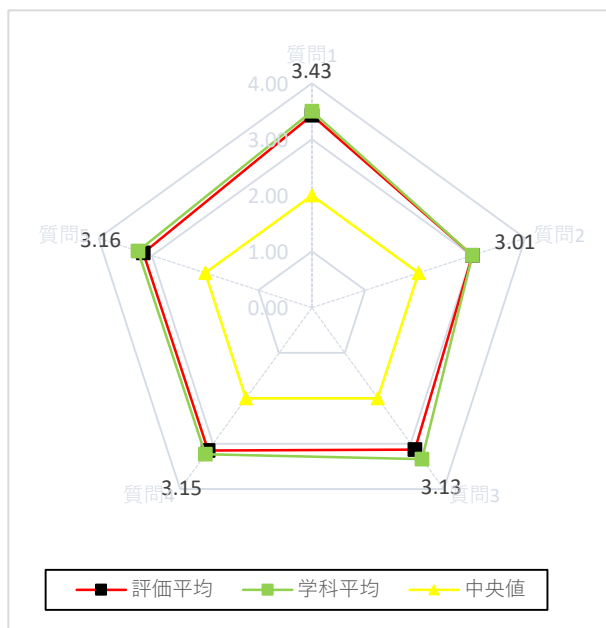
基本的には平均値と同様の分布であったが、全体的に平均値をやや下回る結果となった。100人を超える大講義なので、やむを得ない部分もあるが、細かな対応をすることで、学生からの評価を得られるようにしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生対応（質問対応など）を細かくしたい。授業中に質問に対応する時間を作ったり、リアクションペーパーの配布を試みたい。それらを授業内でフィードバックすることを予定している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		くらしと経済	222名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業評価の結果は、概ね学科平均に収斂するものとなったが、特定の項目では学科平均を下回るものもあった。これは今後改善していくべき課題であり、工夫していきたいと考える。学科平均との比較があることによって課題が明確になるので、この分析結果はとても参考になる。また、授業評価は学生諸君の意見を直接きくことのできる稀有な機会であり、授業の改善に大いに役立つものとする。くらしに役立つ経済の知識を習得していくことが授業の狙いであったが、授業評価から鑑みてこれはある程度達成できているものとする。ただ、黒板の文字が見えにくいなどの意見もあり、今後改善していきたい。□

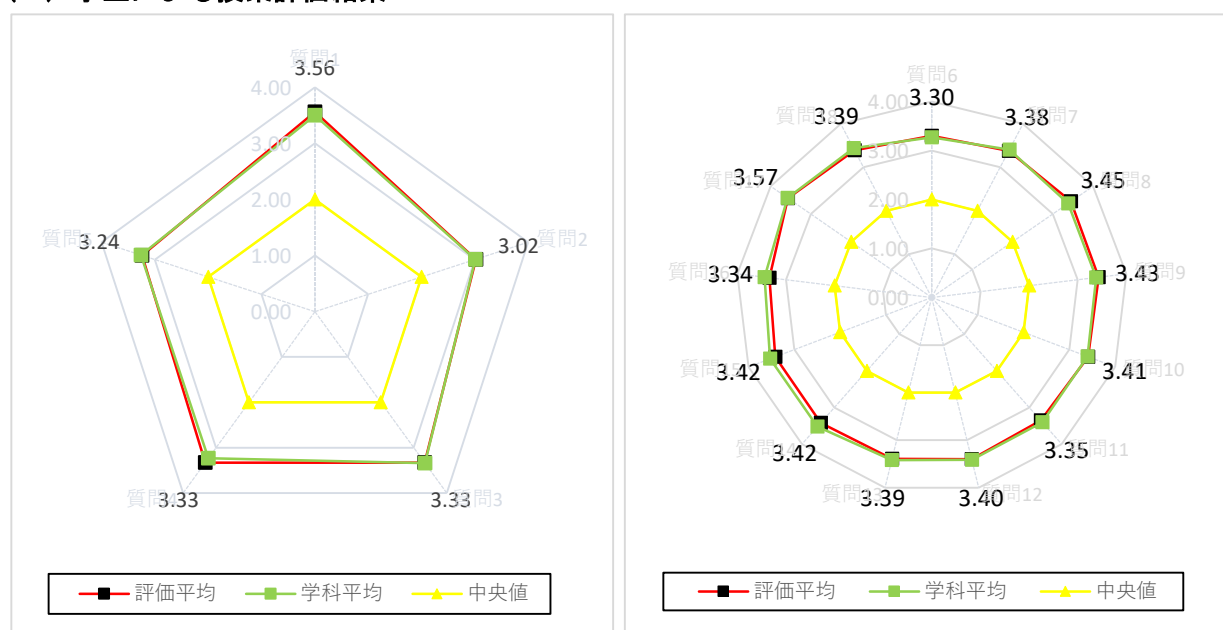
□

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明についての項目に関してはやや評価が低かったが、これはもう少し時間をさいて、丁寧に説明したいと思う。初回の授業で話してはいるのだが、多岐におよぶ項目で、理解しにくいのかかもしれないと思われる。したがって、今後は論点をしぼって、わかりやすく説明したいと思う。さらにシラバスそのものを使用しつつ説明を加えていきたいと思う。黒板の文字が見えにくい場合は、配布資料でカバーするなどしていきたい。次年度においては、わかりやすい資料の作成と説明をさらに向上させていきたいと考えている。また、学生諸君が飽きないように時々穴埋め形式のプリントなども作成し配布したいと思う。そして、学生諸君が経済に関する知識をできるだけ増やせるように全力で取り組んでいきたいと考える。□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		身近な生活の化学	176名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

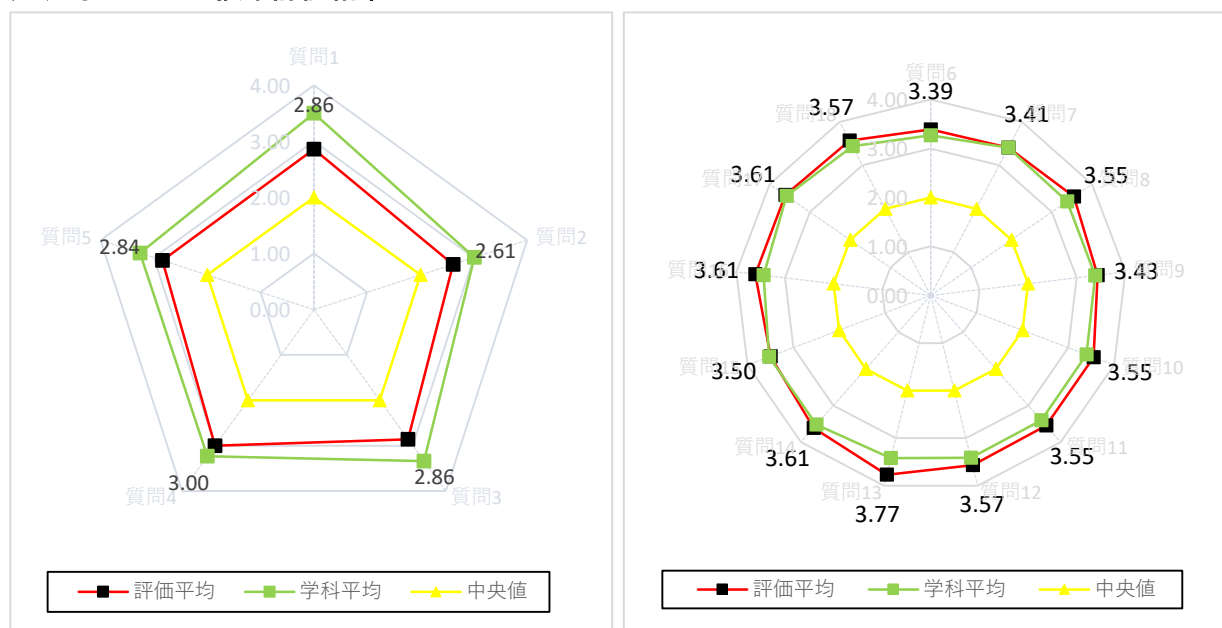
概ね学科平均と同等の結果であった。教養科目であるため、すべての学科の学生が受講しているため、どのレベルに標準を合わせるべきか、いつも悩んでいる。また、大人数なので油断するとすぐうさくなるので、授業に集中させるのが大変だった。工夫した点と言えば、興味を引くようなDVDを見せたり、難しい反応を例を挙げて説明したりと、できるだけわかりやすく、そしておもしろく説明することを心掛けた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、理系文系を含めた大人数が受講することが予想される。化学と言えば、難しいというイメージがあるので、身近な例を挙げてわかりやすく教えることをモットーとしたいと思う。よい教材を探し、興味を引くような工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		健康運動科学	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目は共通教育科目/健康スポーツ(選択科目)として、1年次の後期に開講している。初級・中級障がい者スポーツ指導員の資格取得に必修であり、健康福祉学部生29名、および健康栄養学部生25名の履修者であった。

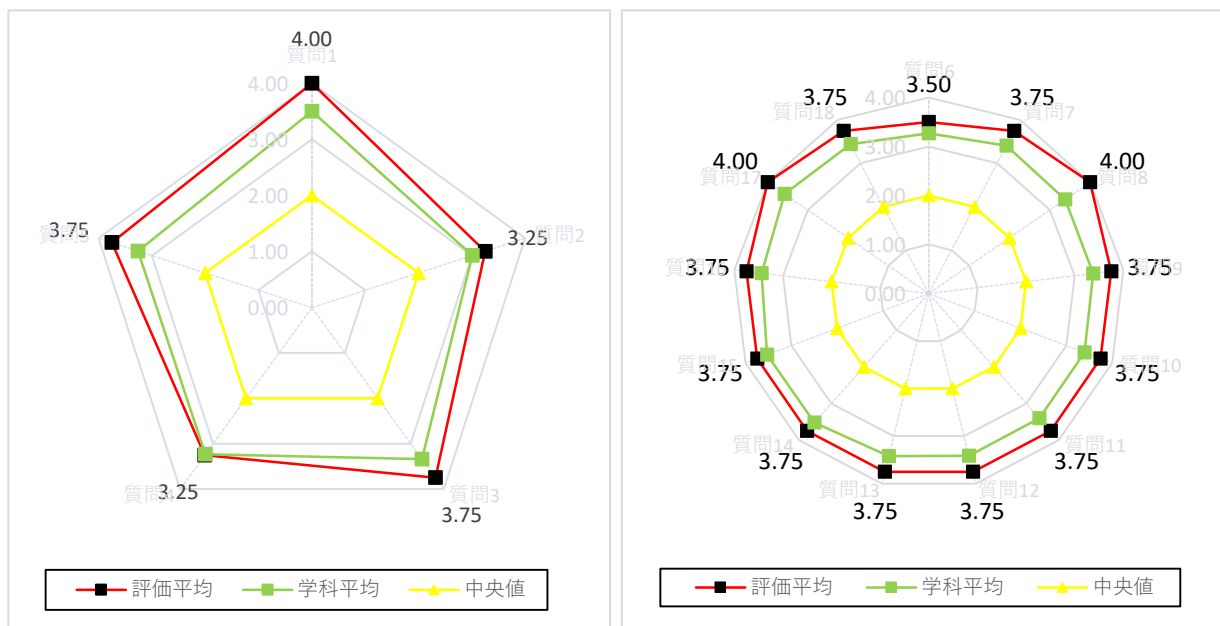
結果から、教員に関する質問項目6-18に関しては概ね学科平均と同程度の評価を得た。一方、学生の意欲・態度に関する質問項目1-5に関しては学科平均を下回る結果となり、学生自身の意欲を引き出す声かけが必要であると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す声かけ等を行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ウェルネス・スポーツ	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

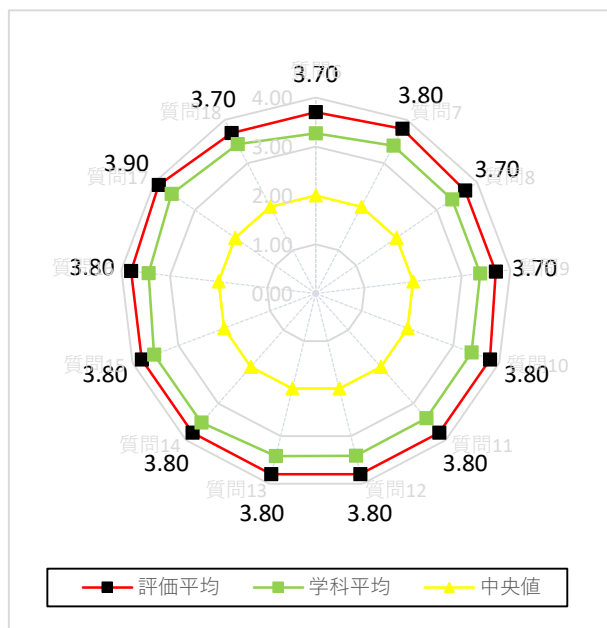
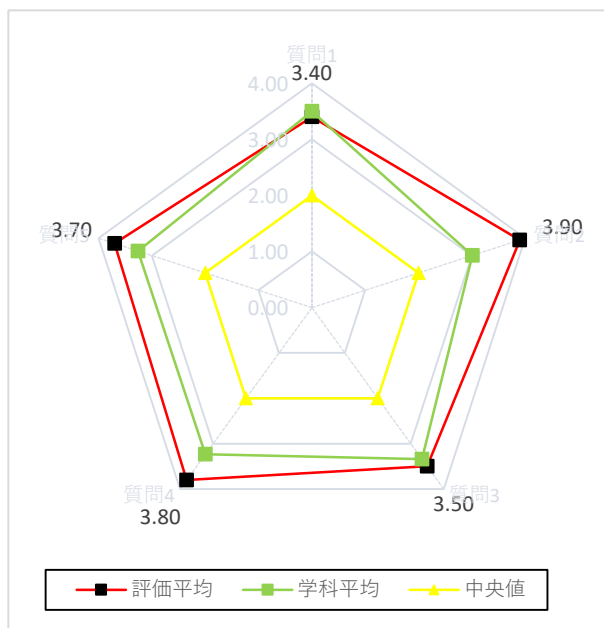
本科目は共通教育科目/健康スポーツの実技(必修科目)として、2年次に通年(隔週)で開講している。教職をはじめ、各種のスポーツ関連資格取得に必修であり、健康福祉学部生61名が履修した。履修学生61名のうち4名から回答があり、すべての質問項目において概ね学科平均を上回る評価を得た。学生の意欲・態度に関する質問1-5のうち、質問4「授業を理解する工夫」を促す声かけを行うことで、学生自身の自己評価をより向上させることに寄与するものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は旧カリキュラムでの開講科目であり、次年度以降は開講されないが、他の科目を担当する際の参考にしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 リハビリテーション		文化人類学	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

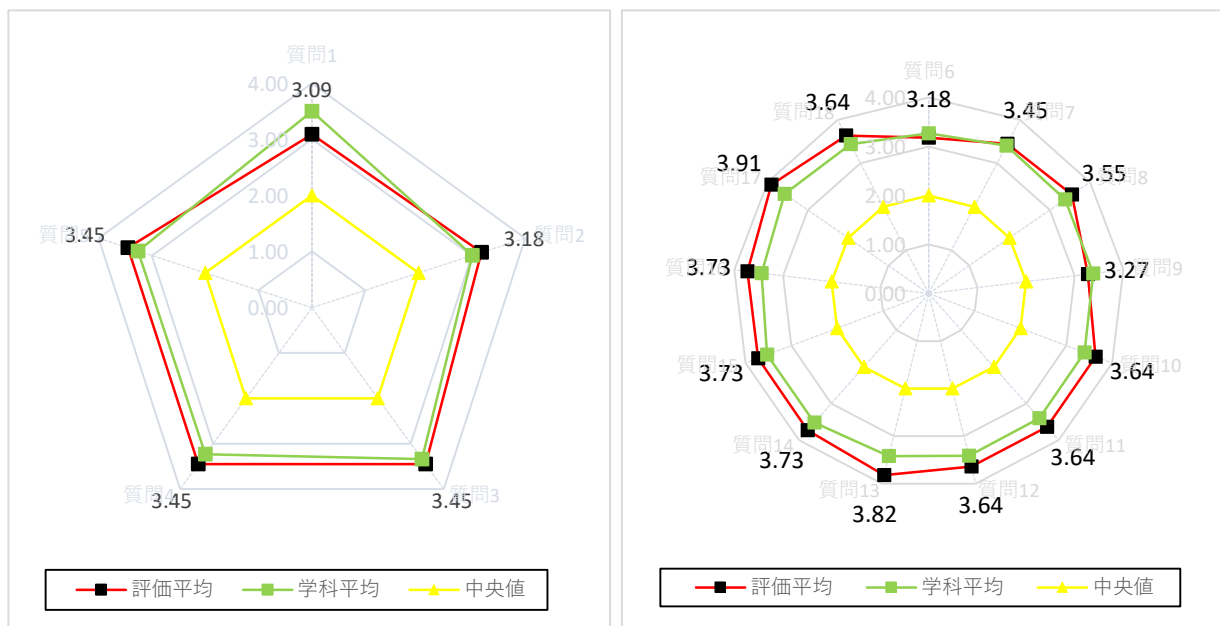
全体的には高評価であったと思う。
ただし、学生に何か作業をさせるという面において
不十分だったと思われる。もちろん、講義時間中ではなく、
講義外に発展的にしてもらいたいというのが本筋だと思うが、
より能動的なものも積極的に取り入れたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生へのワーク的な内容を取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		変わりゆく国際社会を生 きる	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

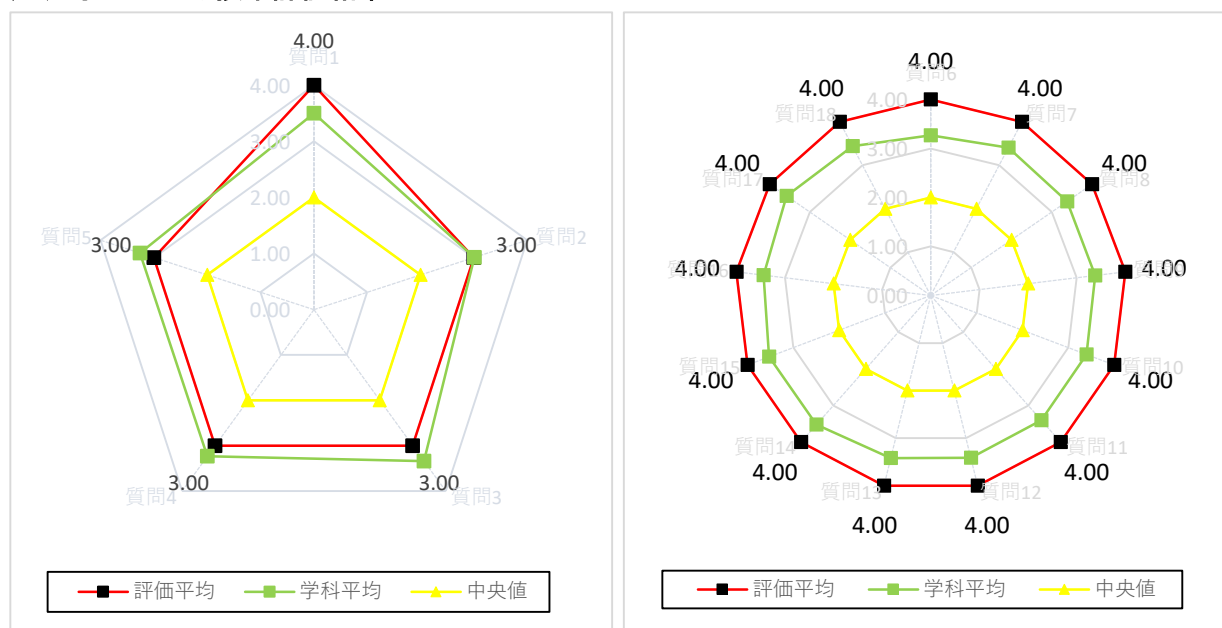
授業の分かりやすさのみ、学科平均値を下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学科平均値を下回った項目については、担当者間で話し合い、強化していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		総合英語Ⅱ	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

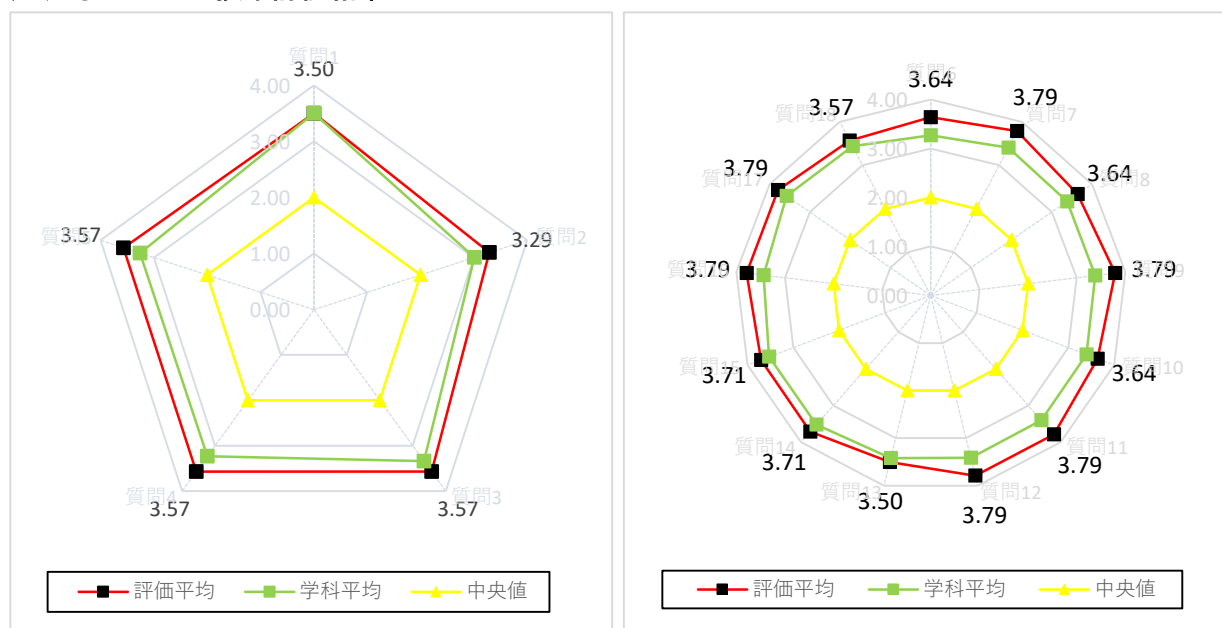
質問6以降の評価は概ね良いものの、質問3、4、5が学科平均より低い。私の授業では授業後半での自由度が比較的高めなので、そこで真剣に学習にとりくむといったところが自分に厳しくなれなかったのかもしれない。また、授業を理解するための工夫といったことはあまり必要ではないので、質問4も評価は低めになったのだろうと思う。英語に対して苦手意識を持っている学生が多くいたクラスだったので、どうしてもそのあたりがそういった評価になっていったと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

総合英語の授業はカリキュラムから消えるので、この授業の内容を今後リニューアルしていくことはない。しかしBasic Englishに多少なりともこの授業でやっていたような内容を盛り込んでいる。今までの授業で得られた学生の指導に関するいい部分（例えば授業中に個人個人とのコミュニケーションをしっかりとったり、シラバスの説明を毎回きちっとおこなったりというようなこと）をしっかりと反映していきたいと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		英語表現Ⅱ	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

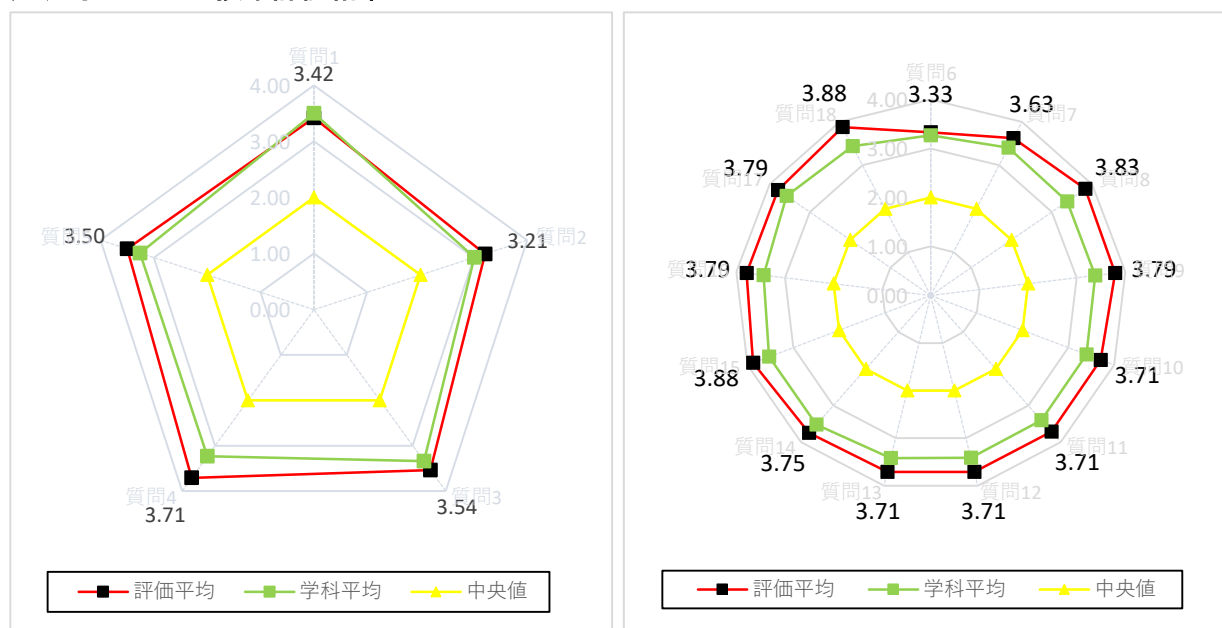
全体的に見て概ね学生からは満足いく授業であると評価してもらえたかなと思う。質問1、13が多少低めだが、欠席は致し方ないとしても授業の進む速さが適切ではなかったという印象がでたことは今後の参考にしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

総合英語の授業はカリキュラムから消えるので、この授業の内容を今後リニューアルしていくことはない。しかしBasic Englishに多少なりともこの授業でやっていたような内容を盛り込んでいる。今までの授業で得られた学生への指導を改善するための情報ををしっかり反映していきたいと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 リハビリテーション		Global Communication (English)	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

今年内容や先生の変更がありました。学生の反応はよかったと思います。

質問1－5に関しては学生の授業に対する取り組みで評価がよかったと思います。学生の出席率、真剣に取り組む姿勢や自己評価は平均並みでした。

質問6－18に関しては、質問6は評価平均と同じで、ほかの答えは評価平均より少し下回る数字となりました。

(3) 次年度に向けての取り組み

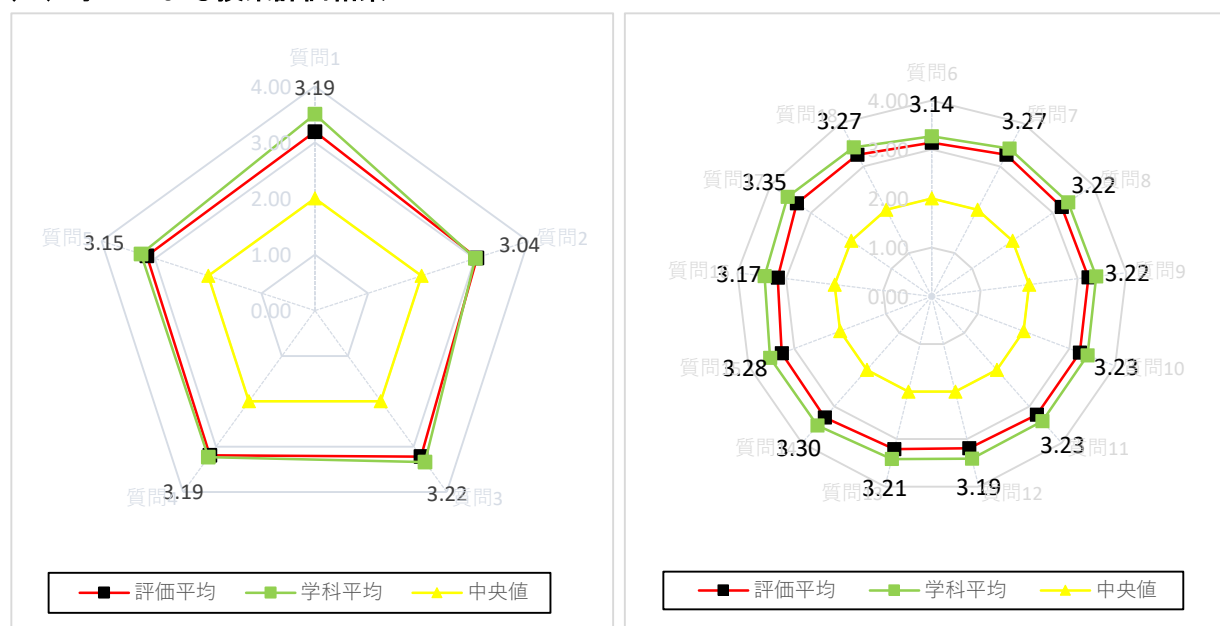
まずは、学生がこの評価を積極的にするように指導します。パソコンになってから、学生が回答したかどうかの確認が難しいと感じます。回答率が100%になったらいいデータだと思いますので、100%を目指して回答してもらいたいです。

次年度は回答するようのリマインドを行いたいです。

データを見ますと授業の内容ややり方を少し変える必要あると思います。前年度より英語の基本理解の授業が物足りない反応がありましたので、POST GCEで工夫をして次年度に生かして行います。先生方の熱心が伝わっていると思います。全体の評価画はとて素晴らしいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		健康福祉概論	136名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

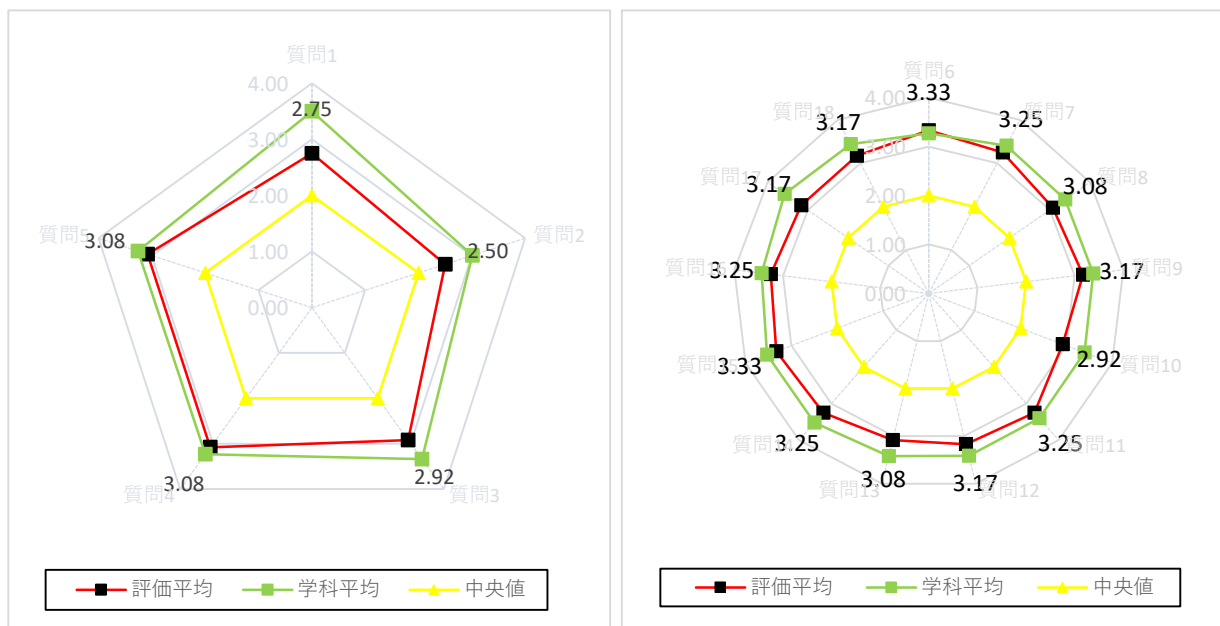
本科目はオムニバスで講義が実施された。評価項目において「教員は熱心に取り組んでいた」とする回答が最も多く、次いで「学生の質問等に誠実に対応した」と「公平に学生に対応した」とする＜教員の対応＞について評価が高く、学科平均値を超えて高い数値であった。一方で、学生自らが「シラバスを活用したか」と授業内容・方法では、「シラバスについて説明があったか」については、本科目の評価項目の中では低いため、オムニバスを担当した教員4名により協議する必要がある。また、自由記述では、「社会福祉とは何かを様々な視点から見ることができた」との感想があり、担当教員の専門性である①社会学、②心理学、③スポーツ健康学、④社会福祉学という多様な隣接領域から構成される本科目の特徴が示され、学生に理解が及んだこととを感じる。次年度以降も今年度と同じ教員で担当するため、授業への各教員の熱心さと理解を促す授業実施と共に課題であるシラバスの提示等を意識した授業構成に改めていきたい。学生から貴重な意見を得たことから次年度の授業改善に繋げるよう取り組みたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、①社会学、②心理学、③スポーツ健康学、④社会福祉学という4名の担当教員が各自の分野を担当し、オムニバス形式により授業を展開している。大まか教員の熱意や熱心さ並びに学生に公平に対応する点については一定の高い評価を得た。この事を次年度以降も同じ教員が担当することからも継続し意識していきたい。また、上記の①～④の広範囲な領域から構成される講義のため、学生の自由記述からも、「社会福祉とは何かを様々な視点から見ることができた」との感想を得ており、社会福祉を取り巻く上記①～④の分野において各教員と連携を取りながら進めていきたい。一方では、シラバスの学生自らの活用と教員側の促しや説明不足が示されている。この点を踏まえて、次年度以降の課題としてシラバスの開示並びにアカウンタビリティとしての注意喚起を促していきたい。このことから、今年度以上の講義展開が実施できるよう各教員との連携を密にして進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ支援論	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

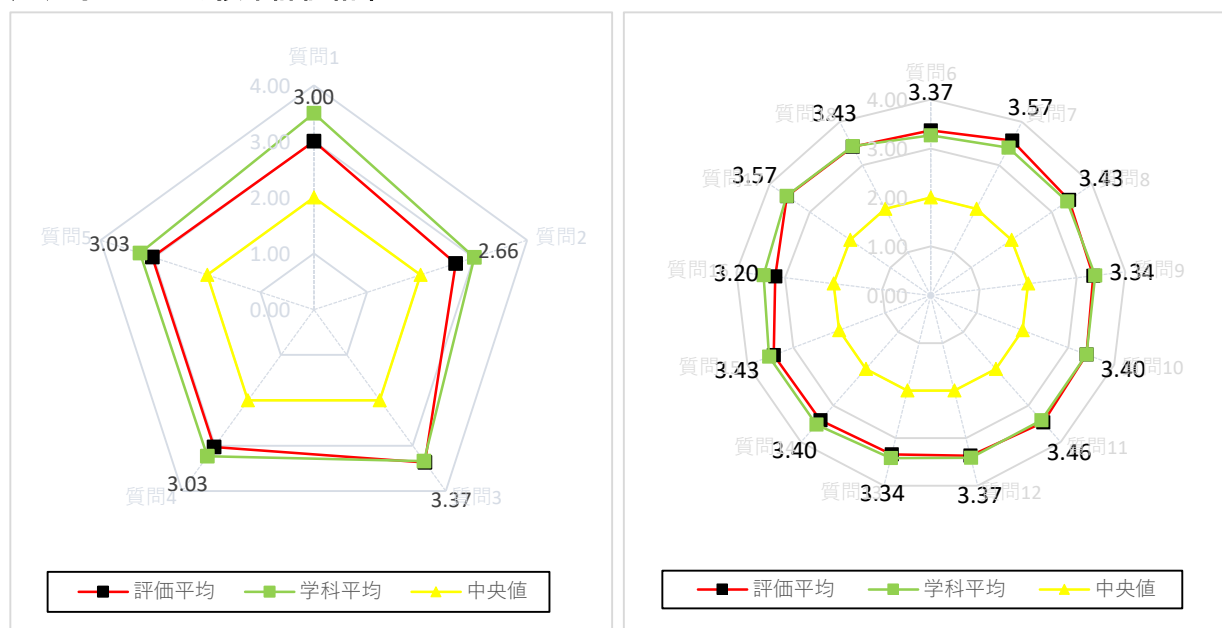
学生の自己評価では授業を理解するための工夫、総合評価は学科平均と同様であるが、欠席回数、シラバス活用、居眠り・私語については学科平均を下回っている。
今日の授業に関する評価はほとんどの事項が学科平均と同様であるが、視聴覚機器の活用や板書の仕方、教員の熱心さが学科平均を下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は視聴覚機器の活用や板書の仕方を工夫し、熱意をもって抗議に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ文化論	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

46名中、35名から回答を得た。

学科平均と比較してみると「学生自身の授業参加態度について」の評価が全体的に低い値となっており、特に質問2の「シラバスの活用」が低い。

授業及び教員に関する設問は概ね平均的な評価を得ている。その中で、質問16「双方向的なやり取り」が若干下回っていることから内容改善が必要である。

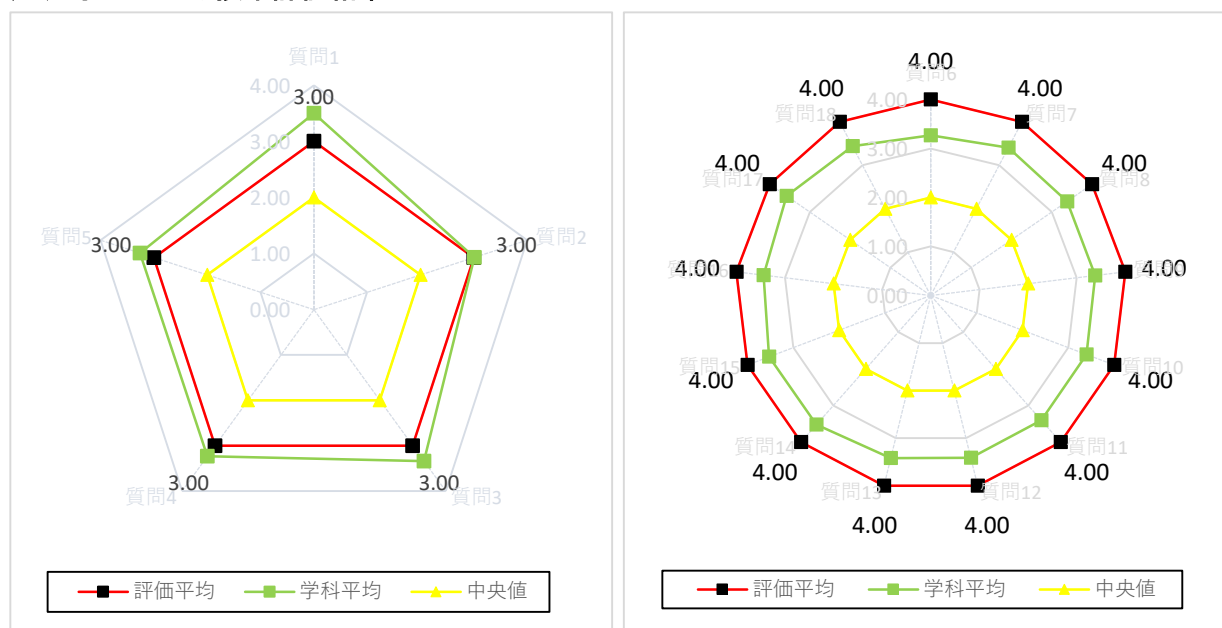
(3) 次年度に向けての取り組み

「学生自身の授業参加態度について」の評価を上げるためには、予習・復習の促しと課題を提供することで改善していきたい。

テキストを使用していることから、一部分を学生に読んでもらうことや、学生への問いかけなど学生の参画機会を増やすことを意識したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅠ	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

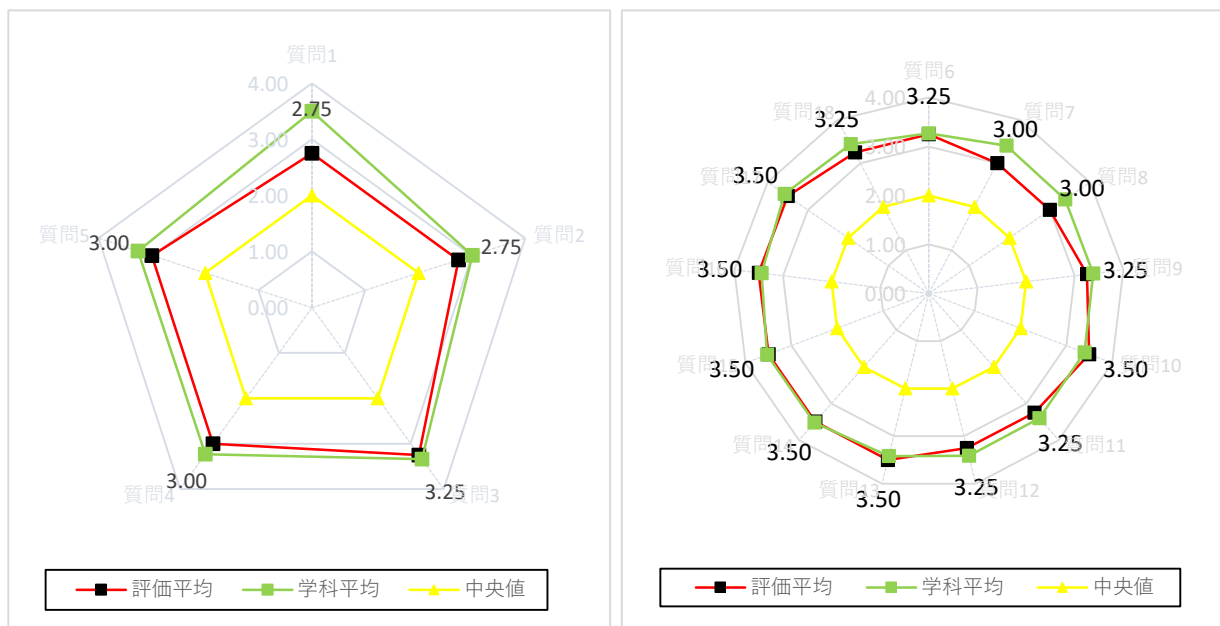
質問1～5については平均より低い結果となった。逆に質問6～18については平均より高い結果となった。学生自身の取り組みについて、主体性や積極性を促す結果に至らなかったため、興味関心をより高める必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

2019年度は科目を担当しないが、ほかのゼミ等の試みに反映させて、できる限り学生の興味関心を高める題材等の工夫に努める必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

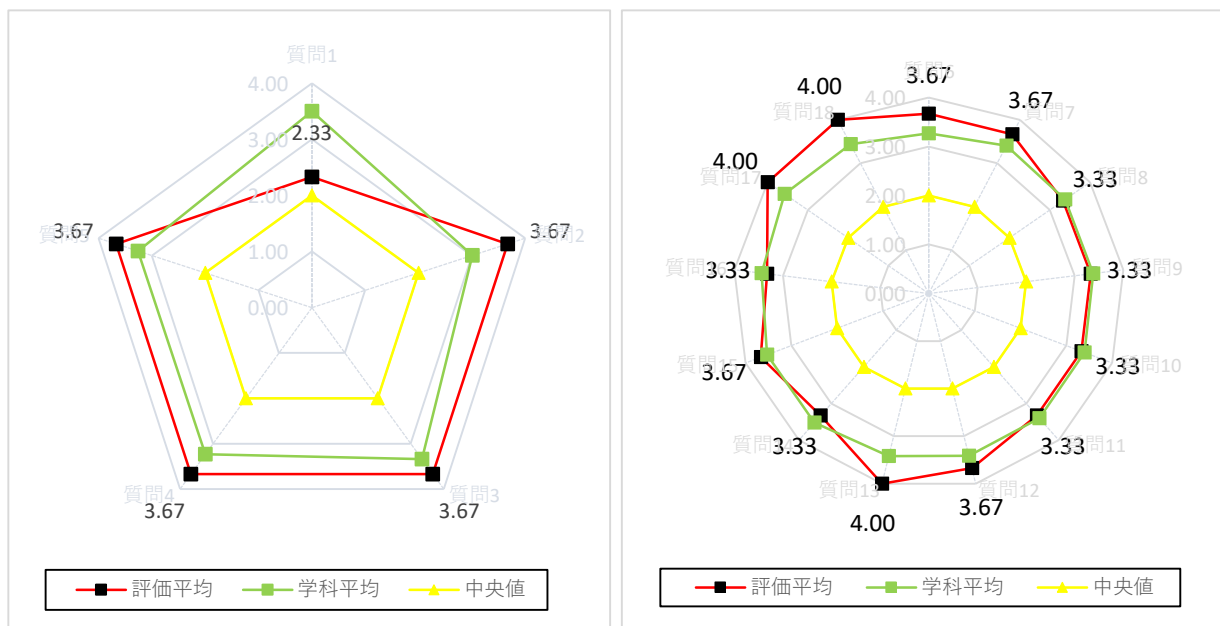
- ・ 学科平均との比較：「授業の到達目標、授業は興味・関心が持てる工夫」が学科平均を下回っている。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫と反省点：授業では、自己の考えをまとめ、発表する機会を増やすことが必要であり工夫したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 授業では、指導の面で学生と接する時間が少ないので、オフィスアワーを活用した指導を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

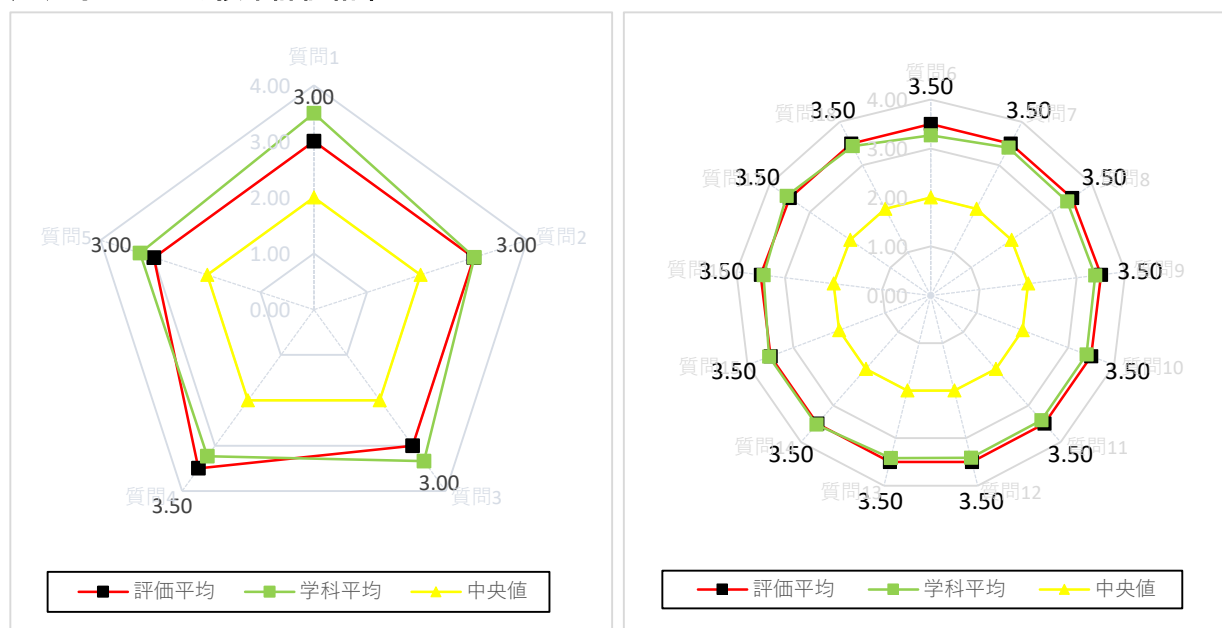
学生自身への自己評価では欠席が多いことがうかがえる。他の事項はすべて学科平均を上回っている。教員の授業への評価は学科平均と同等か上回っている。とくに授業の進む速さ、教員の熱心さは万点である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き同様の授業を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

6名中、6名から回答を得た。

学科平均と比較してみると「学生自身の授業参加態度について」の評価が全体的に若干低い値となっているが、質問4のみは平均を上回っている。

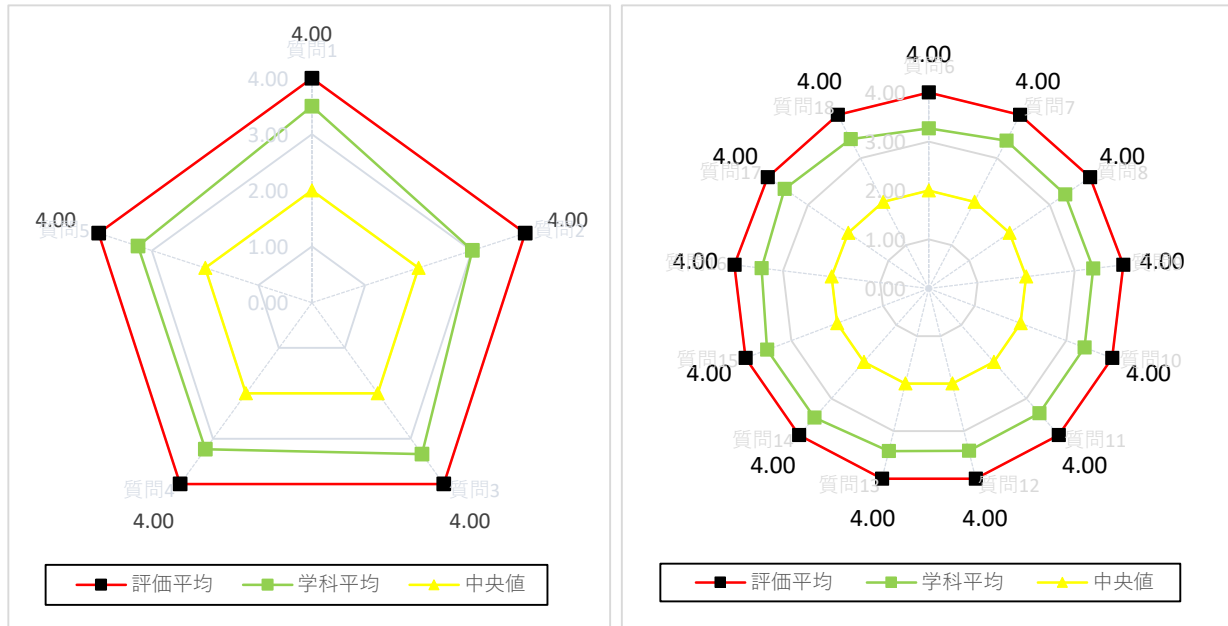
授業及び教員に関する設問は概ね平均よりやや高い評価を得ている。

(3) 次年度に向けての取り組み

現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、学生自身の総合自己評価が高まるよう学習成果が確認できるような工夫をしていくことに努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

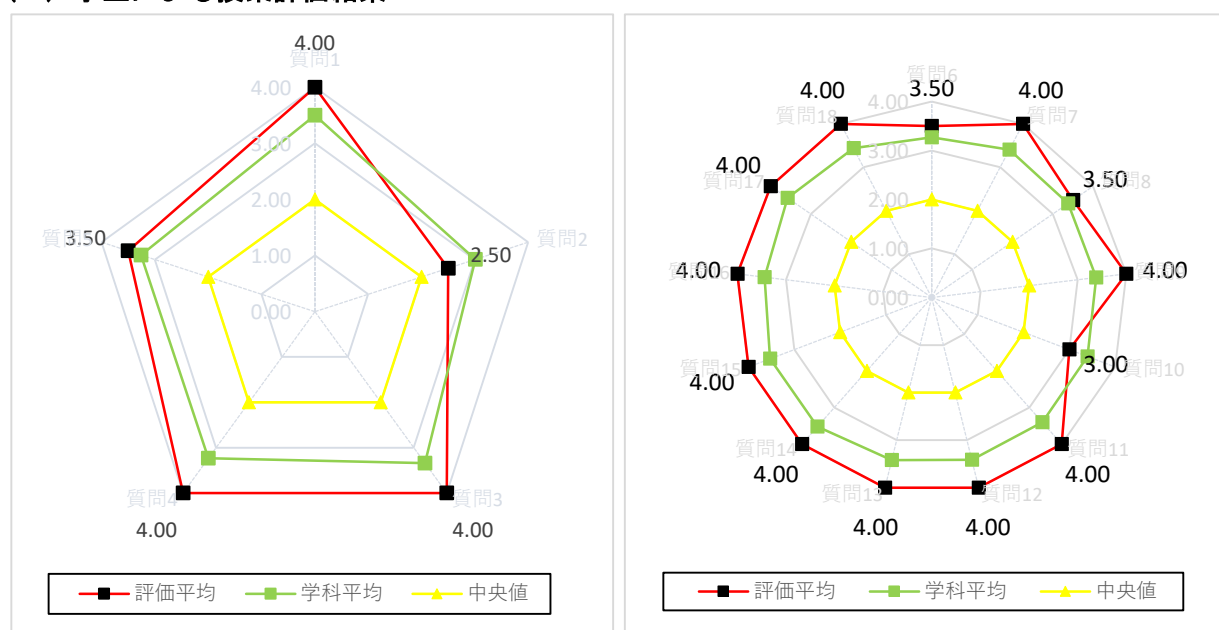
スポーツを通じた福祉活動において、活動することの喜びを感じ、積極的に実践ができたと思います。大変に高い満足度を示しており、取り組みの素晴らしさも評価したいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の満足度のレベルを高めることができるような整備をしていきたいと思っています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅡ	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

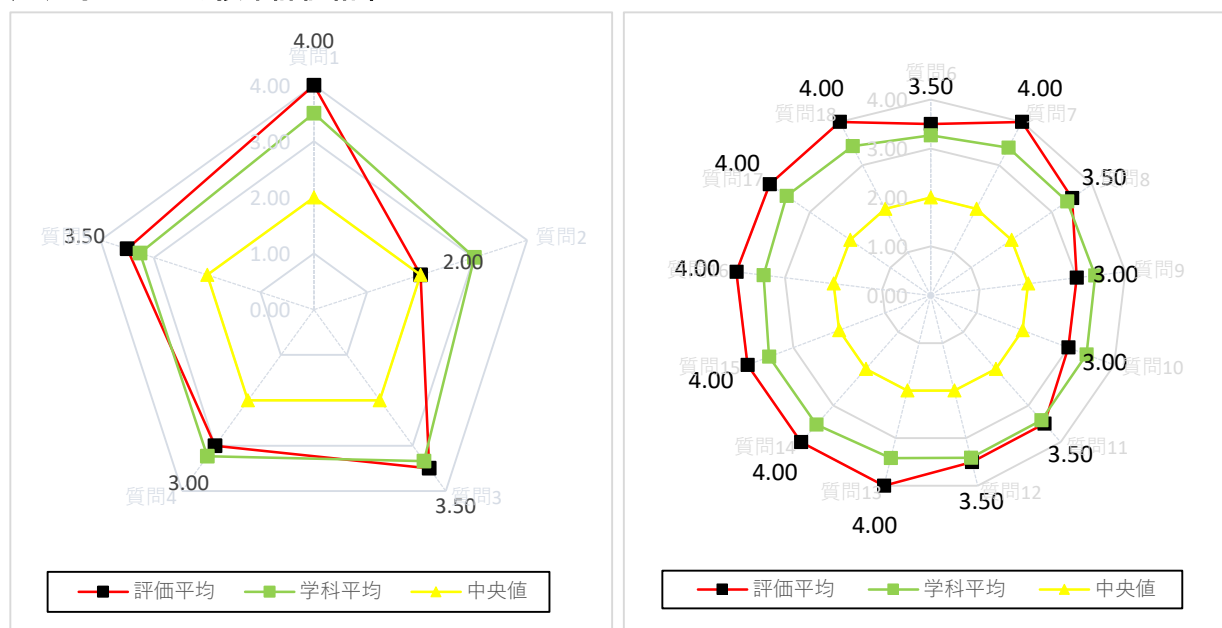
本科目は次年度開講予定の「発展ゼミナールⅢ」（卒業論文指導）の前段階として開講され、2年間で卒業論文を作成するために位置づけられている科目で科目である。そのため、「視聴覚機器や板書の使い方が適切であった」とする学生からの評価が最も低い項目であった。授業内容は講義形式ではなく、学生が自らのテーマに沿って先行研究を調べたうえで各自発表し、学生同士のディスカッションが主となる演習形式のため、先の「視聴覚機器」に関する設問が演習形式科目の性質に整合を有するとは考えにくく、講義形式と演習形式の授業内容を同じ質問肢によって問うことの限界と不適切であることが理解できた。一方、＜授業内容・方法＞と＜教員の対応＞については、各項目共に高得点となっている。これも演習形式によるものと考えられる。なお、学生自身の「シラバスを活用したか」また、教員による学生への「シラバスについての説明」という「シラバス」関係項目においては、比較的点数が低いために、より積極的に演習展開においても確認することが必要であった。次年度以降に活かしていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

＜授業内容・方法＞と＜教員の対応＞における質問について、「教科書・配布資料が役に立った」、教員の「声の大きさ・明瞭さ・話す速さの適切性」、「授業の進む進度の適切性」、教員が「学生の質問に誠実に対応した」、教員が「公平に学生に対応した」、教員は学生に対して「双方向的なやり取りをしながら、授業を進めていた」という各項目においては、満点の高得点を得た。このことから次年度以降は本各事項を意識しながら受領を進めるよう事前準備を含めて確認していきたい。同時に上述のとおり、学生自身の「シラバスを活用したか」また、教員による学生への「シラバスについての説明」という「シラバス」関係項目においては、比較的点数が低いために、より積極的に演習展開においても確認することが必要であった。次年度以降に積極的に活かしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ（含卒業研究）	8名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

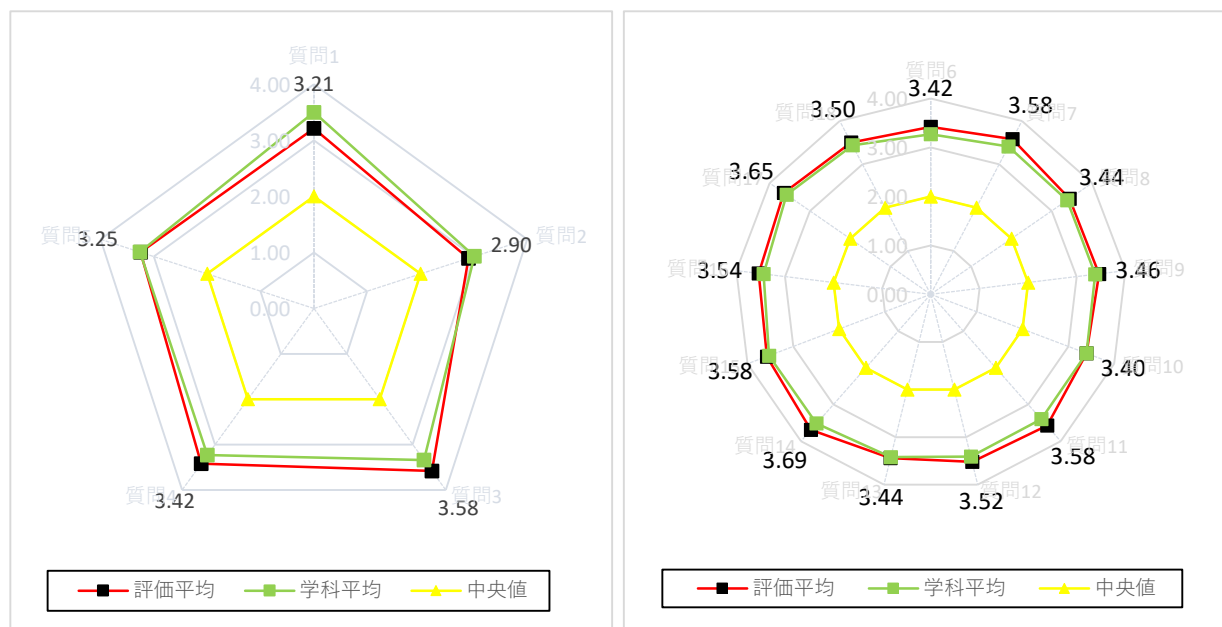
この授業のアンケート回答者が8名の履修者の2名であったことから授業評価するのは難しいと思われるが、シラバスについての質問と授業方法の質問において他の項目よりやや低い評価であった。このことは、これまでの集大成となる卒業研究の取り組みの授業のために個別指導が中心となり、卒業研究の要旨作成において文書添削の指導が多くなったことが影響しているものと考えられる。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度は授業の最初に、全体的な取り組みの内容とともにシラバスの説明等を実施したい。また、個別指導においても授業目標が達成できるよう授業改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		障害者福祉論	94名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

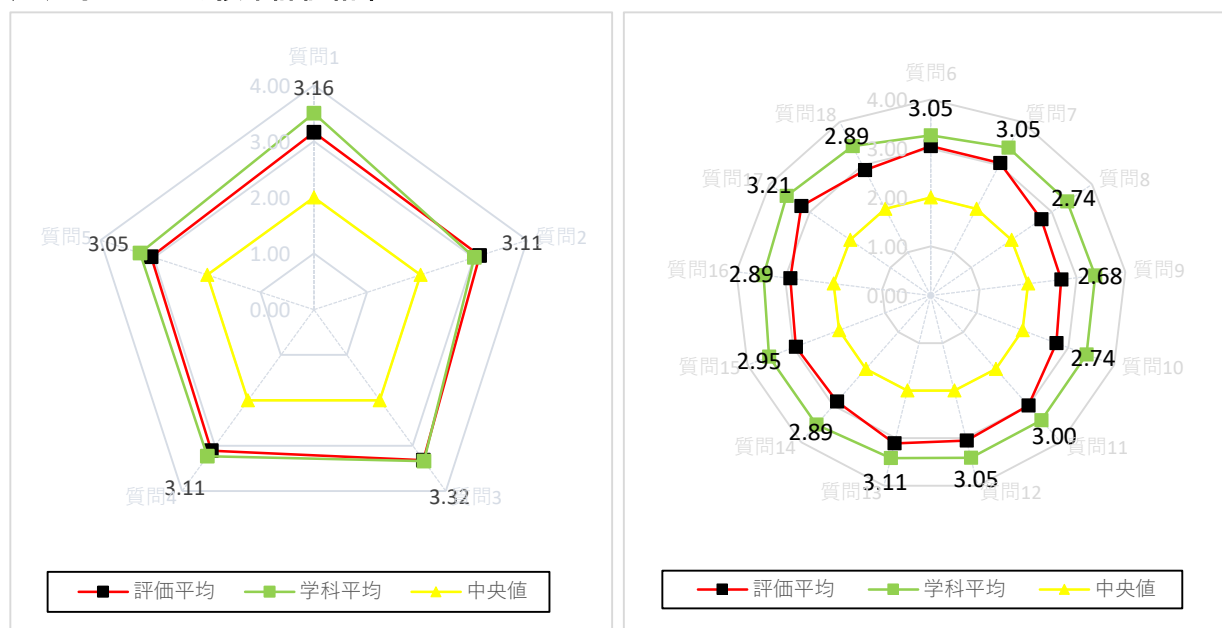
＜学生自身の授業参加態度＞について、「シラバスを活用した」とする事項は学科平均値であったが、他の項目については概ね学科平均値を上回る結果であった。特に「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組んだ」とする質問事項については、できた学生の割合が高かった。また、教員からの＜授業内容・方法について＞、＜教員の対応について＞の各項目では、すべての項目において学科平均を超えていた。特に「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していた」、「学生の質問に誠実に対応していた」の項目においては、他の質問項目よりも多少高いことが確認できたことから、更なる教材研究と学生指導に努めるよう進めていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

上述のとおり、＜学生自身の授業参加態度＞について、「シラバスを活用した」とする事項は学科平均値であったが、他の項目については概ね学科平均値を上回る結果であった。特に「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組んだ」とする質問事項については、できた学生の割合が高かった。このことから次年度以降もこれら高得点が続くように意識し、受領展開に取り入れていきたい。また、再掲になるが、教員からの＜授業内容・方法について＞、＜教員の対応について＞の各項目では、すべての項目において学科平均を超えていた。特に「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していた」、「学生の質問に誠実に対応していた」の項目においては、他の質問項目よりも多少高いことが確認できたことから、本項目においても更なる教材研究と学生指導に対して研鑽を高め、次年度に向けた取り組みを強化していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		公衆衛生学 衛生学（公衆衛生学を含む）	67名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

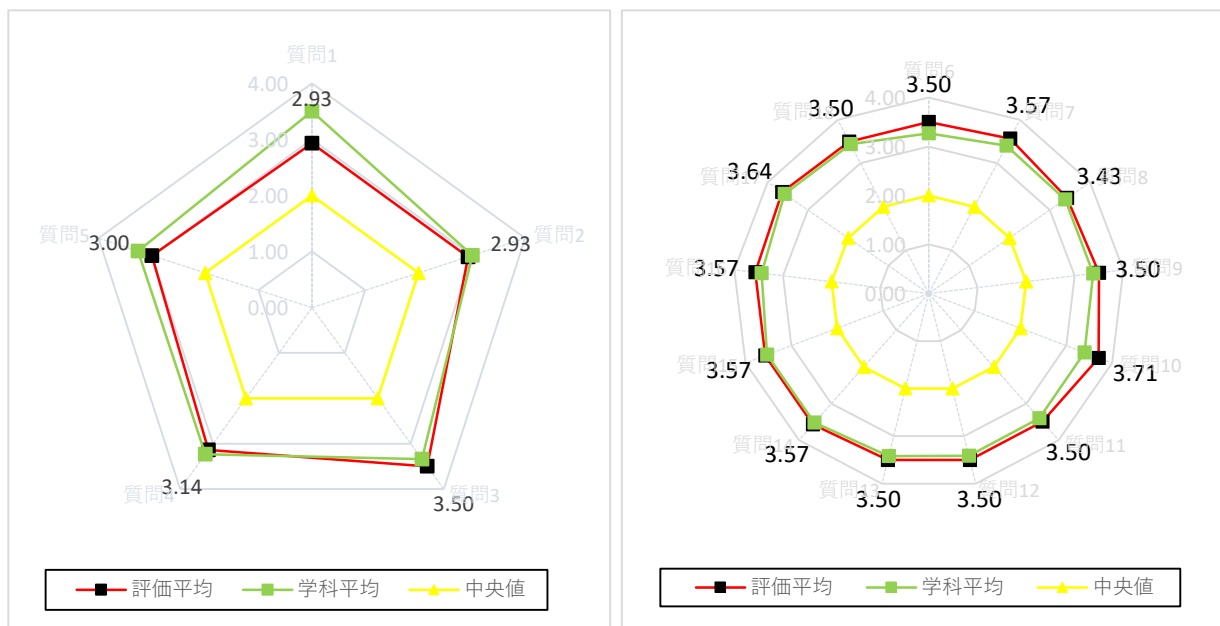
- ・ 学科平均との比較：全質問項目は、平均を下回っている。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫：授業は生活に身近な問題として捉えるようにし、毎回の授業において学習したキーワードを提示し小レポート作成を義務づけた。授業に関する質問は、レポートの欄外に設け、次週の講義冒頭に全員に向けて質問の説明を行い、疑問の解消に努めた。
- ・ 授業全般に対する反省点：授業時の資料については、教員が作成し配付によったが、衛生統計の資料が十分でなかった。

（３）次年度に向けての取り組み

- ・ 授業内容・方法の改善については、日常生活でより身近な健康に関連する内容を主として、学生自身が興味・関心が持てるようにし、地域社会の生活支援に活かされるように引き続き継続して実施したい。講義終了時にその時間の課題を学生自身で取り上げての事後学習、また、事前学習が可能ないようにするために、次週のテーマを示す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		倫理学概論	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

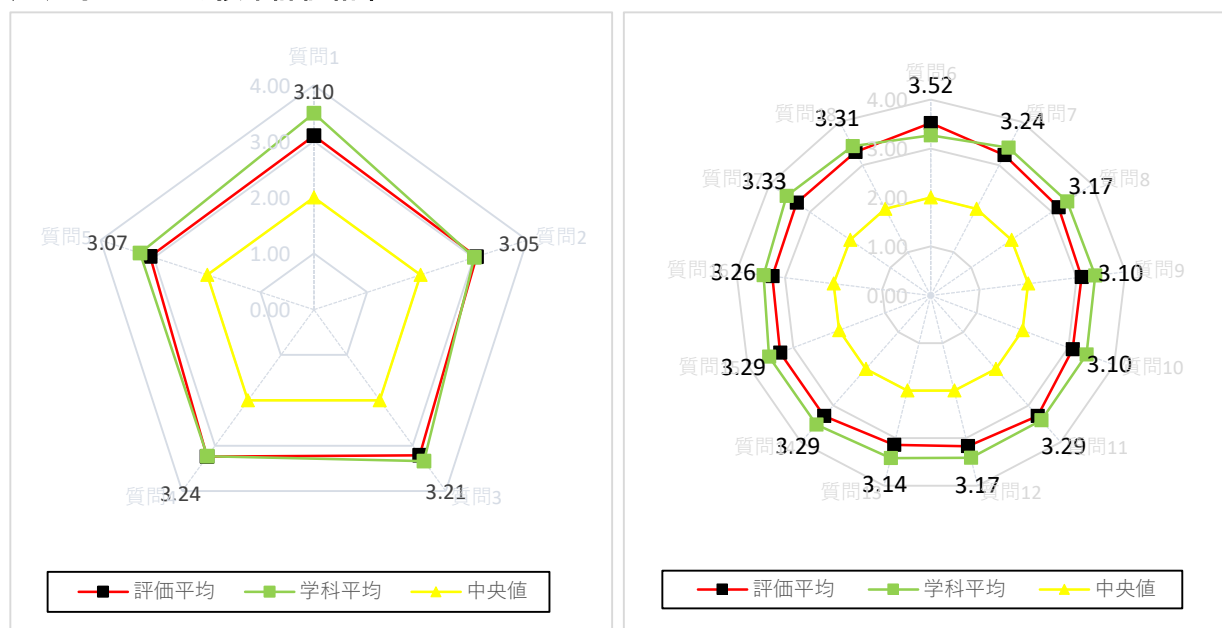
全項目で学科平均値を上回っている。心理カウンセリング学科と異なった結果であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

同様の評価を受けることができるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		高齢者福祉論	94名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

受講者94名中42名の回答。44%の回答率である。質問6以外は学科平均よりも低い。結果の分析として、中間評価で学生から上がっていた項目（PPの色・重要ポイントが多すぎる等）を修正していたが、問9について6名、問10については7名のやや不十分、不十分という結果であった。教科書・参考書からポイントを絞って伝えていたが、もっとまとめて、興味を持ってもらえるようにしていく必要がある。国家試験向けの勉強については、他教科の重なりや4年生までの期間をかけて、学んでいくことを視野に入れて進め、授業内容を精査して行えばよかったと反省する。

問13については、早く進めてほしい学生と、ゆっくり進めてほしい学生と双方に分かれている。進行については、かなりゆっくり行っただと考えシラバスどおりの授業進行ができなかった。しかし、詰め込みすぎだという指摘を2名から受けていて、状況に応じた進行とは何か、学生の意見の吸い上げの方について考えさせられた。問18を見ると、総合的には学科平均ではあることが理解できた。以上のことを総合的に考えて、それぞれの対応にできる限り添うことを心掛けたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

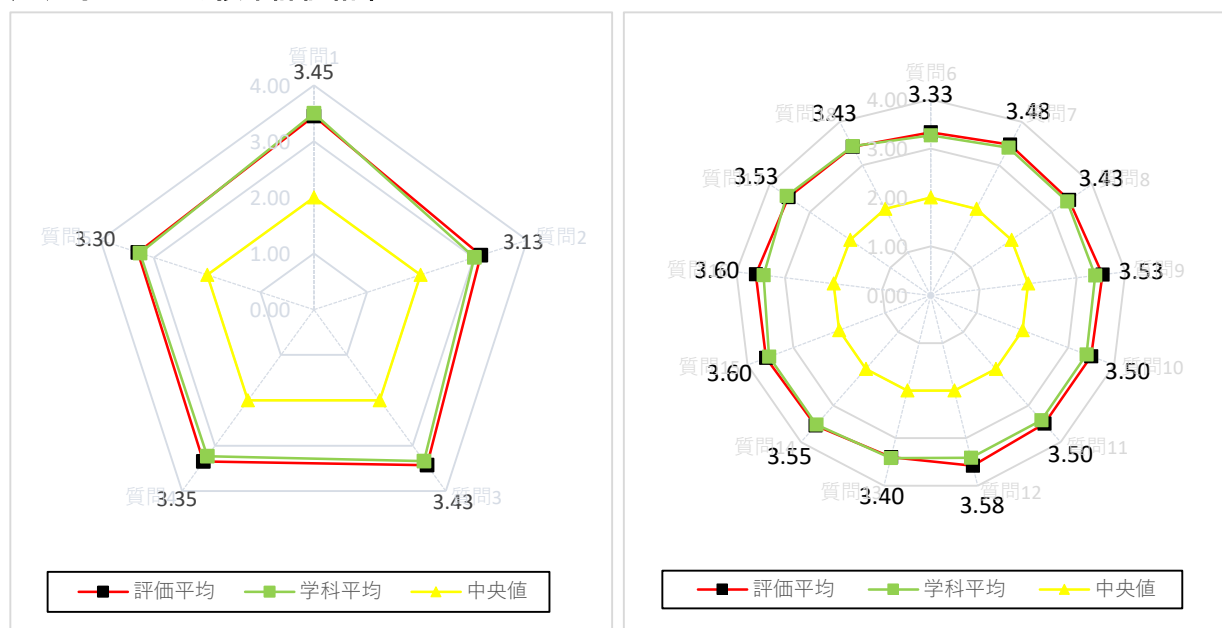
次に授業を受け持つことがあれば、国家試験に照準を合わせて教員が進めるのではなく、学生にどのように興味を持ってもらい、自らが高齢者福祉について学ぶという方向に進めるよう、授業を展開する必要性を感じた。

これは、質問18において、多くの学生は、良い、やや良いとしてくれているが、2名の学生さんが、やや悪い、悪いと示し、自由記述で「国家試験に出るところをスライド見て覚えることは不可能です。スライド全部に線が引いてどこが大切なのか全くわからない。」と1名が記載していることからである。

授業方法について十分反省をし、学生自身に、教科書を音読してもらい、自ら重要な点をまとめてもらう方法等の工夫をとることや、ポイントを再度見直し伝えていくなど、今後授業改善をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		更生保護制度	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

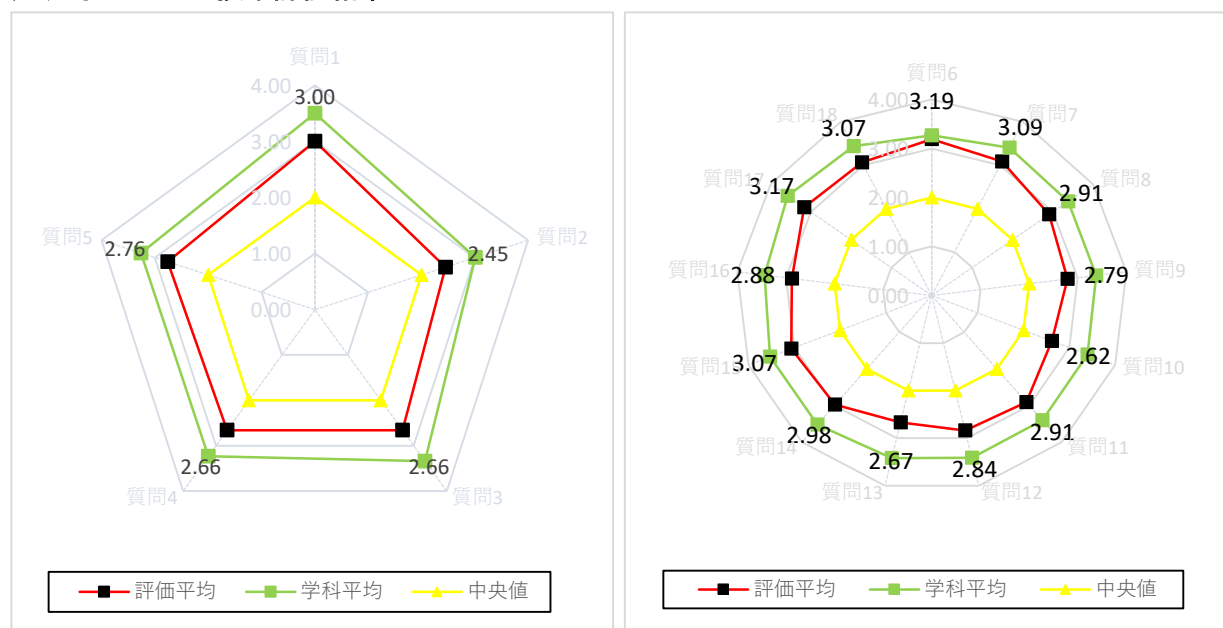
67名受講者中40名の回答。問6のシラバスについては、毎授業説明を実施していたが、6名の学生が十分理解をしていない状況であった。シラバスであることをもう少し明確に説明する必要がある。問17については各1名があまりそう思わない。思わないとし、すべての学生に熱心に取り組んでいることを理解してもらう必要があると考えた。4年生に対しての授業であり、コマ数が少ない中で、法的な用語をよく理解してくれたこと、学生自身がわからないときは、わからないと言ってくれ、授業中に理解を促すことができたのが学生の満足度が高かった理由と考えられる。また、専門職の方に来ていただきゲストスピーカーとして話をしていただいたこともよかったと考える。双方向的なやりとり、参加型の授業が学生の興味を引くのだと捉えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後授業を受け持つとした場合、専門職の方の実践的な講和を取り入れることと、学術的な部分とを重ね合わせて、学生が興味を持ち、学ぶことができる授業方法を更に深化させていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の基盤と専門職 I	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

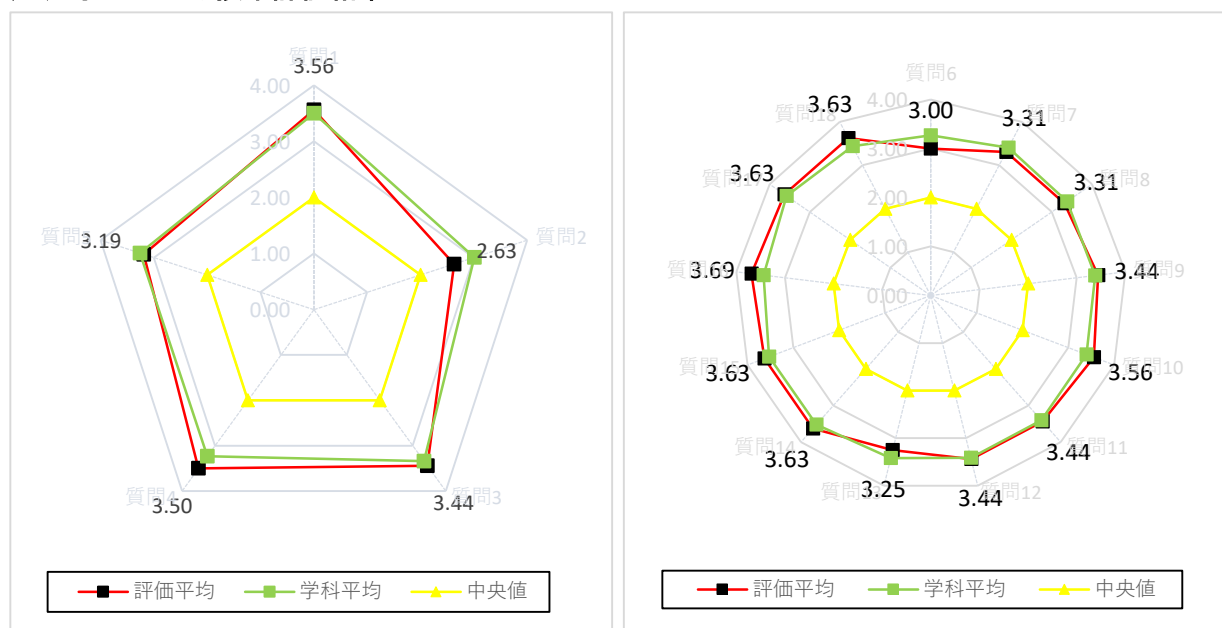
回収率について82名中58名 約70%の率であった。また、自由記述については、21の意見をいただくことできた。本教科については、学科平均と比較して非常に低い評価となった。質問6,7については、他の項目より学年平均に近づいているのは、毎回授業始まりにシラバス・授業進行状況・目標を明示していた為と考える。質問7,9については、自由記述の「1回に対する授業の内容が多すぎて頭が追いつかない時がありました。」「専門用語が多すぎて自分で大事なことの判断も難しい。」があり、十分な配慮が足りていなかったのだと考える。「中間授業評価で出た意見について改善してくださったことがありがたかった。資料が見やすかった。」という意見があり、中間評価の活用を更に行わなければならなかったと反省している。質問10に関しては、教室のPP投影時の光源等の設備に影響されていることもあり、PPの活用について、もしくは、配布プリントの文字等についても配慮が必要だったと考える。質問14~18、特に低い評価である16は双方向なやり取りを考える必要があり、授業方法についての工夫が必要だと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次に、担当を持つことがある場合は、1年生の前期ということで、専門用語についてや、学生の状況を十分把握して進めていく必要があると捉えている。教科内容が多岐にわたるので、国家試験を意識して内容を詰め込みすぎるのではなく、4年生で受験対策で内容は再学習ができると捉えて、まず興味を持つこと、学生の状況を確認して確実に理解ができるように、新聞記事や演習、学生からの意見を聞きながら、双方向での授業を行う必要があると考える。中間評価を実施した際、学生からの意見をすべて授業中に返答し、できる点とできない点を説明したが、その点については、今後も継続をし、学生自身の授業の捉え方・理解度に合わせて進められる部分を考慮した授業を実施していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の基盤と専門職Ⅱ	70名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

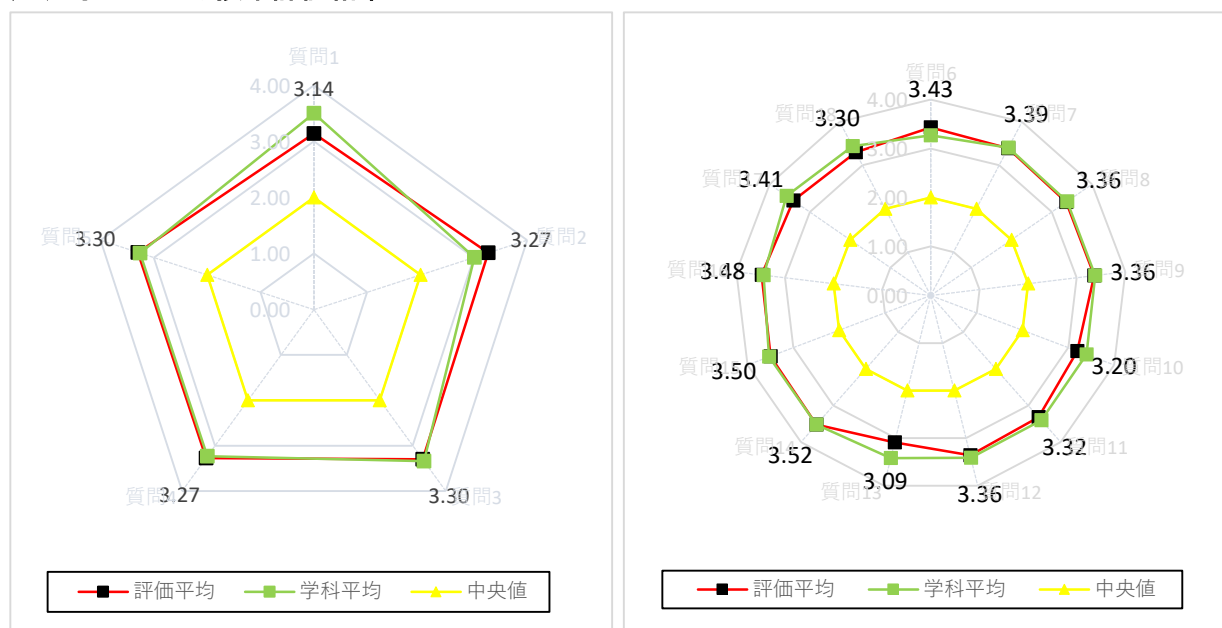
本科目において＜学生自身の授業参加態度＞については、「シラバスの活用」事項が学科平均以下であった。それ以外の項目は学科平均と同等又はそれ以上であり、特に「学生自身の総合評価」が最も高いことから、学生自らが積極的に授業に参画したことが伺える。また、教員による＜授業内容・方法＞について、及び＜教員の対応＞についての各質問事項において、教員からの「シラバスについて説明があった」の事項が学科平均以下であった。先の学生自らもシラバス活用が不十分とする自己評価をしていたことから次年度以降は「シラバス」のアカウントビリティを通して、学生への意識付けを高めていきたい。さて、教員による＜授業内容・方法＞について、及び＜教員の対応＞についての各質問事項においては、シラバス以外は各項目とも学科平均同等又は学科平均を超える評価を得た。特に「視聴覚機器や板書の使い方」、「学生の質問への（教員の）誠実さ」、「公平な学生対応」、「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行う」、「授業の総合評価」の各事項については、他の項目よりも高い得点であったことから授業の工夫点について更に検討を進めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

上述の「(2) 結果の分析と評価」でも述べたとおり、＜学生自身の授業参加態度＞については、「シラバスの活用」事項が学科平均以下であった。同時に教員による＜授業内容・方法＞についても（教員からの）「シラバスについて説明があった」の事項が学科平均以下であった。このことから次年度以降は「シラバス」のアカウントビリティを通して、学生への意識付けを高めるよう改善を試みたい。さて、教員による＜授業内容・方法＞について、及び＜教員の対応＞についての各質問事項においては、シラバス以外は各項目とも学科平均同等又は学科平均を超える評価を得た。特に「視聴覚機器や板書の使い方」、「学生の質問への（教員の）誠実さ」、「公平な学生対応」、「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行う」、「授業の総合評価」の各事項については、他の項目よりも高い得点であったことから次年度以降も引き続き本事項に改良を重ねてより良き授業展開が実施できるよう努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の理論と方法Ⅲ	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

82名中44名の回答。回答については、学生にさらに回答をしていただけるようお願いをしていきたい。質問10について6名がやや不十分・不十分、質問11について4名がやや不十分・不十分とし、PPの資料作成等に工夫が必要だと考える。

質問13については、7名がやや不十分・不十分とし、自由記述で遅く感じた1名と移転で基準をどのようにすべきか検討する必要があると考える。もしくは、すべての学生に対してどのようにフォローが行えるのかを考える必要があると捉えた。

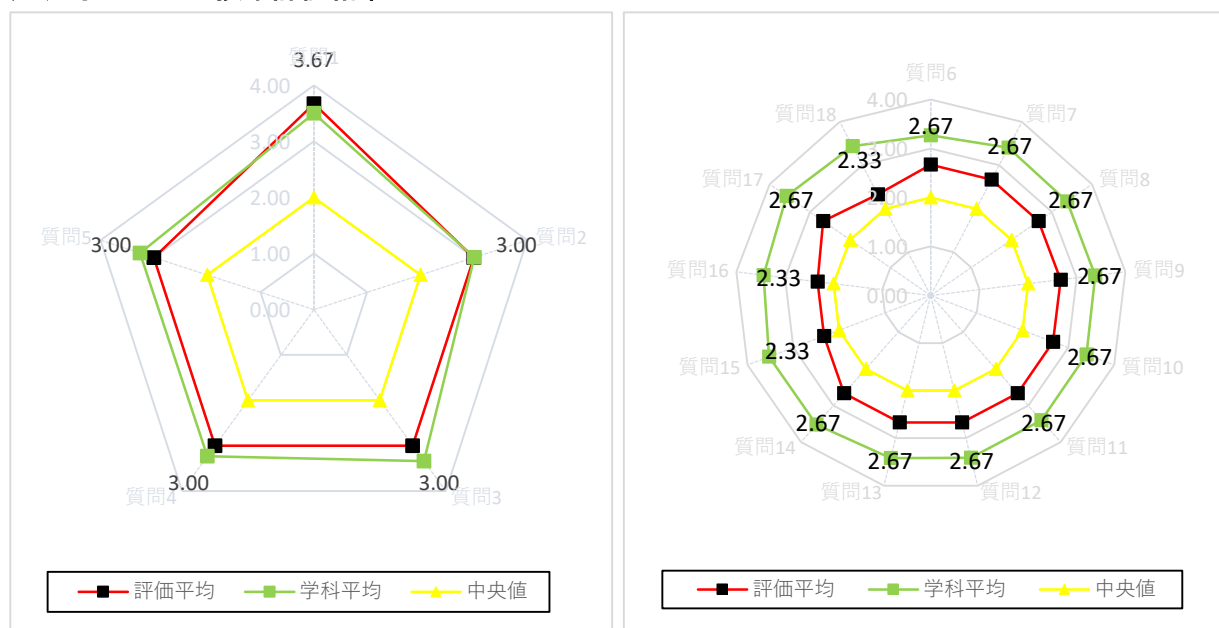
質問17については、4名が熱心ととらえておらず、何をもって教員の熱心さを学生がとらえるのか。中間評価等で学生自身から聞き進めていく必要があると考えた。中間評価では、その項目を質問していなかったのので、今後は気を付けて質問項目に入れていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後授業を受け持つとした場合、回答率を上げることを取り組んでいきたい。また、国家試験科目ではあるが、受講学生の中には、国家試験を受講しない学生もあり、その中でどのように興味を持ってもらうのかを検討していきたい。実践系の内容や時事問題を入れながら進んでいっているが、双方向の授業を実施することがなかなかできていないためその部分を更に向上させていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		相談援助演習 I	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

1年生39名が履修する教科である。本教科については、4名の教員で担当をしており、演習方式で実施しているため、各教員間で内容を共有して進めている。学生の状況についても4名で共有し、進捗及び学生状況について共有し進めている。

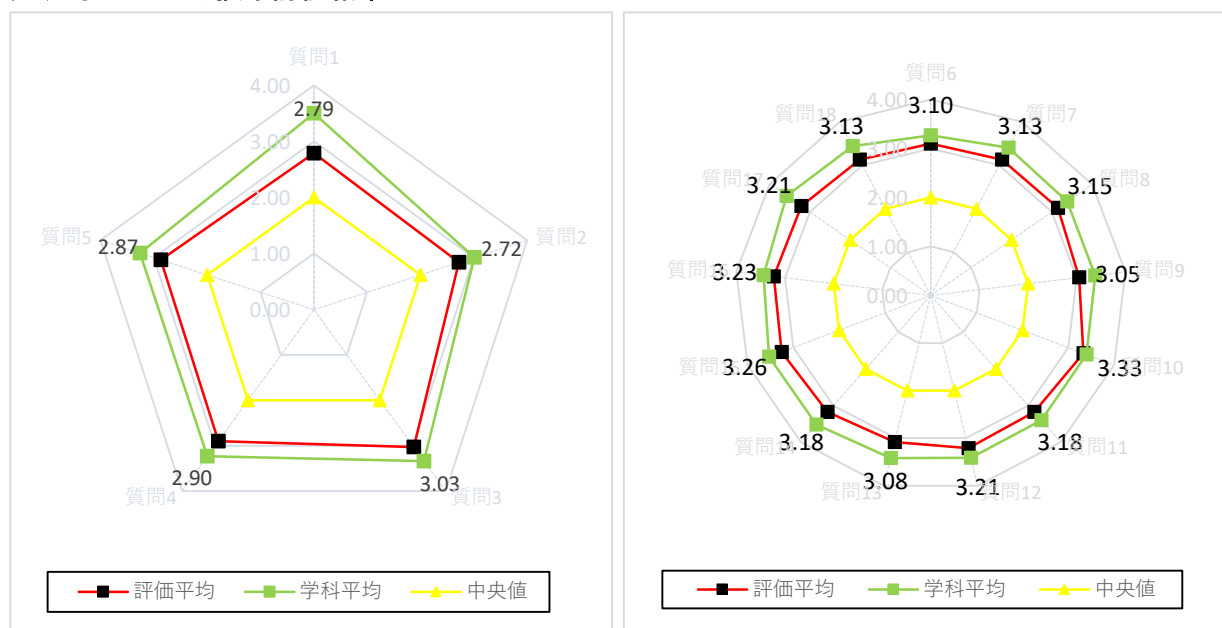
回答者登録は2名。(アンケート集計では3名となっていた。) 結果の分析については、3名中1名が質問6～18まですべて1と返答があり、結果、学科平均より低い評価となっている。2名については、4.3の評価を行っている。自由記述について、1名が「やる気のない教員ばかりでした。注意して下さい。」と記載している。結果についての分析であるが、何をもってやる気がないのか、低評価なのかを記載していただければ返答や改善ができるのであるが、記載がないため、大変申し訳ないが、記述を控えさせていただきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

登録の仕方、アンケートをなぜしているのか、自由記述の記載内容について 1年生の前期ということもあり、詳細に説明をするべきであったと考える。授業評価とは、授業内容をよりよくしていくものであること、そのために良い点・悪い点を具体的に記してほしいことをしっかり伝えていく必要があると考える。授業内容については、本教科は、演習形式で学生自身が考え実行していかなければならないということもあり、高校までの授業をかなり異なっていて、戸惑うこともあるのだと考える。学生への説明および理解度を確認しつつ行う必要があるかと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ社会学	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

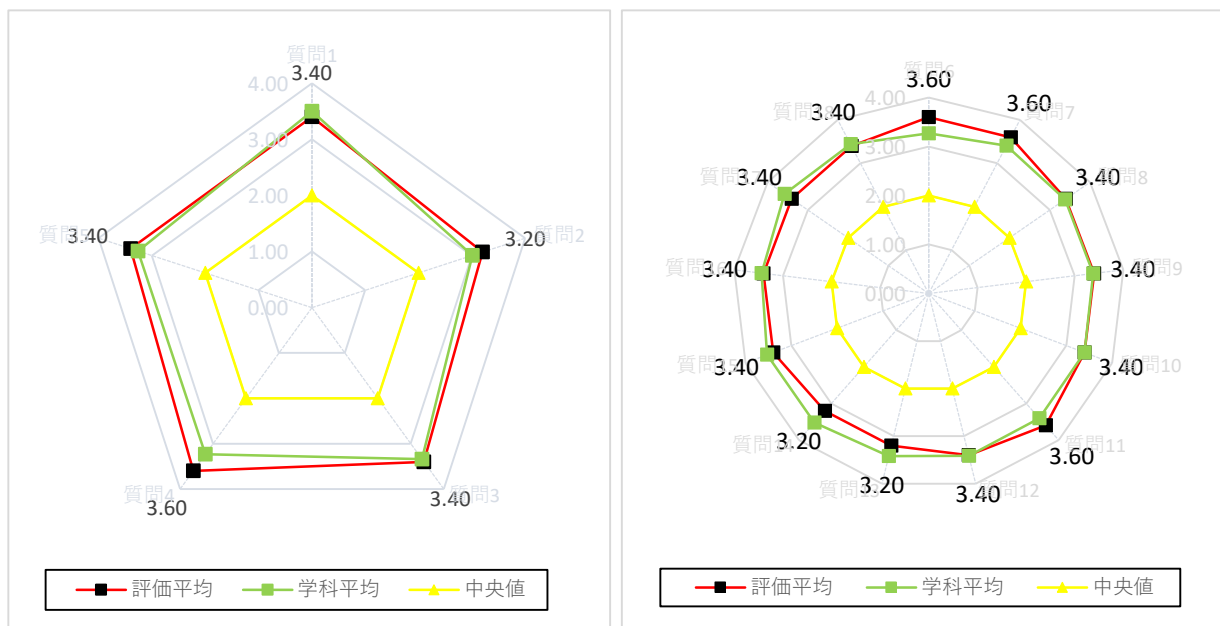
41名中、39名から回答を得た。
全体的に学科平均をやや下回っていることから、全ての面で改善が必要である。
特に学生自身の授業参加の評価が低い。

(3) 次年度に向けての取り組み

例えば、授業中の問いかけなど教員と学生の双方向のやり取りや、グループワークによる学生同士のやり取りなど、アクティブラーニング形式などをさらに意識し、学生自らが学ぶ意識を持つ仕掛けづくりを行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツマネジメント論	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

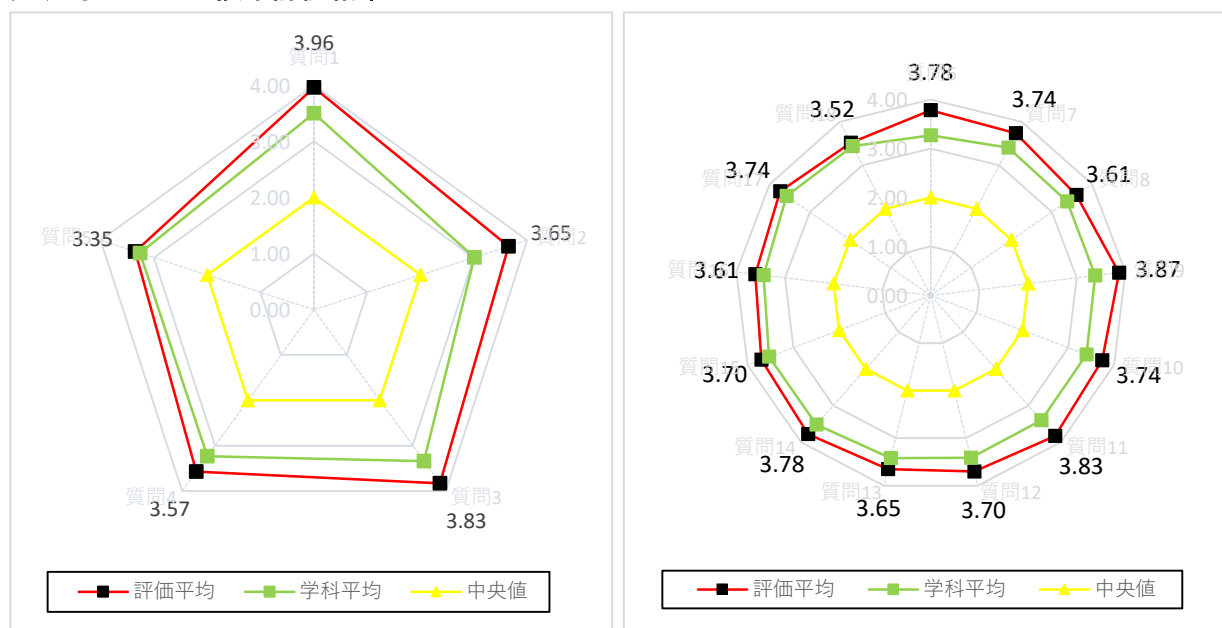
・学科平均に比べて、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」および質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」の評価が低い。つまり、授業を進めるスピードが速く、学生の理解度を確認しないまま進行している授業であったことがうかがえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・学生の理解度にあわせた授業内容を検討する
- ・学生の理解を確認しながら授業を進行する

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉援助技術実習指導Ⅱ	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

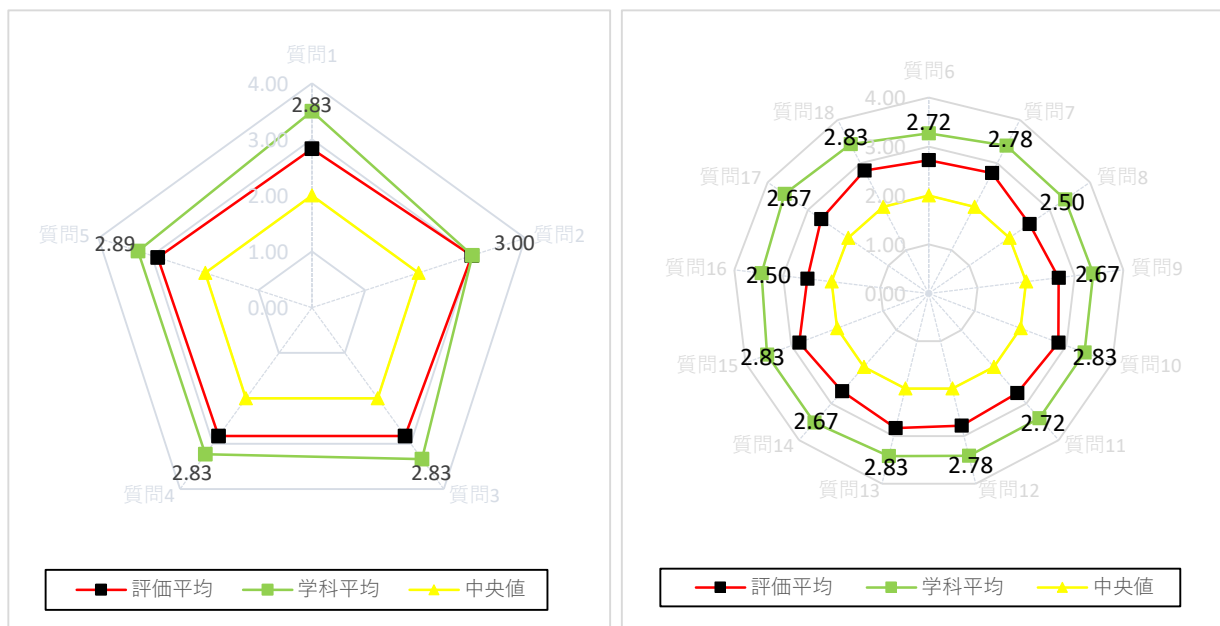
本教科は、すべての項目に対して、学科平均より高い評価である。これは、岡部先生を中心として3名の教員で体系的に講義を行っていることと、週1回の情報交換を実施し、学生の状況を把握し進めていることが、結果として高い満足度を得ているのだと捉えている。自由記述で1名の学生から「学生の質問に適切に対応してくださったり、相談にも立ち会ってくださるので、安心して実習に取り組むことができました。」と記載あり。学生が必要とする、個別の支援、体系的な内容が行かされているのだと感じている。学生が行うことが多く、双方向のやり取りも多い授業であるからだとも言える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身が成長できるよう、教員がサポートをしていけるように今後も取り組んでいくと考えます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		生理学（運動生理学を含む）	44名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

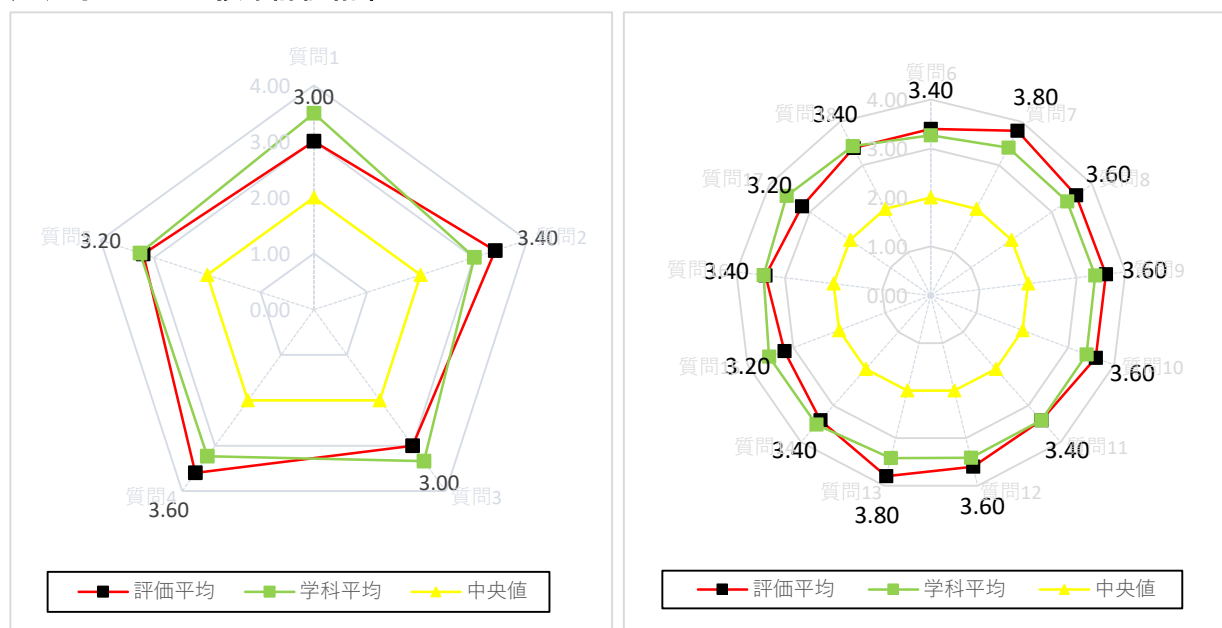
- ・ 学科平均との比較：全体として学科平均を下回っている。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫：授業は各項目をより自身の身体活動問題として捉えるようにし、毎回の授業において学習した内容を次週に繋げるために、220字以内でまとめる小レポート作成を義務づけた。また、授業の理解度確認のために小テストを実施した。
- ・ 授業全般に対する反省点：生物学を高校時代に履修していない学生への配慮が必要である。

（３）次年度に向けての取り組み

- ・ 授業内容・方法の改善については、視聴覚教材を用いて、学生自身が興味・関心を持てるようにしたい。また、生体測定演習を取り入れた授業を試みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		機能解剖学	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

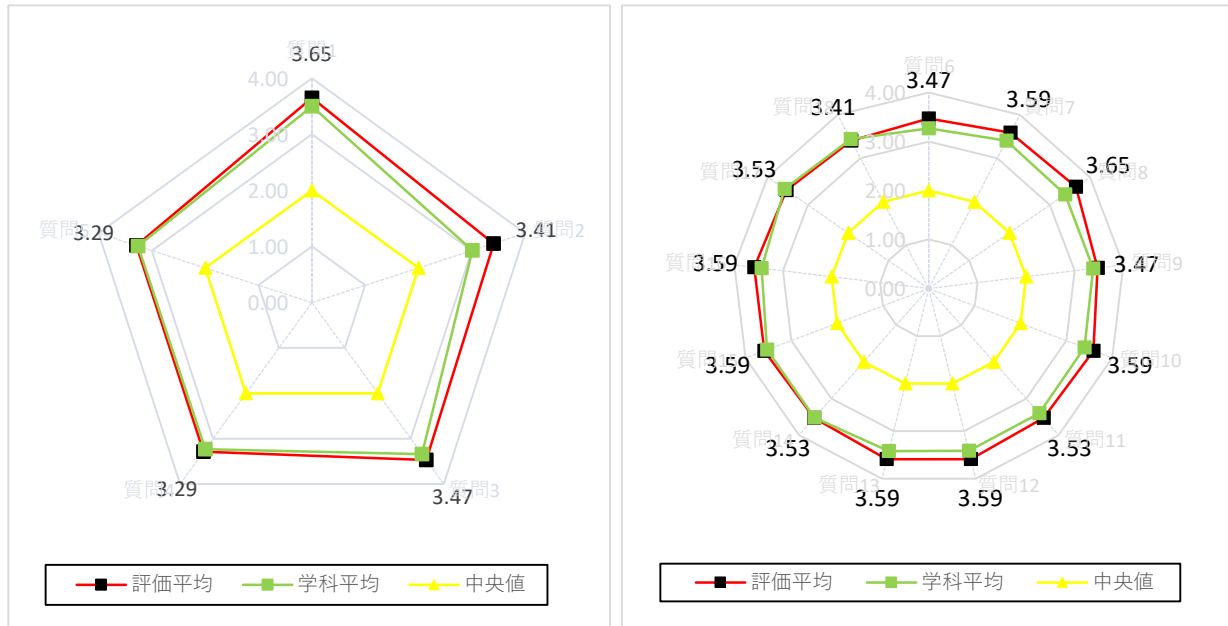
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/基礎科目(選択科目)として、1年次の後期に開講している。新カリキュラムに伴い新たに開講された科目であり、現段階では資格必修の科目ではないものの、1年生41名のうち29名の学生が履修した。履修学生29名のうち4名から回答があり、すべての質問項目において概ね学科平均と同程度の評価を得た。ただし、教員に関する質問項目について、質問15「公平な対応」および 質問17「熱心な取り組み」が学年平均を下回っていたことから、学生との関わりや授業への取り組みについて反省する必要があると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生との関わりや授業への取り組みを見直していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		多文化ソーシャルワーク	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

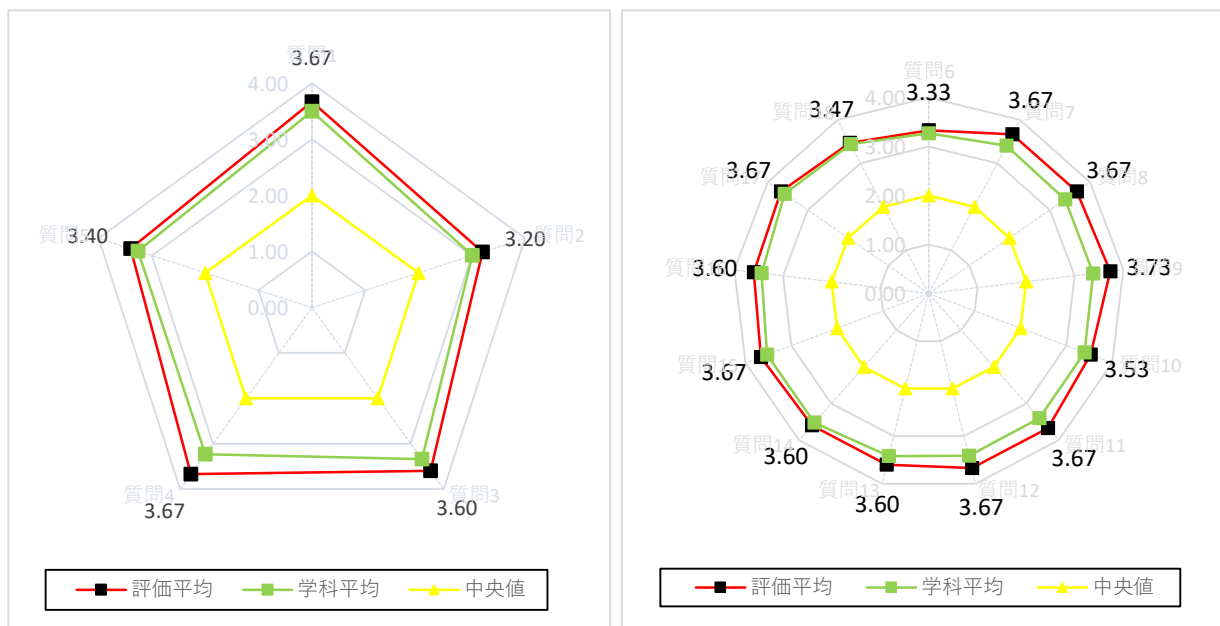
すべての項目で学科平均を上回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

同様の評価を得られるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		医療ソーシャルワーク	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

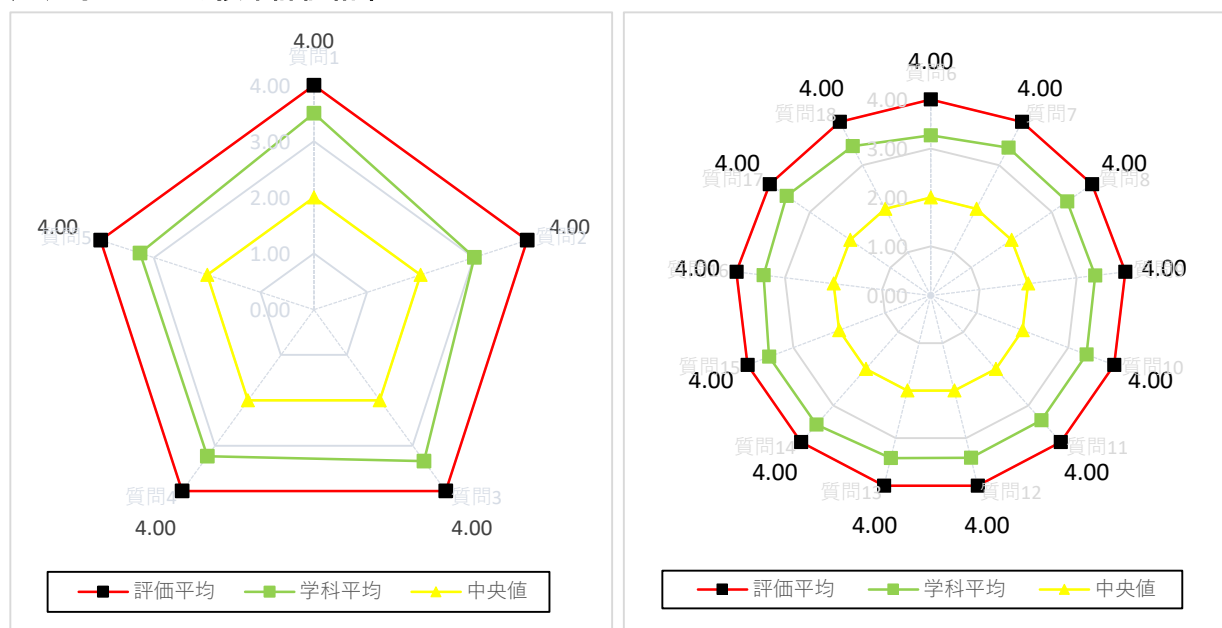
23名中15名の回答。本教科は、講義と見学実習の準備・実施・振り返りで成り立っており、学生自身が計画立案を行っている。その為、学生の満足度が高く、高評価をいただいた結果となった。実践系・双方向の講義に関しては、学生の満足度が高いと捉えている。教員としては、授業の趣旨や方向性、学生をどのように目標達成に持っていかにかに主点を置き導いていった。また、4年生ということもあり、内容がしっかり理解でき専門的な領域を学べる準備ができているからよかったと考え、学科カリキュラムマップが導いてくれた結果だと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後、授業を受け持つ頃がある場合、すべての学生が、良い。満足。とは言えない。自由記述にも記載がないため、少し良い。少し満足。の部分について、どのような点であるかがわからないが、今後改良を重ねていく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		専門演習	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生自身への評価（質問 1～5）は、私も本評価と概ね変わらない評価です。国家試験前という忙しい時期に熱心に講義には参加し、演習にも積極的に参加し、質問などもみられた。少人数学習であったこと、4年生で専門家意識の高い熱心な学生が履修していたこと等から演習としてしっかりと集団思考、集団演技など幅広い演習が出来たと考える。

しかし、授業内容に関する評価（質問 6～18）については過大に評価してもらっていると思います。本評価と教員自身の自己評価も近づくように取り組んでいきたい。具体的には次の「次年度に向けての取り組み」について取り組みたい。

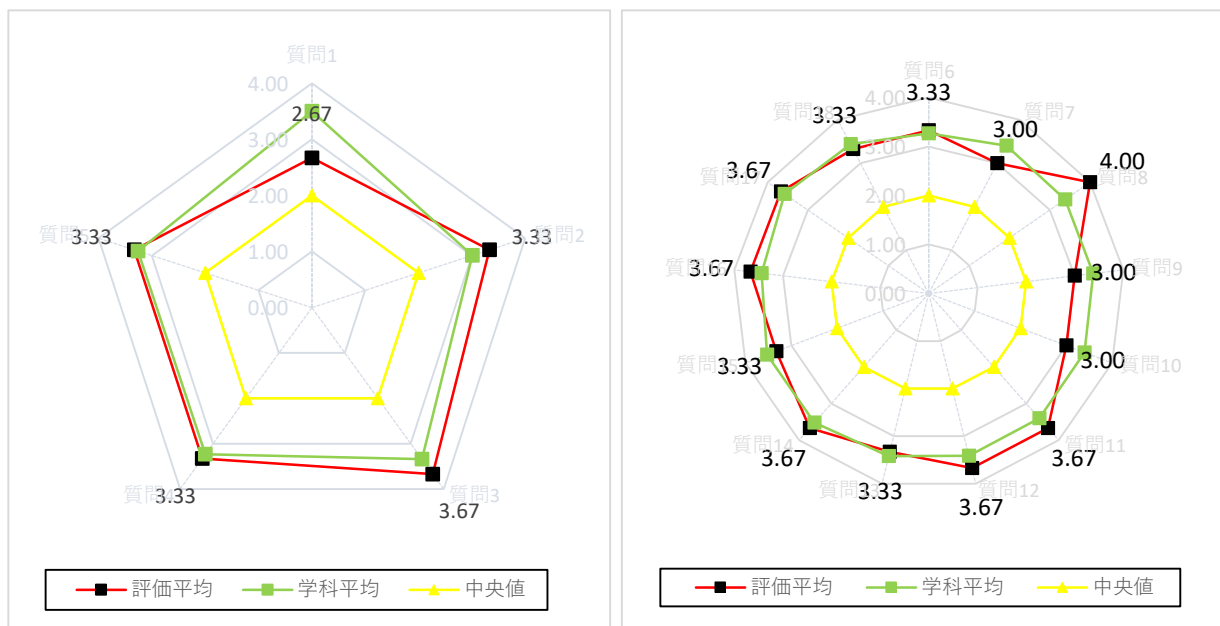
(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 演習は集団の関係性や活動の構造化が必要であることから、集団づくりのため本演習に入る前に導入でアイスブレイクを入れたり、これまでの自身またはメンバーの経験を共有する時間の確保や当該単元の内容と受講生のこれまでの経験とに関係づけた説明などを心がける。

- ・ 授業計画については、シラバスの作成をしていたが、順番や内容は、受講生の進路としての興味やこれまでの学習で復習をしたいところ、新たに学んで欲しいところなど学生と協議しながら内容を考えてきた。受講生が少ない場合はこのような取り組みも継続したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		生涯スポーツ論	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

受講生21名中、3名のみからの回答。

回答者が少ないことからあくまでも参考として捉える必要がある。

まずは、学生自身の授業参加態度は学生の出席状況が学科平均を下回っているが、全体的に高い値が示され、授業への参画度は高いことが分かる。

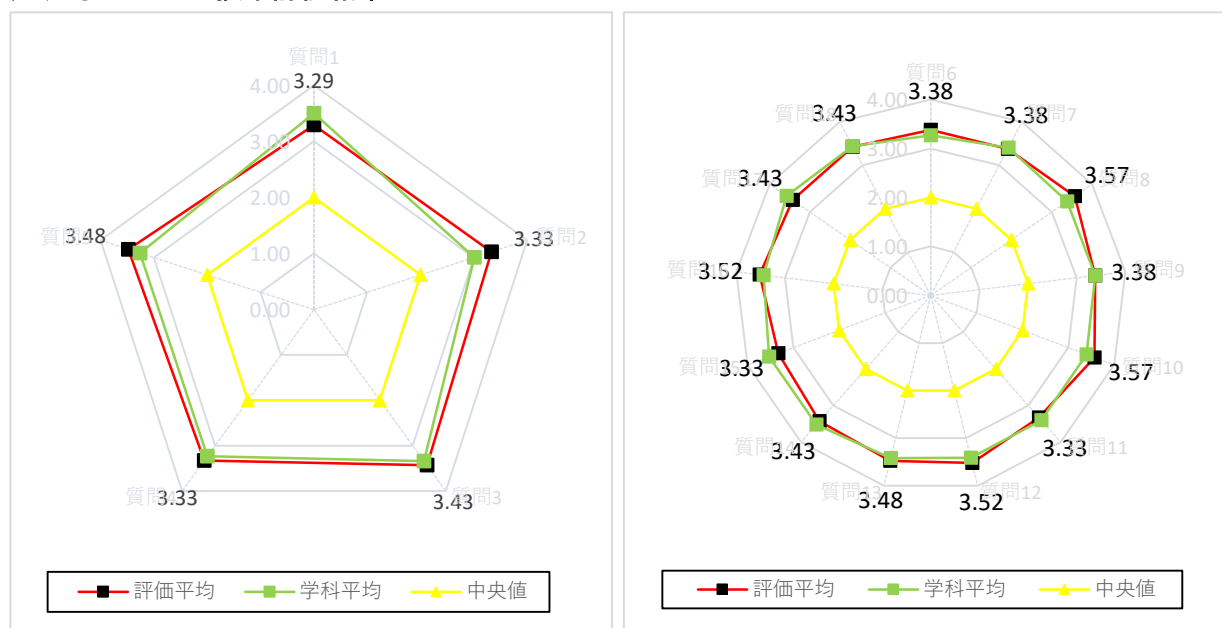
授業内容・方法と教員の対応については、質問7のシラバスの説明、質問9の授業の工夫、質問10の市長学機器や板書についての3つが学科平均より低い値であったが、他の項目については平均と同等もしくはそれ以上の評価が得られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

テキストを中心に進める授業形式ではあり、興味関心は持てているようだが、理解を促す工夫が伝わっていないようであるため学生目線での説明と理解度を確認しながら進めるようにする心掛ける必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		教職論	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

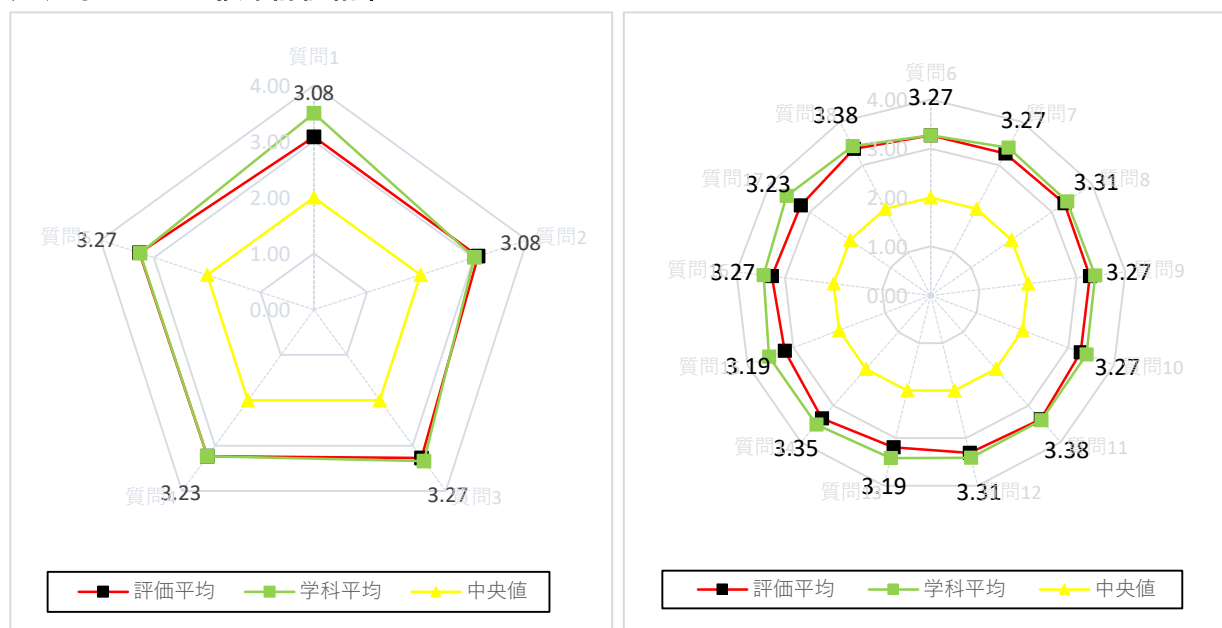
今年度はこれまでやっていなかったグループワークを導入しました。大人数の講義型でグループワークはやりにくい部分がありましたが、学生の学びを深められたと考えています。また、ワークシートの添削にも力を入れました。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は今年度よりも受講生が増えるので、さらに授業方法に工夫が必要かと思います。それぞれの学科の学生の特性に合った（最大公約数の）ような授業づくりを心がけたいと考えています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		教育制度論	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

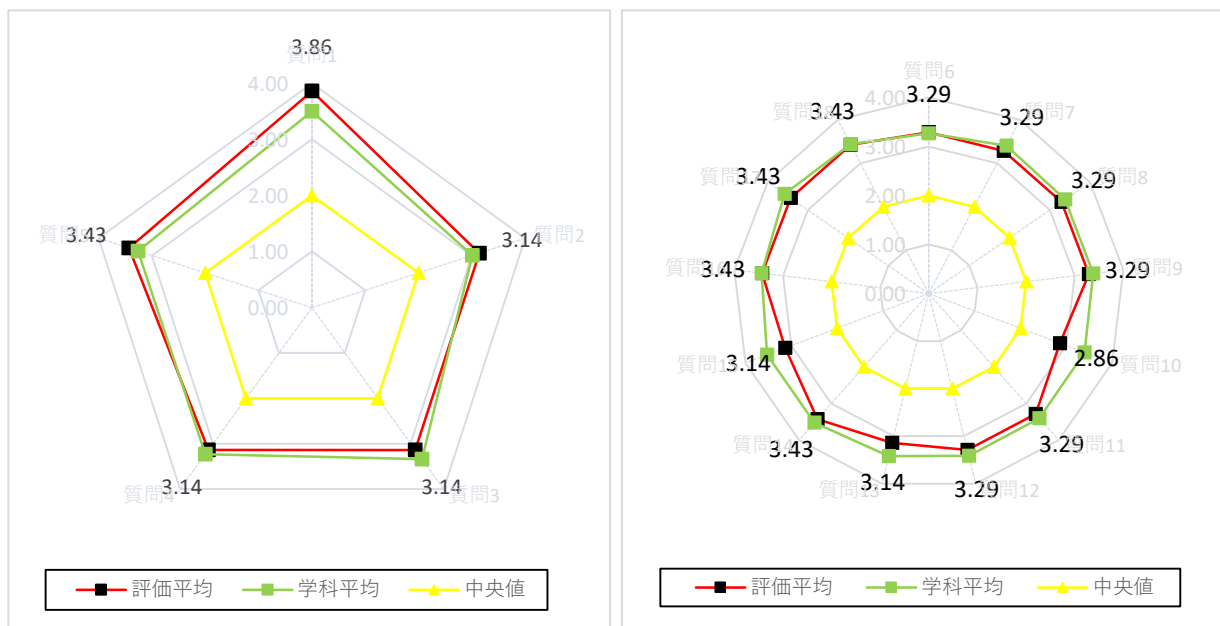
今年度はこれまでやっていなかったグループワークを導入しました。大人数の講義型でグループワークはやりにくい部分がありましたが、学生の学びを深められたと考えています。また、ワークシートの添削にも力を入れました。私としては授業準備や添削などにかなり時間をかけて力を入れているつもりですので、公平性と熱心さの評価が低いことに関しては理由がわかりません。次年度の授業を進めながら、原因を見つけて改善策を考えてみたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は今年度よりも受講生が増えるので、さらに授業方法に工夫が必要かと思います。それぞれの学科の学生の特性に合った（最大公約数の）ような授業づくりを心がけたいと考えています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		教育課程論	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

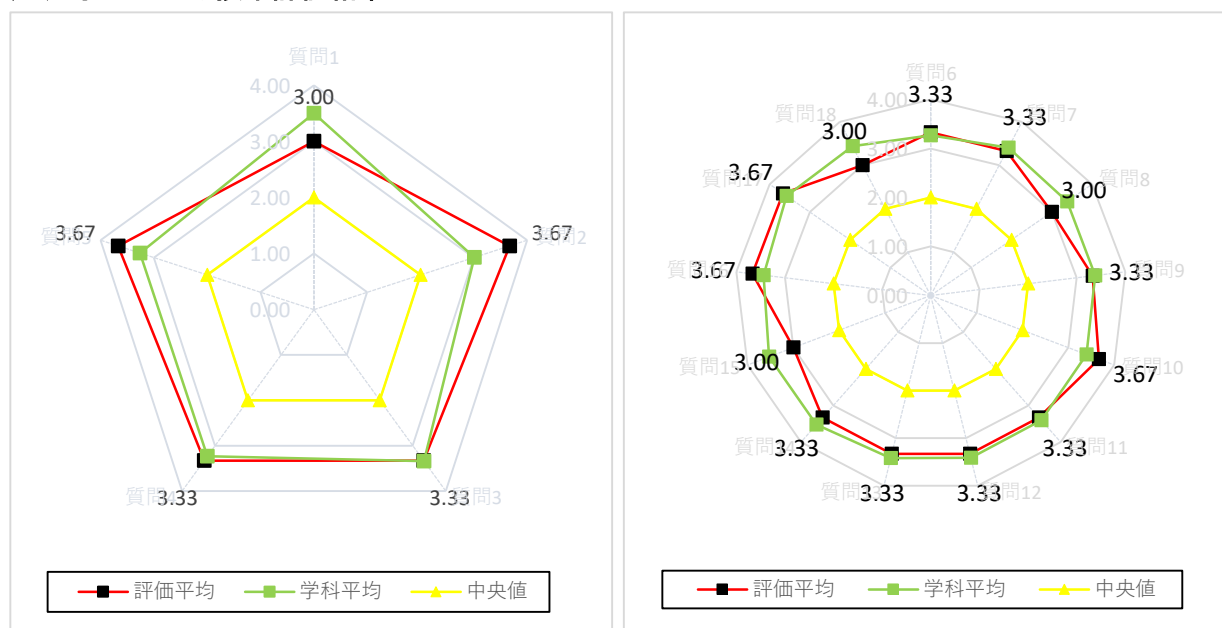
回答者は41名中7名である。全般に、自己評価も授業のやり方についてもまあまあの評価である。学生の授業参加の評価はよく、授業のあり方もある程度の水準を確保できたように思う。学生はまじめによく授業に参加した。人数も多くなく、大変楽しい授業であった。学生の授業への協力を得られたことが何よりであった。専門や興味の大きく異なる学生への授業であるため、どこに照準を合わせるか、苦勞した。それにしても良い評価をもらったと思うので、自己省察を厳しく行っていくようにしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も、複数の学科の学生を対象に行う授業であることに配慮して、学生の主体的な参加を中心に、学生と協力・協議しながら、授業のやり方を工夫していく。また、学生との信頼関係の構築にも努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習 1 1 (アダプテッド・スポーツ)	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

受講生15名中、3名のみからの回答。

回答者が少ないことからあくまでも参考として捉える必要がある。

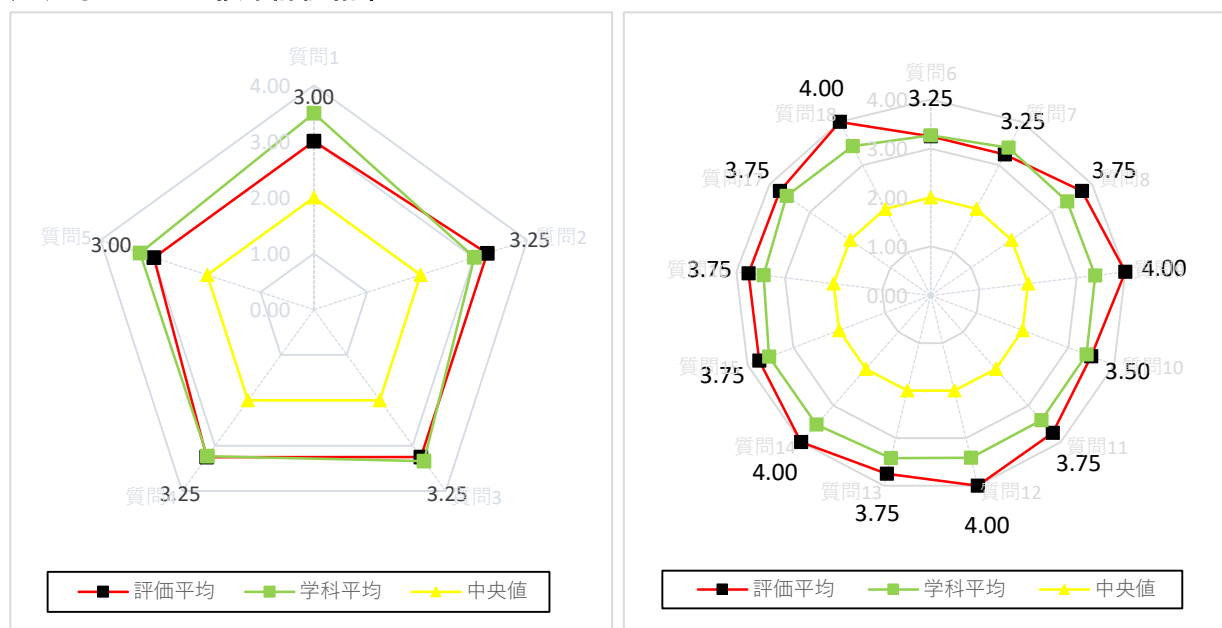
演習科目は相対的に高い評価が得られる科目であることを前提に分析する必要がある中で、学生自身の総合自己評価とシラバス活用項目が学科平均より大会値を示した。授業内容・方法では、質問8の興味・関心もてる工夫、問15の公平性、質問18の授業総合評価が平均を下回る結果となっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の発表形式による授業展開を主な進め方にしているが、準備の段階で今よりもう少し介入してアドバイスするようにしたい。授業評価の低さは公平性への評価に影響されている可能性が大会と見ている。なお、公平さを欠く態度で授業展開しているつもりはないが、サークル所属の学生などとの何気ない授業中の会話等が誤解を生んでいる可能性があるため、授業中とその他のメリハリをつけるように意識したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		認知症の理解Ⅱ	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

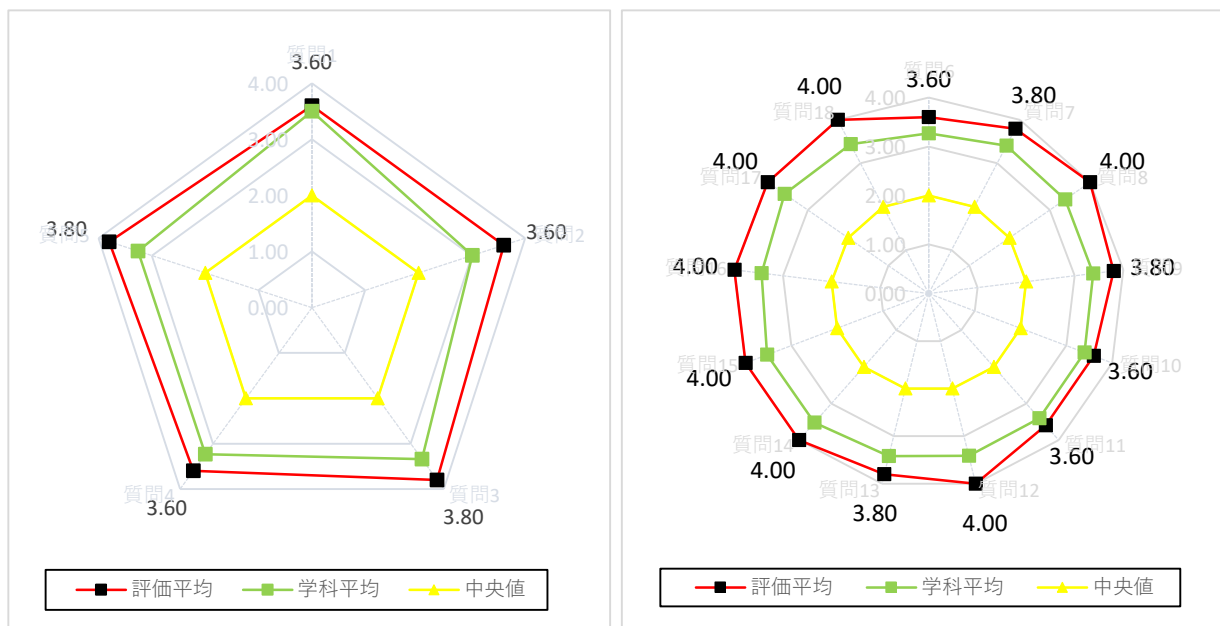
質問1～5については平均もしくはやや低い項目があった。質問6～18については平均より高いもしくは平均に近い項目も見受けられた。平均に近い項目としてはシラバスおよび到達目標に関する説明であった。授業の1回目において、Webシラバスにさらに加筆したものを作成、配布し、到達目標についても「考えることができる」「説明することができる」という目標について区別があることを説明したが、その事実が学生には理解できなかったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

科目全体の授業目標にとどまらず、毎回の授業の目標を明示して理解を促す必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習 1（体づくり）	33名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

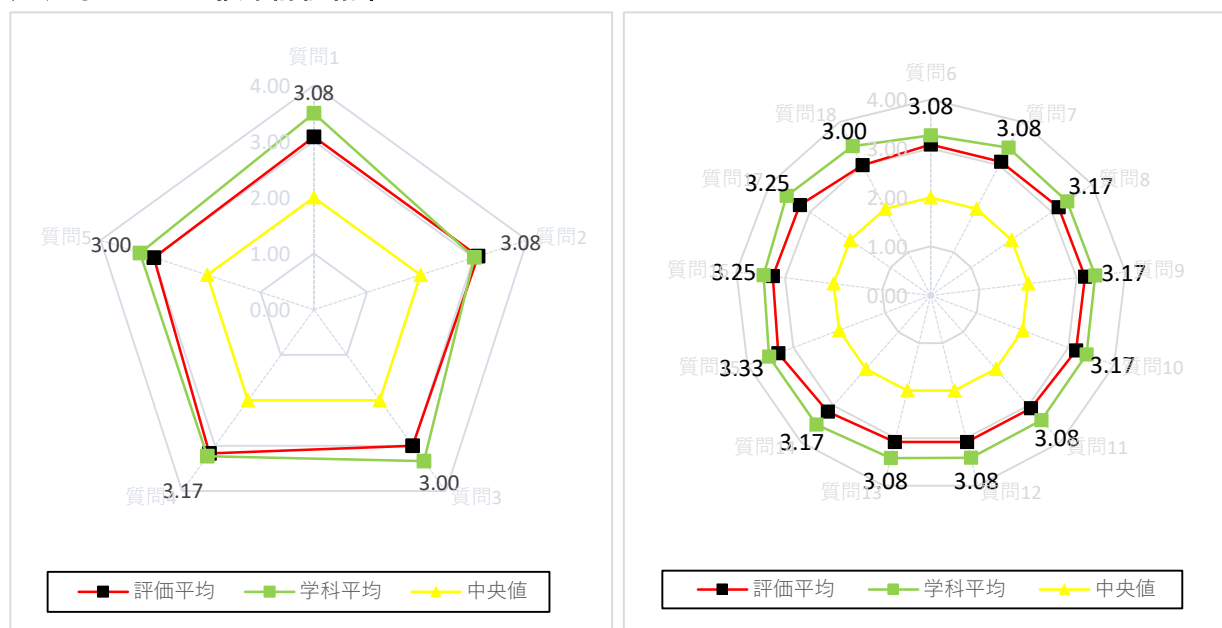
本授業においては、調べ学習や課題解決型のスタイルを仕込むことで、学生自らが積極的に協力しながら活動することができました。概ね満足のいく授業であったと思います。

（３）次年度に向けての取り組み

アクティブラーニング的な手法をさらに仕込むことで、グループや個人においても学び方について考えながら実践できるようにしたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動処方	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

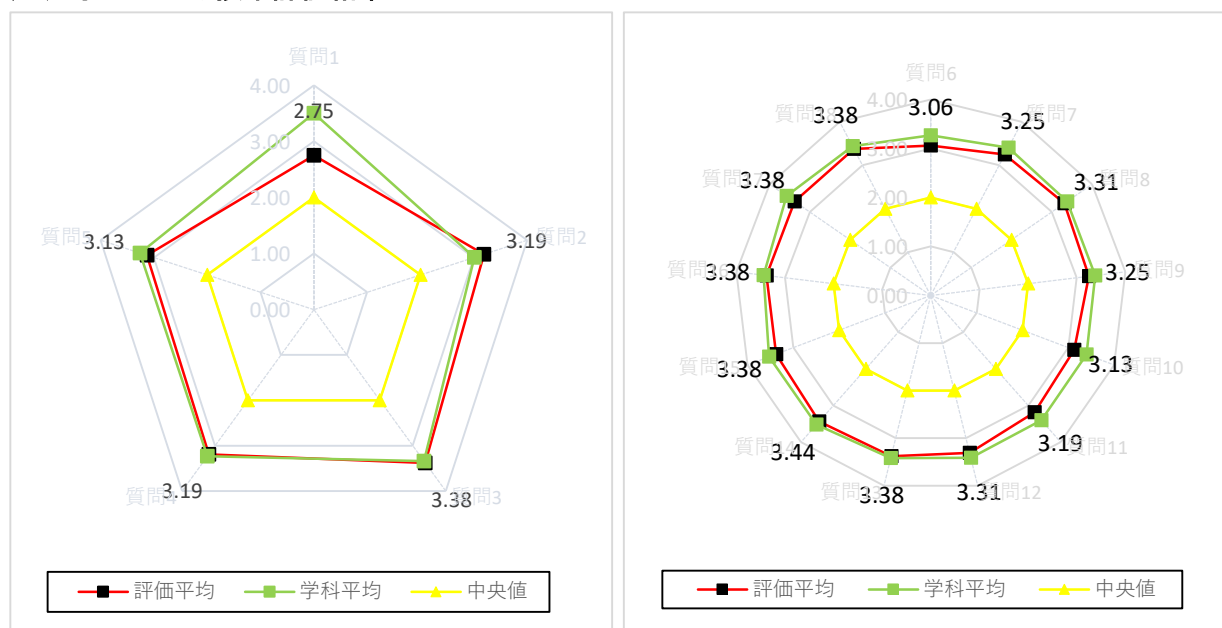
一部の質問において学科平均を若干下回るものがあるため、今後の課題として捉えておきたい。
 学生は1?2年生で学んだはずの知識が十分身につけておらず、特に生理学・解剖学・トレーニング学などの基礎知識不足が危惧され、
 学科として2年生までのカリキュラムと授業の見直しを図っていただきたい。
 また授業態度が悪く集中力に欠ける学生が多いため、他科の学生よりも余分なエネルギーを使わなければならない。
 一人一人が授業に参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にも音読させたり、小テストの答えを発表させ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。
 講義室等で実施可能な範囲で測定演習を取り入れ、実体験としての理解を促すよう工夫した。
 私個人としては、基礎知識の土台がなく授業への集中力に欠ける学生に対処することにおいて負担感の大きい授業であったが、前期後半には学生の態度も改善が見られ成長を感じることはできたのが救いであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習2（器械運動）	41名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

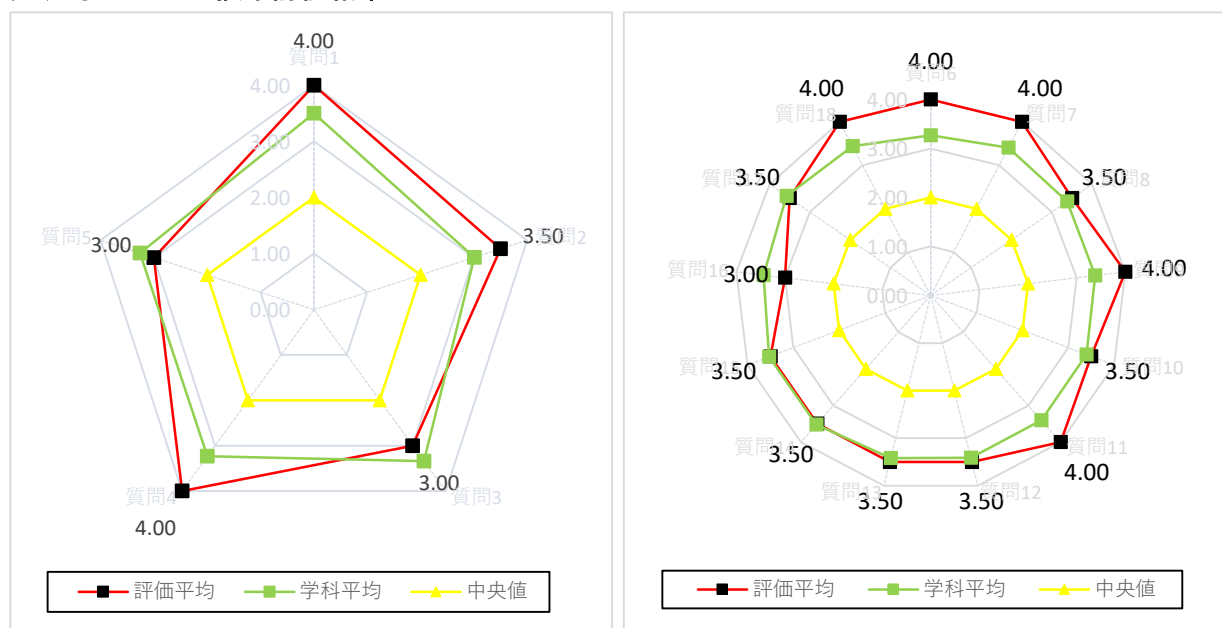
教職を目指す学生にとって必修となる科目ですが、自身の技能を高める目的と活動に対する安全意識の向上や練習に折れるコミュニケーション能力の向上を狙っており、学生たちは満足のいく授業実践ができたと思います。

（３）次年度に向けての取り組み

安全な場づくりと安全意識を高める授業づくりをさらに強化し、本授業で目指す数々の意味を理解させながら取り組ませたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動負荷試験	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

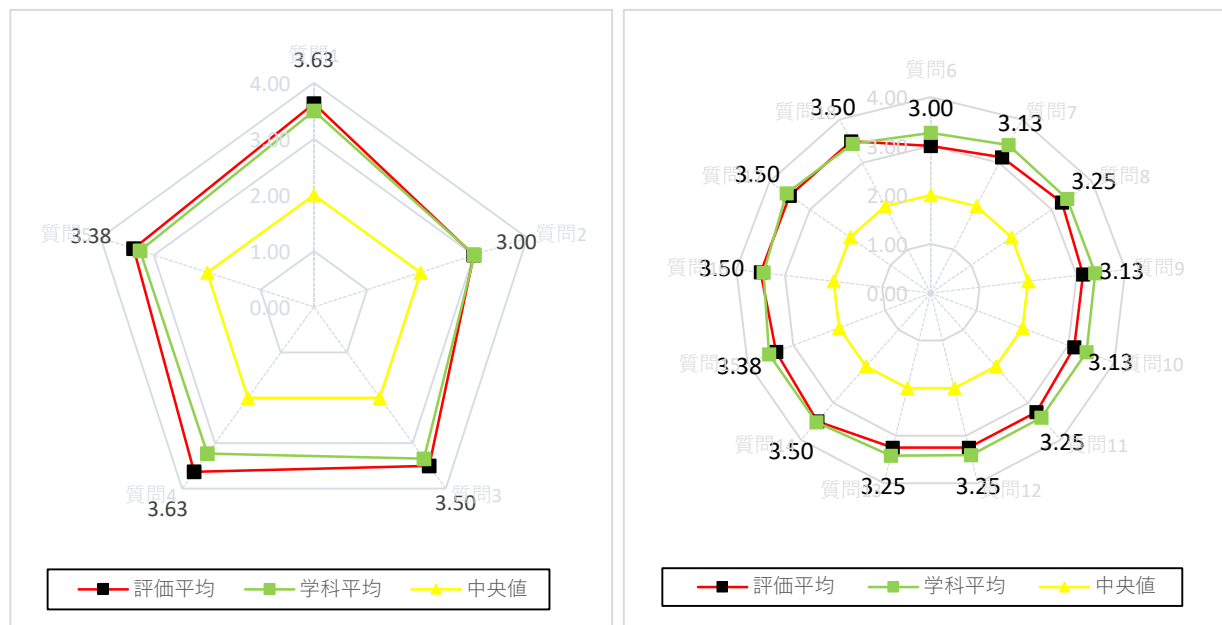
ほとんどの質問において、学科平均を上回る結果を得ている。
 運動負荷試験では、大学で一部の講義を行い、ライフスタイル医科学研究所において運動負荷試験実習を実施した。
 3種類の運動負荷試験について、学生を3グループに分け、1回の実習に半日を使い、3コマ分の集中講義として実施した。
 学生の中には外部での実習と重なって、日程調整ができない場合も生じた。
 運動負荷試験実習を通じて、学生相互で役割を交代しながら、様々な測定を体験してもらうことができた。
 運動処方についての理解も深まると同時に、より実践的な学習ができたと思われる。前期に比べて、学生の授業態度も改善が認められ、クラス全体で授業に参加する雰囲気が認められるようになった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、専門職としてのスキルを習得させ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教職実践演習（中・高）	25名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

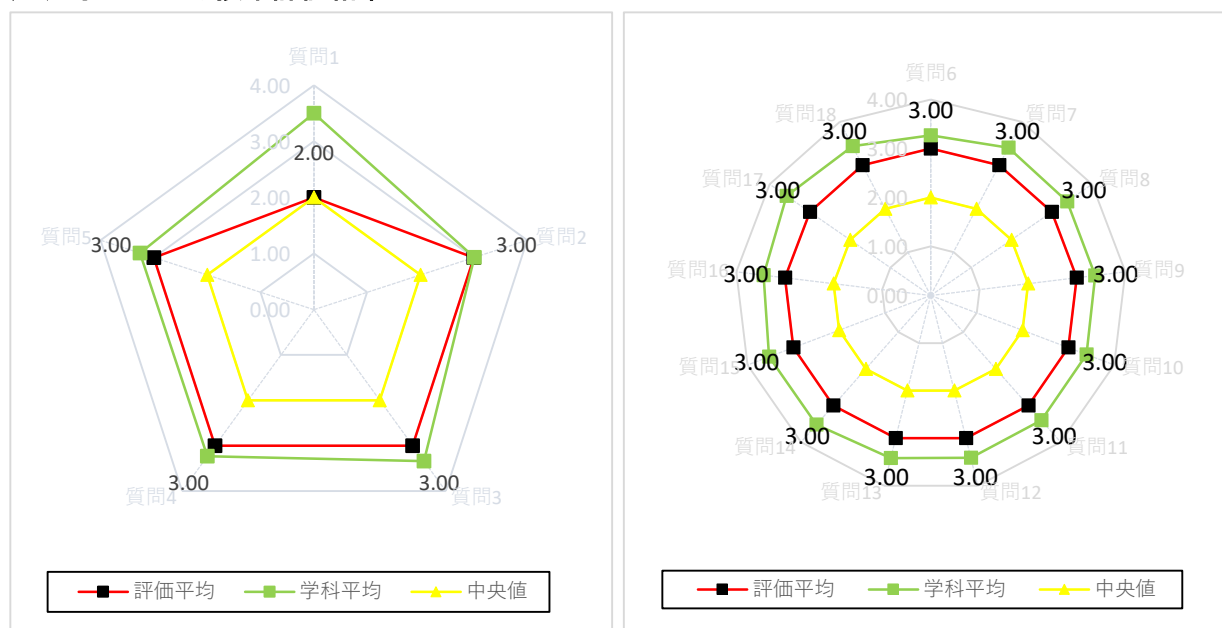
複数の教員で担当しているため、個別の評価を把握しにくい点がありますが、教職を目指す学生に必要な知識や考え方については、十分に伝え、感じ取らせることができたのではないかと思います。

（３）次年度に向けての取り組み

学生のニーズを具体的に把握し、そのニーズに合った情報や知識を高めることができるような授業づくりに努めたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習 I	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

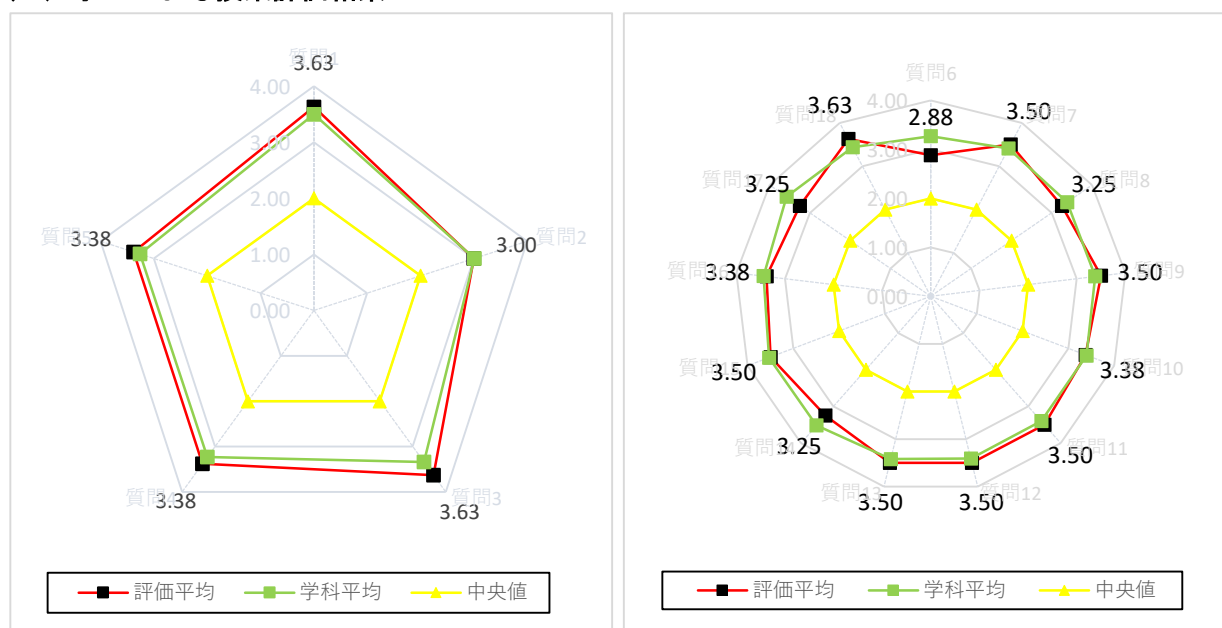
この授業の履修者12名のうち授業評価の回答があった1名の結果であるために結果分析するには難しいと考えるが、今期の学生の授業出席状況では欠席者も多く、授業への取り組みの姿勢も良好な状況ではなかったと感じている。この授業は、資格取得試験のための対策講座として授業展開しているものの、学生にはその授業目標が十分に理解されていなかったようである。特に、今年度の資格試験日の時期が例年と異なったために、筆記試験の対策が遅れた。その結果、試験の合格者が少なかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、授業の最初に授業への取り組みについて確認させ、自ら学ぶ姿勢と努力を養ってもらいたいと考えている。そのために、今年度の状況等を踏まえ、授業改善に努めたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教育実習事前事後指導	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

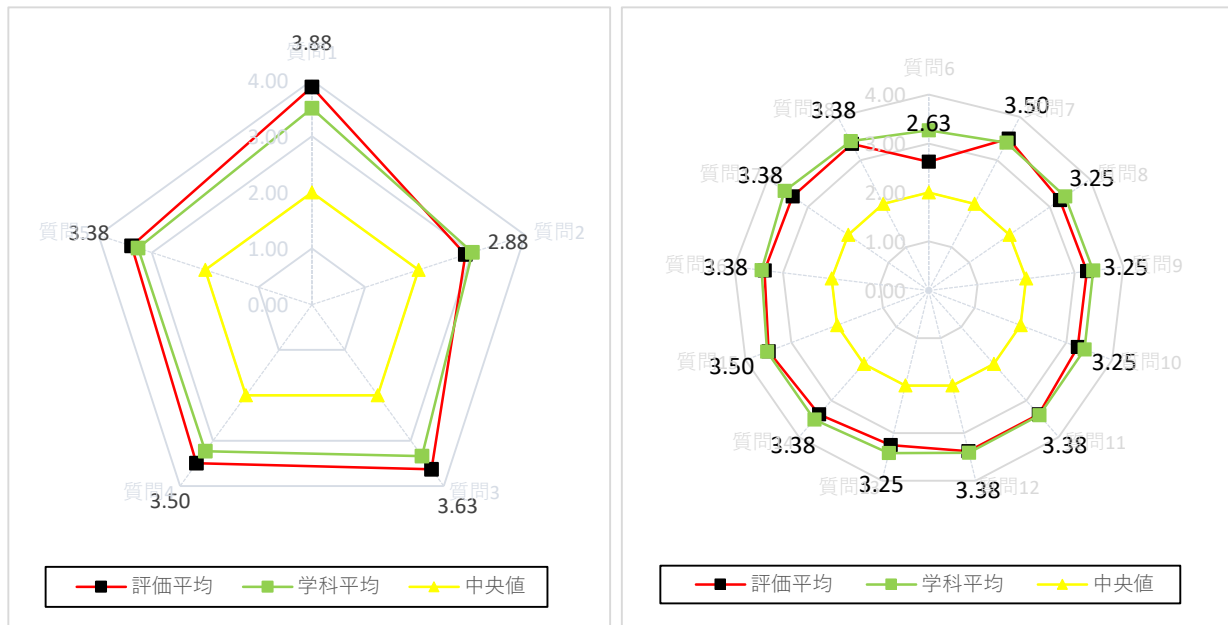
教育実習事前事後指導は、教育実習に向けての心構えを身に付けさせるとともに、実習の総括をする授業です。授業計画の説明の評価が低いところは反省すべきです。今年度は事後指導においてキャンパスを分けたり、3年生を参加させたり、授業をかなり効果的なものに改善できたと考えています。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の全体像をもっと明確にしていきます。今年度うまくいった方法も次年度も継続していきます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 心理カウンセリング		教育実習（高）	11名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

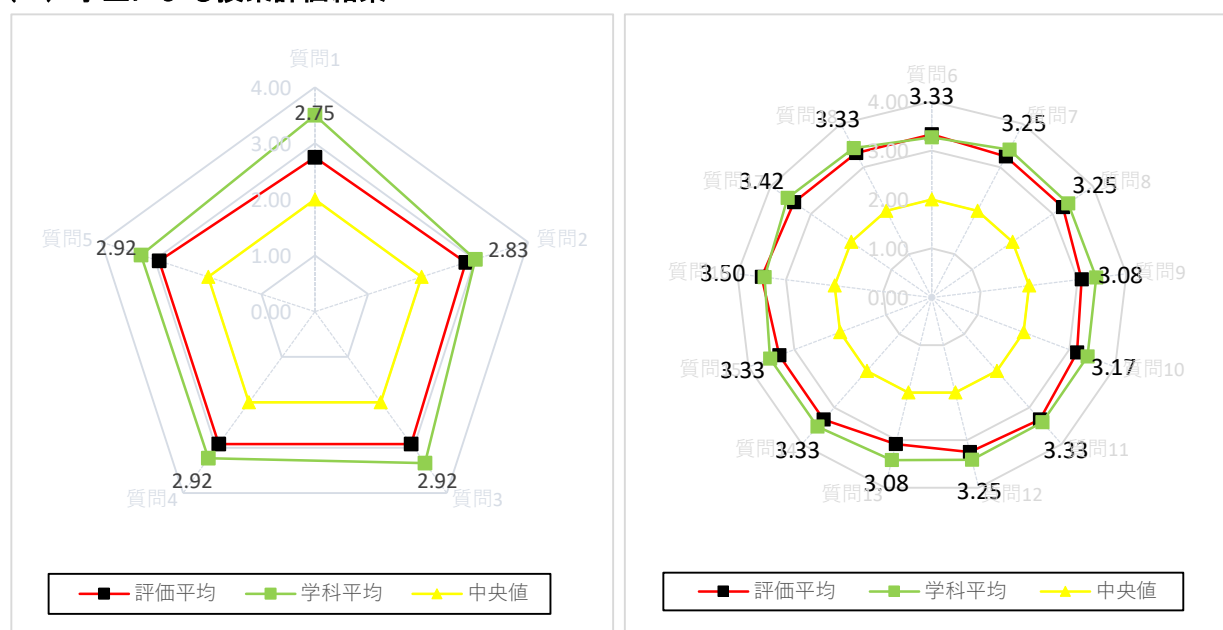
実習科目につき、この授業評価の項目は適さないと考えています。

（３）次年度に向けての取り組み

実習科目につき、この授業評価の項目は適さないと考えています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習Ⅱ	20名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

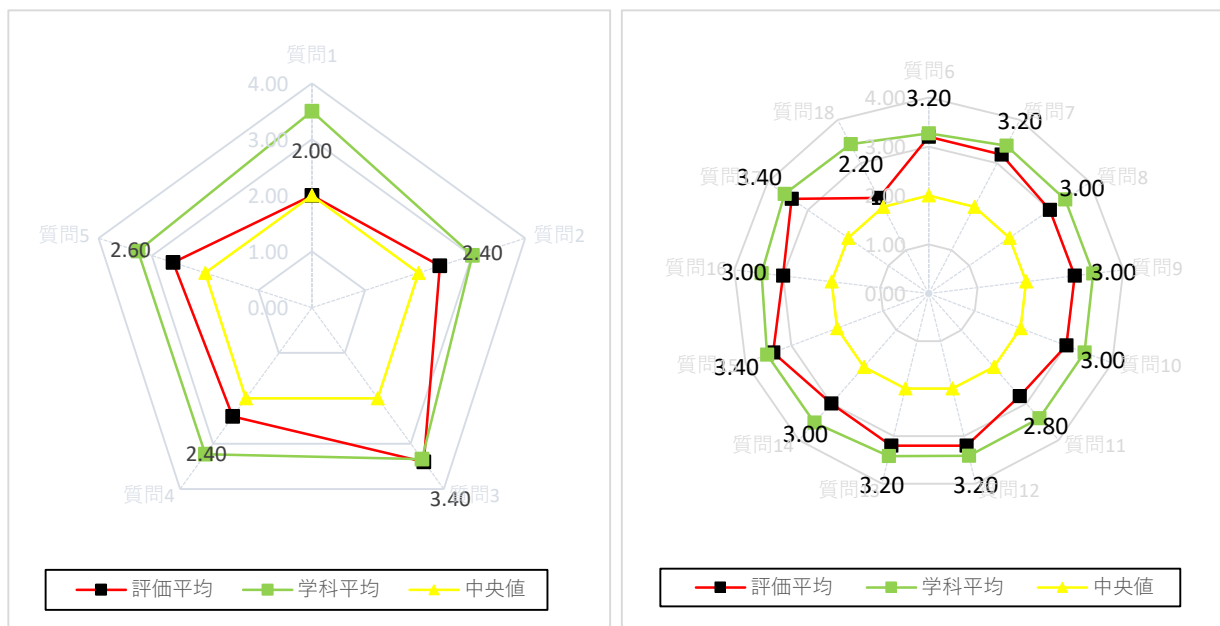
履修者20名中12名の回答から、まず学生自身の総合評価（質問5）は2.92と普通であったが、評価のばらつきが見られた。また、授業の出席に関する質問1の評価2.75と質問1から5の中では低い評価であった。質問6から18においては、すべて3.0以上の評価であったことからまずまず良好な状況であったと察する。ほとんどの項目は評価4または評価3であったものの、6項目に評価1の回答者もあり、学生の受け止め方にも少し偏りがあることがわかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

全体的評価からは現在の状況を継続することとなるが、常に改善の努力は必要と考える。今回、中間調査でこの授業のアンケート実施して、授業の進め方についての改善の参考となる意見もあったことから、今後検討してみたい。この授業内容は資格受験の対策講座のため、最終的には本人の自主的学習が大切となる。そのため、この授業では現在の専門的知識の把握状況を確認することと新たな知識や理解を深めることが重要で、そのための継続的な自主学習する態度を養うことが求められる。今後、これらを含め指導できるよう授業改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

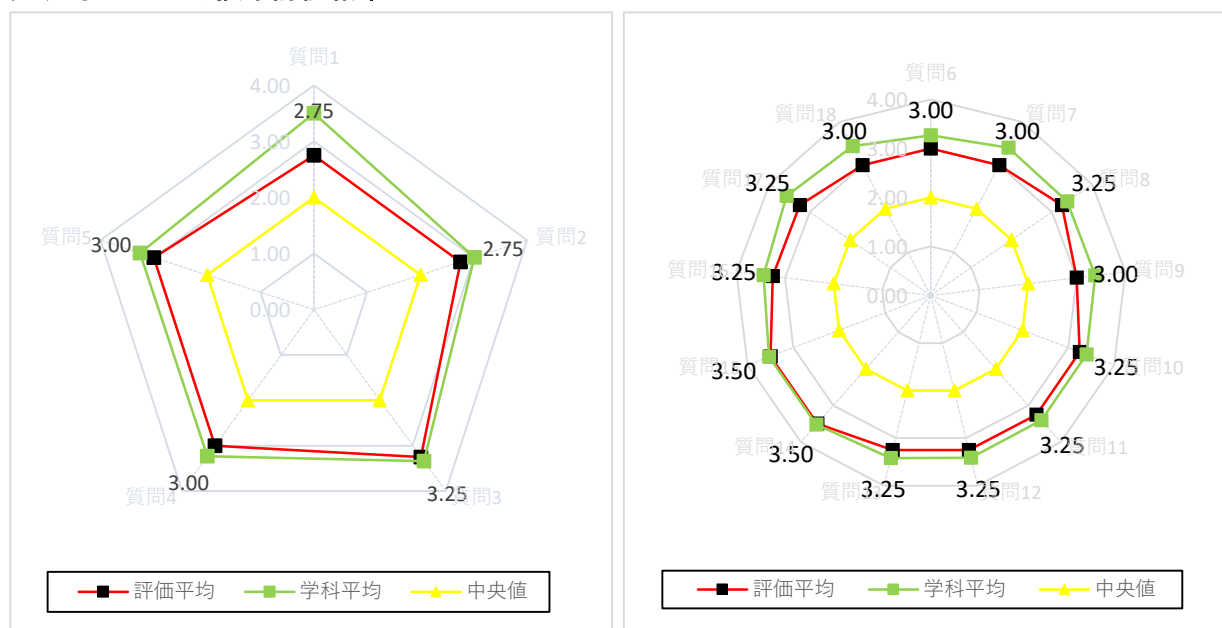
担当ゼミ生6名のうち5名からの回答であった。まず、質問1から質問5の学生自身の評価については、良好な状況とは言えない結果であった。特に、出席状況の評価が低かった。質問6から質問17の結果では、質問11以外は3.0以上の評価を得たものの、質問18の総合評価では低い評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業は、実践的授業内容で、これまで学んできた専門知識や技術を生かして学生自身が指導や支援する授業である。経験不足からの戸惑いや不安があったかもしれないが、これらが今後活かされるものと考えられる。担当役割を責任をもって実践できるよう、詳細な計画や準備について細やかな指導を次年度は心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

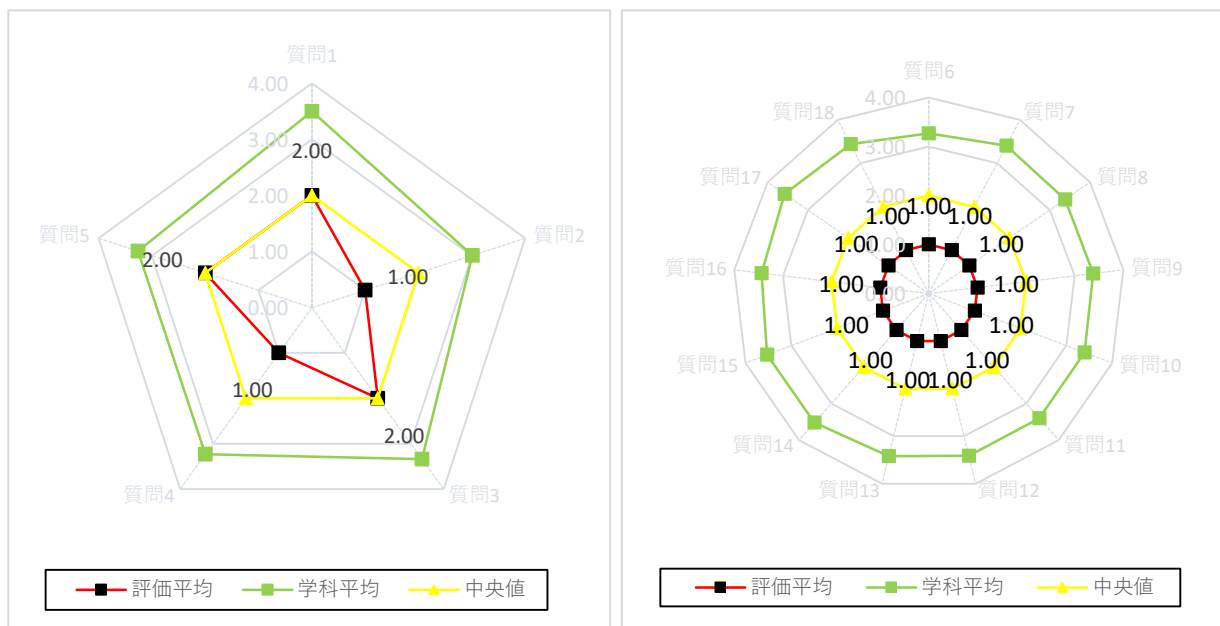
- ・ 学科平均との比較：全体として学科平均とほぼ同様であった。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫：地域でのより身近な活動であり、日常での健康と福祉の課題を取り上げたが、事前学習が不足していた。
- ・ 授業全般に対する反省点：地域活動に関しての実施内容の事前周知が学生間で不足していた点については、今後、改善を行いたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 授業内容・方法の改善については、グループ間で議論し発表しあう「グループディスカッション」の回数を増やしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

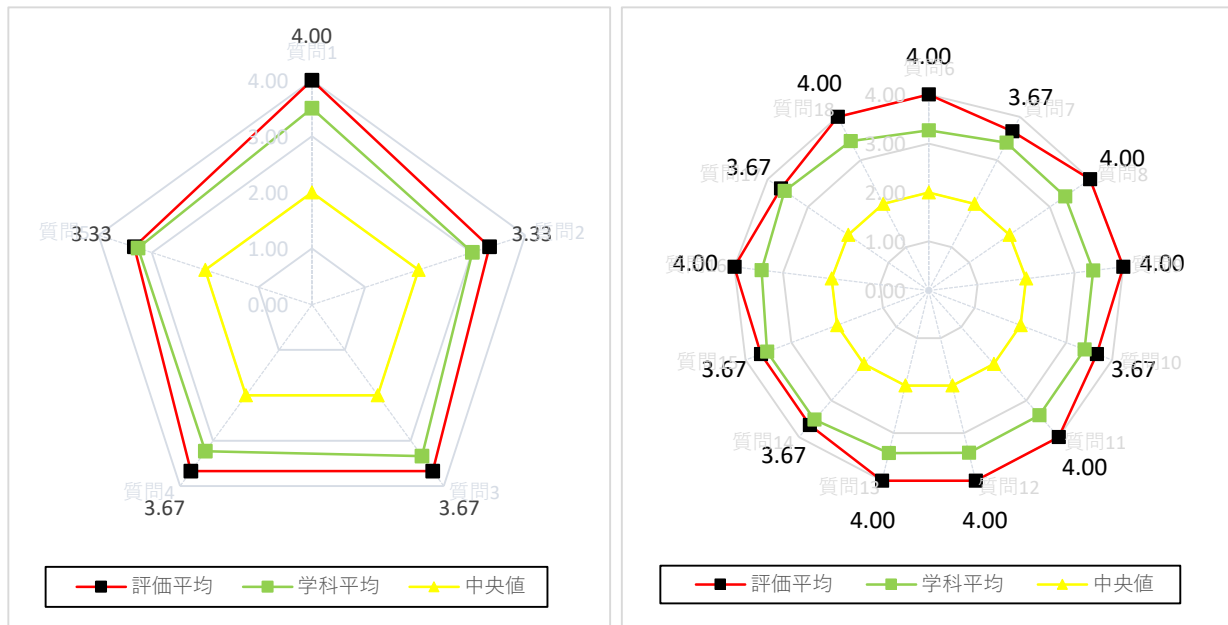
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/生涯スポーツ支援関連科目(選択科目)として、3年次に通年で開講している。私が担当するゼミ生5名が履修した。履修学生5名のうち1名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均を大きく下回る結果となった。一方、教員に関する質問項目6-18についてはすべて「1」と回答されていることから、本結果の信ぴょう性については慎重に扱いたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

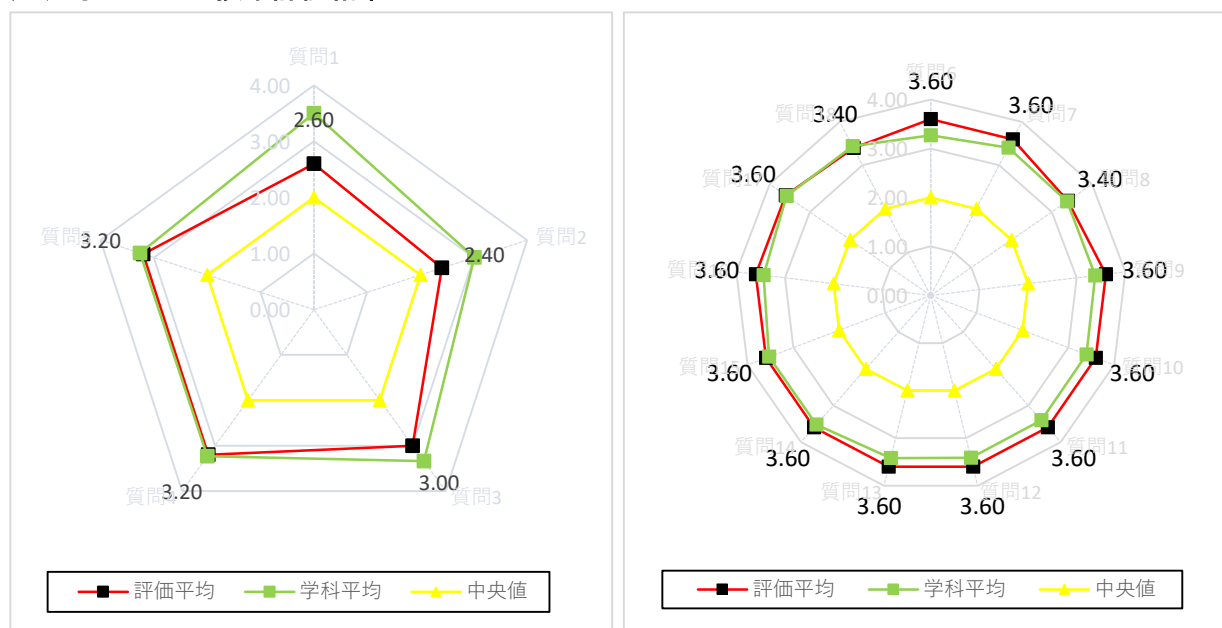
学生自身の自己評価、教員の授業への評価はともに、すべての事項で学科平均を上回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

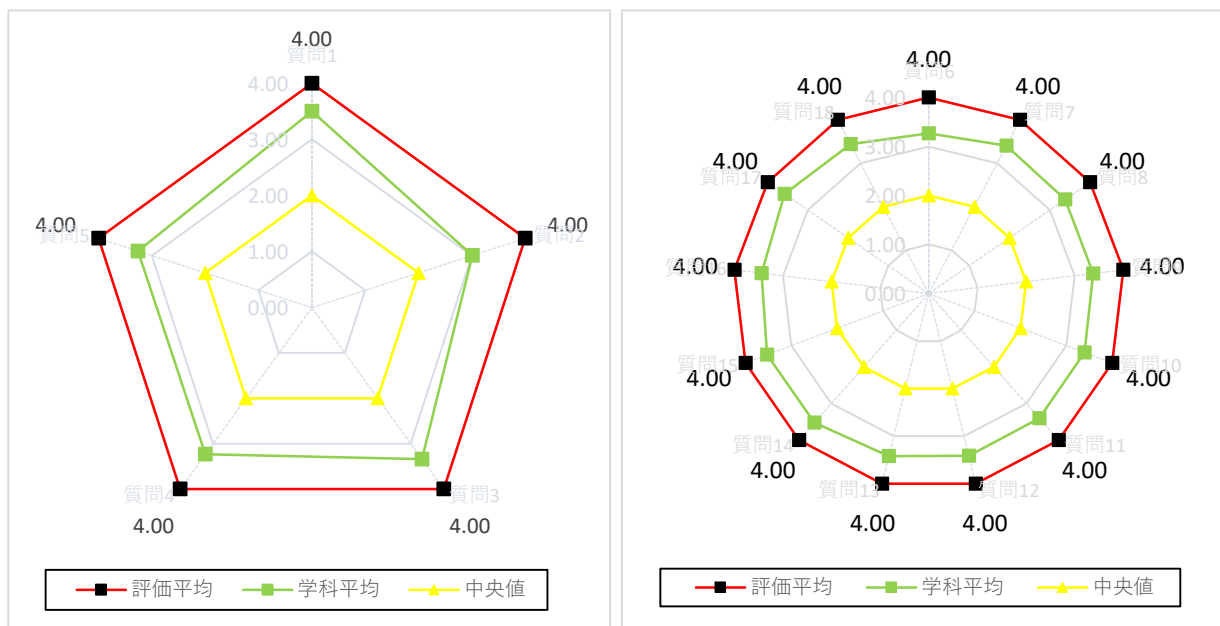
この教科は、本学科の3年生全員が履修している科目でゼミ単位で取り組んでいる。
 今回の授業評価のアンケートに回答した学生は6名中5名である。
 授業の内容・方法、教員の対応については、全ての項目で平均を上回っている。
 しかし、質問学生自身の授業参加態度で3項目が平均を下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

演習形式で学生自らの参画度も高い授業であるはずであるが、実際の授業参加態度の評価が低いということで、学生が担当する内容の部分でシラバスの使用を促すなど適宜アドバイスを行うことを意識していきたい。問1の対策としては、学生自身の意識ではあるが、学生同士声かけし合うように助言していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

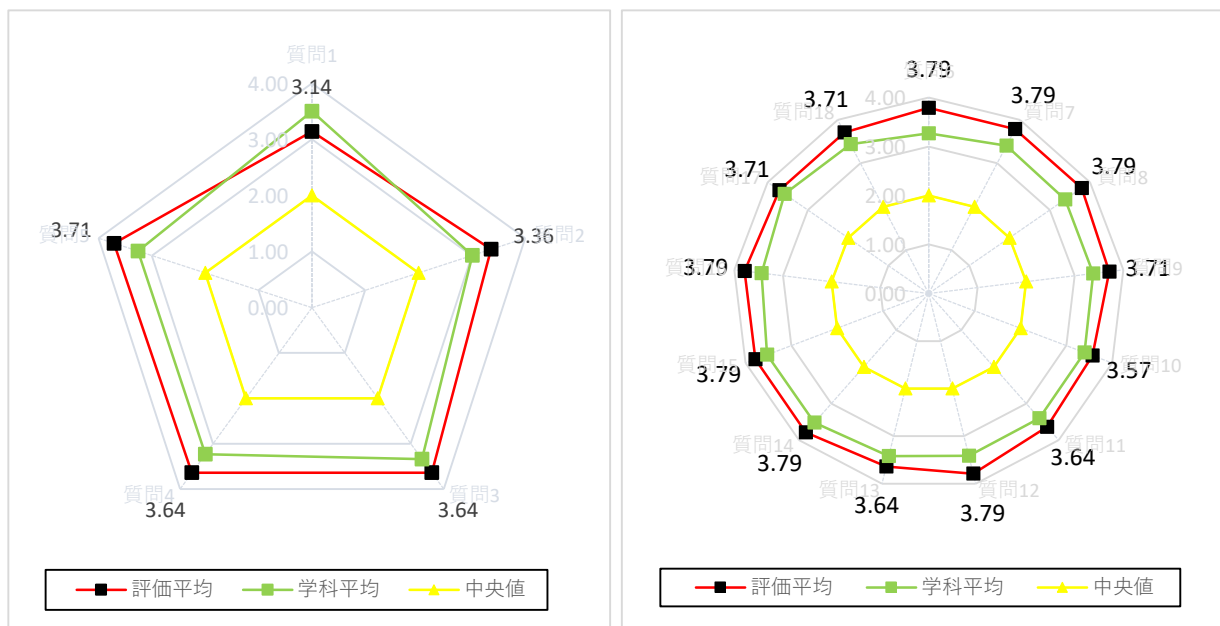
活動の場を想定し、状況に応じた活動計画を作成できたことや実践後の振り返りの充実などがみられ、満足度だけでなく、意識が高まったことが実感できました。

(3) 次年度に向けての取り組み

より多くの活動を想定する能力を伸ばし、より深い取り組みに繋げていくことができるように工夫していきたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		レクリエーション支援論	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

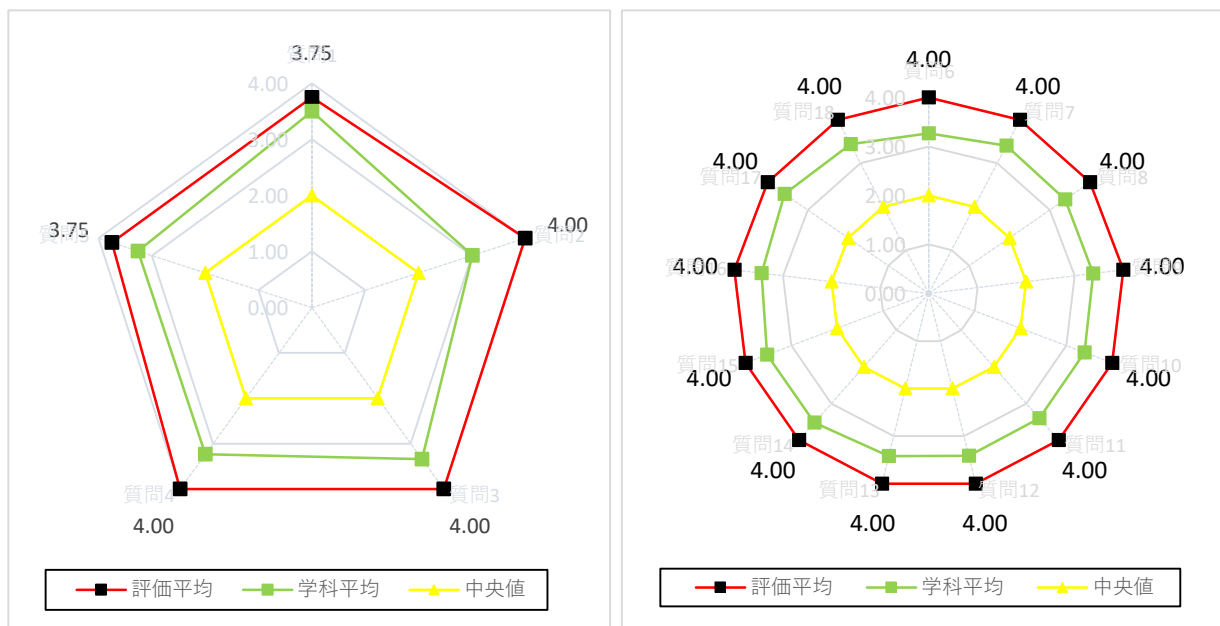
受講生68名中、14名のみからの回答。
回答者が少ないことからあくまでも参考として捉える必要があるが、授業の参加度を問う質問1以外は学科平均を超える評価を得ている。

(3) 次年度に向けての取り組み

地域で活躍されている実践化にも協力を得て実施している。レクリエーションの実践を取り入れた動きのある授業の展開が学生たちの理解につながり学生たちからの高い評価につながっていると思われることから、この状態を継続していけるように努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		レクリエーション支援演習	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

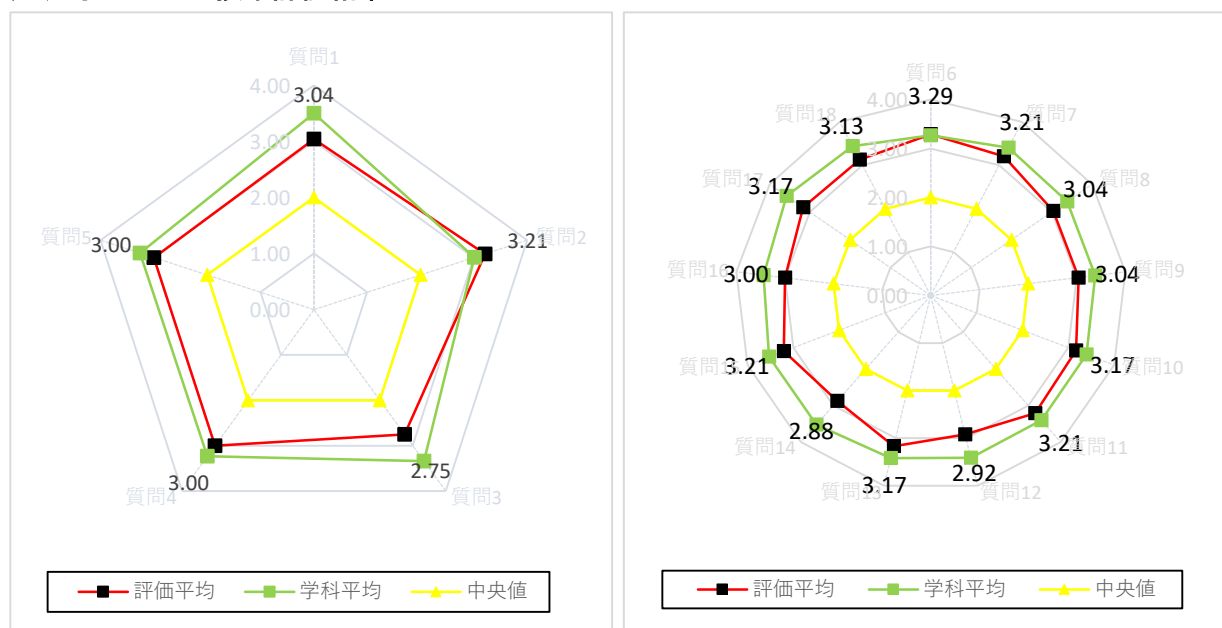
受講生52名中、4名のみからの回答。
回答者が少ないことからあくまでも参考として捉える必要があるが、全ての項目で4.0に近い評価を得ている。

(3) 次年度に向けての取り組み

地域で活躍されている実践家にも協力を得て実施している。グループワークによる発表形式を中心とした授業展開が学生たちの理解と満足度につながり学生たちからの高い評価につながっていると思われることから、この状態を継続していけるように努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		アダプテッド・スポーツ論	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

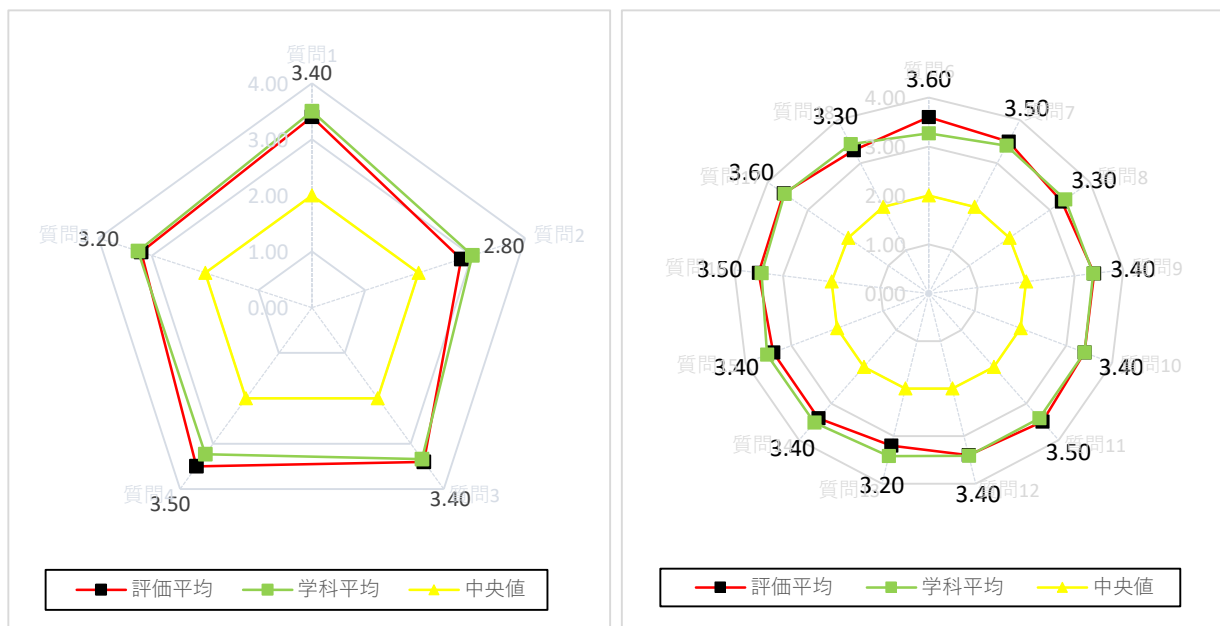
27名中、24名から回答を得た。
全体的に、学科平均より概ね低い評価となっている。特に、質問12の声の大きさ・明瞭さ・スピード、質問14の学生の質問等への誠実な対応の評価が低い。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、2人の非常勤講師にも協力を得ることで障がい者スポーツへの理解促進を図っている。
学内では資格取得に必要となる養成認定校の指定テキストの解説と障がい者スポーツ種目の知識を増やすためのDVD視聴が主な内容であることから、特にテキストに関する部分では、教員からの単方向授業になっている可能性がある。また、障がい者スポーツ施設の見学として学外授業も展開するなど、体験的な学習内容も含めているが学生の評価につながっていないことから、授業毎にミニッツペーパーを導入し、学生の反応を確認しながら進めていくことにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護概論 I	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1～5については平均もしくは平均より高い項目（理解工夫）（真剣に取り組む）があった。受験資格のための専門科目であり、コース配属後初めてのクラス履修であり、緊張感があったことが影響しているのではないかと考える。

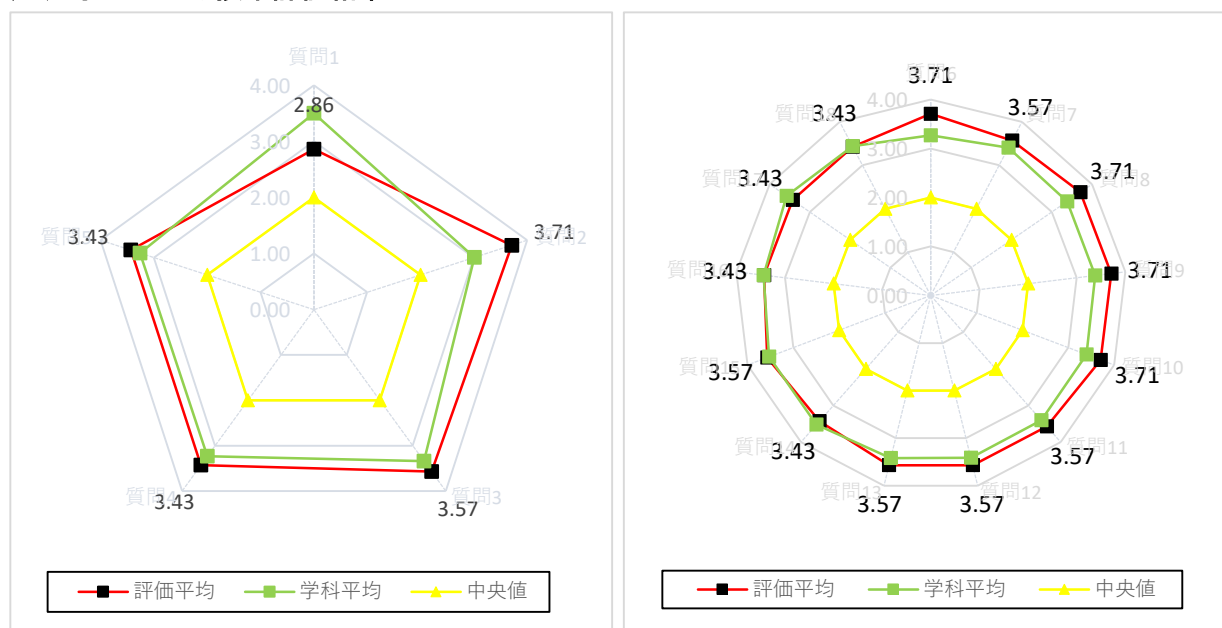
質問6～12についてはおおよそ平均であった。引き続き、わかりやすく、学び多い授業の工夫に取り組みたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

教材のさらなる充実を検討したい（事例、新聞記事、DVD等活用）

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		リハビリテーション論	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

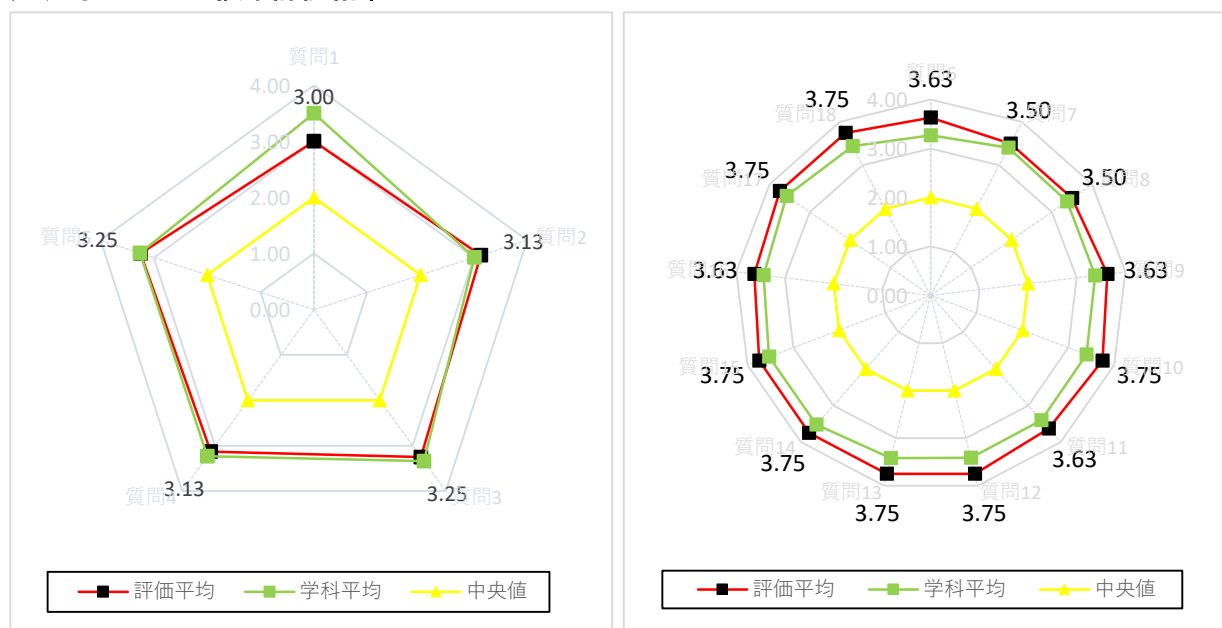
1. 回答率が24% (7名/29名) と極めて低い。
2. 自由記述への記載がない。
3. 回答は質問1から質問25までであるが質問19以降は存在しない。
4. 学生の欠席回数を除き、各質問で「やや不満」「不満」と答えた学生はいない。

(3) 次年度に向けての取り組み

1. 授業評価の意義を説いて、学生に真摯な態度での協力を求める。
2. 他の科目の授業評価でも質問19から質問25までの回答が認められたため、システム上の問題はないかを確認する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護サービス論 I	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

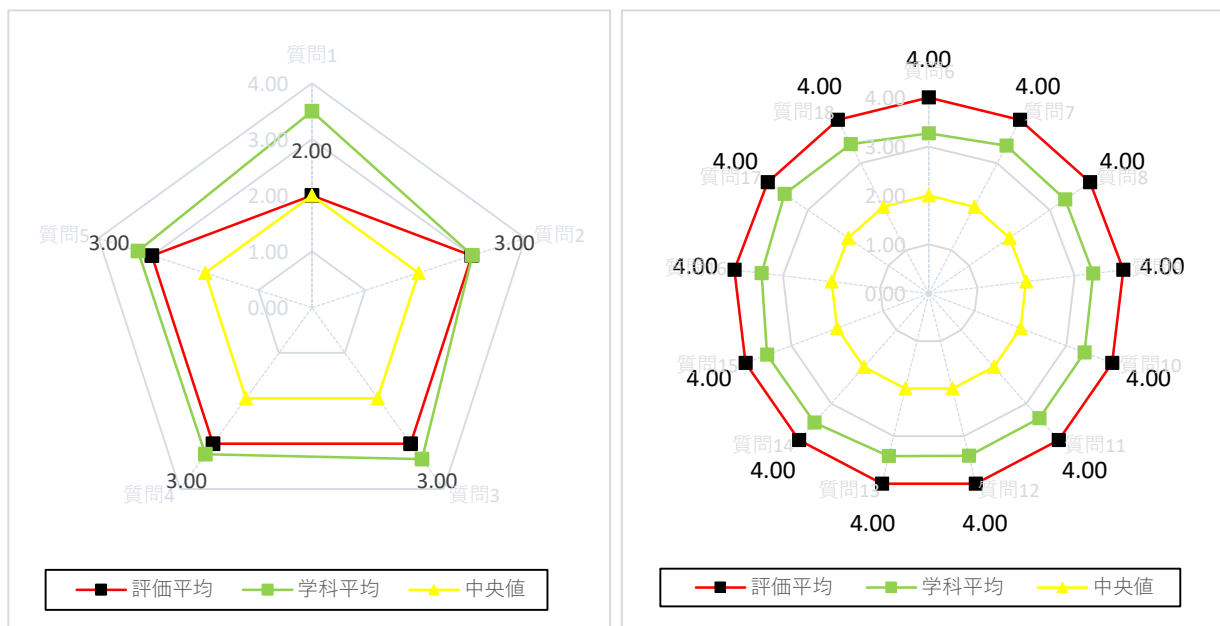
受講者9名中8名の回答。科目が、講義と実践演習を実施。学生が企画・運営し、幸歳セミナーを通して、高齢者への接し方やプログラム作成・運営を実施。学生自身が主体となる授業を展開してるため高評価をいただいたと感じる。学生自身が実施するが、その展開については、教員が常にサポートを行い、その意図を確認させながら実施。自由記述において、「レクの実践は、実習時にも活用できるので、レクの企画、運営の授業をこれからも行ってほしいです。」1名が記載。実践系の学問であることがよかったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も受け持つことができるのであれば、実践を通じて理論やその効果検証についてさらに学生のためになるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		基礎生活支援技術Ⅱ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

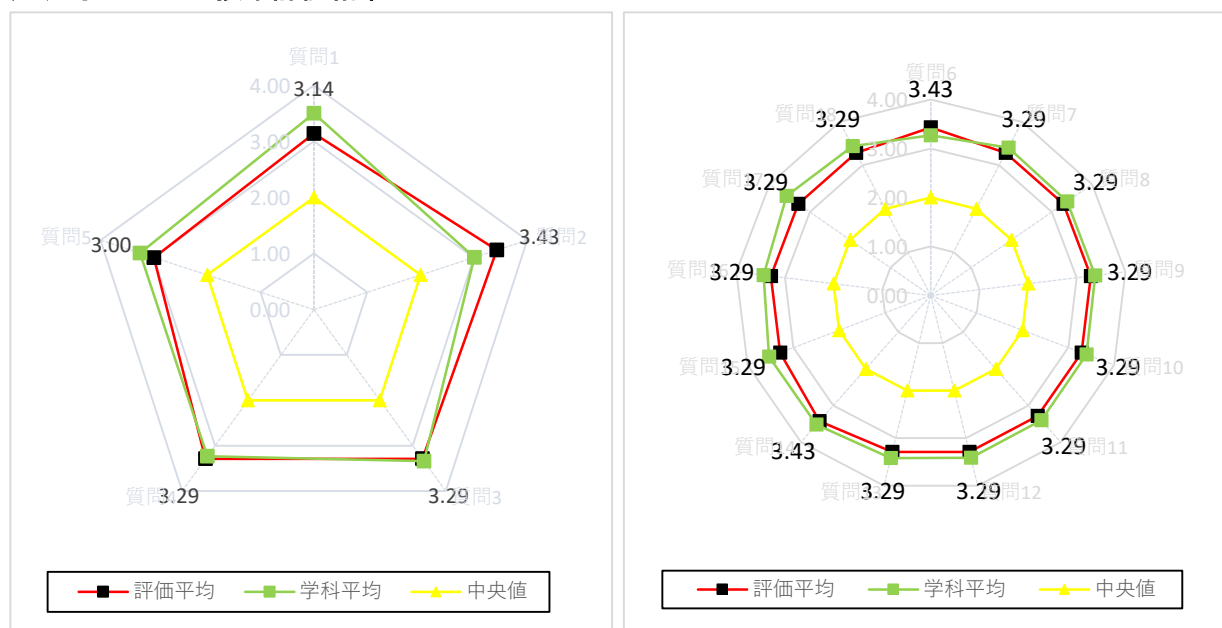
質問1～5は平均よりやや低い結果となった。質問6から18については平均より高い傾向となった。実技演習の授業であるため主体性が求められる授業であるにも関わらず学生自身の取り組みが平均よりやや低かったため、主体性や積極性を伸ばすための工夫が必要と考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

予習・復習課題を出すなどして、授業の内容について積極的・主体的に取り組めるよう工夫していく

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術 I (高齢者)	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

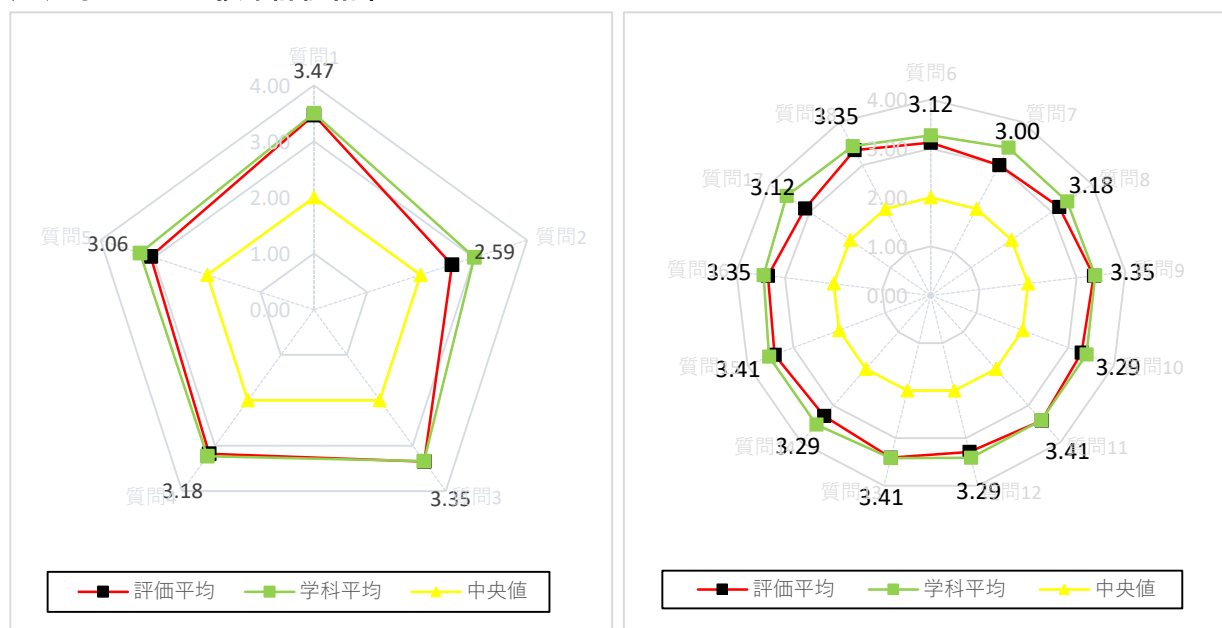
質問1～5、質問6～18についてもおおむね平均に近い点数であった。
 少人数の演習授業であるため、主体的・積極的に取り組めるような工夫がさらに必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

実技演習の時間を増やす、小テスト実施のタイミング等、学びを実感できる工夫に取り組む。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		保健体育科教育法 I	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生自身の自己評価では出席に関しては学科平均を上回っているが、シラバスの活用については学科平均を下回っている。

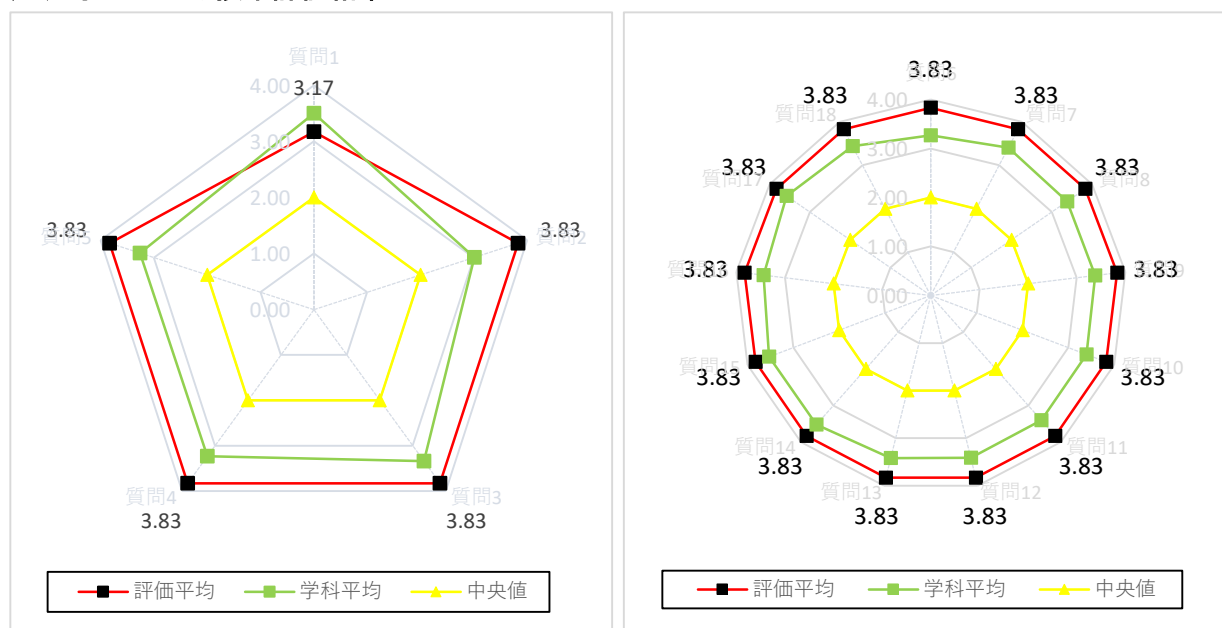
教員の授業への評価はほぼ学会平均と同様であるが、シラバス、到達目標についての説明、教員の熱心さに関しては学科平均を下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はシラバス、到達目標についての説明を十分に行い、授業に関しては熱心に取り組むたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		保健体育科教育法Ⅲ	19名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

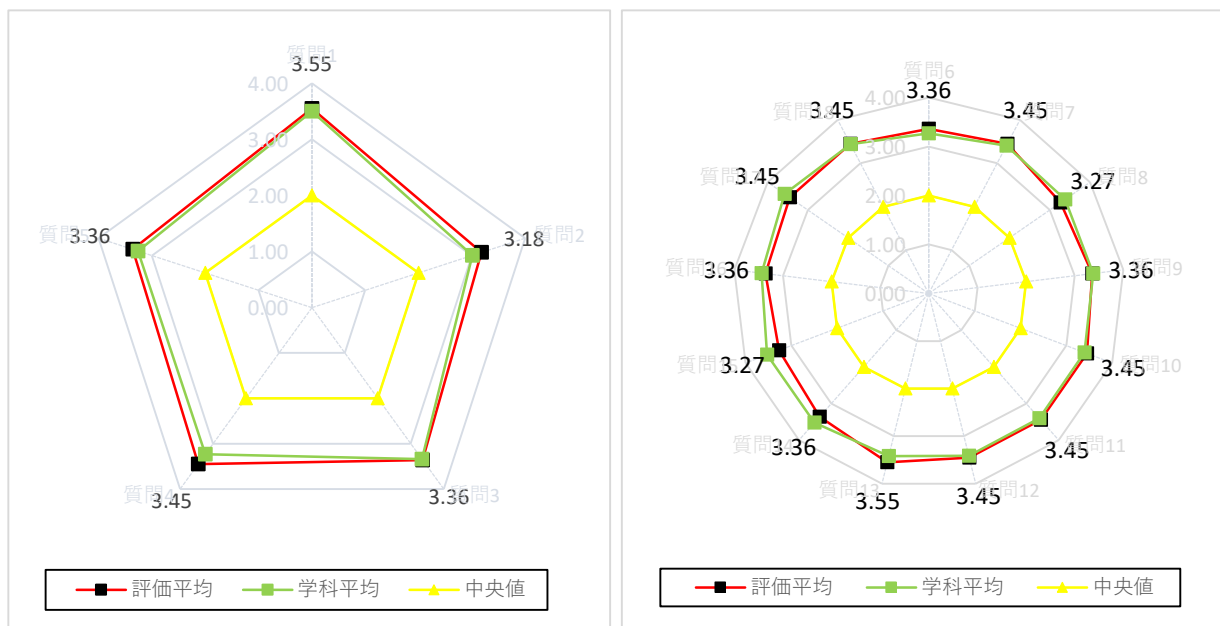
保健体育科授業づくりと実践を学ぶ場ではありますが、学習指導案を事前に作成し、すべての準備をしたうえでの授業実践となり、その授業評価まで真剣に取り組むことができました。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業計画としては、概ね評価できるものであり、学生の授業実践における満足度は大変に高いものとなったことから、基本的なベースは変えずに工夫を加えながら、より効果的な授業づくりをしたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護過程演習Ⅱ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

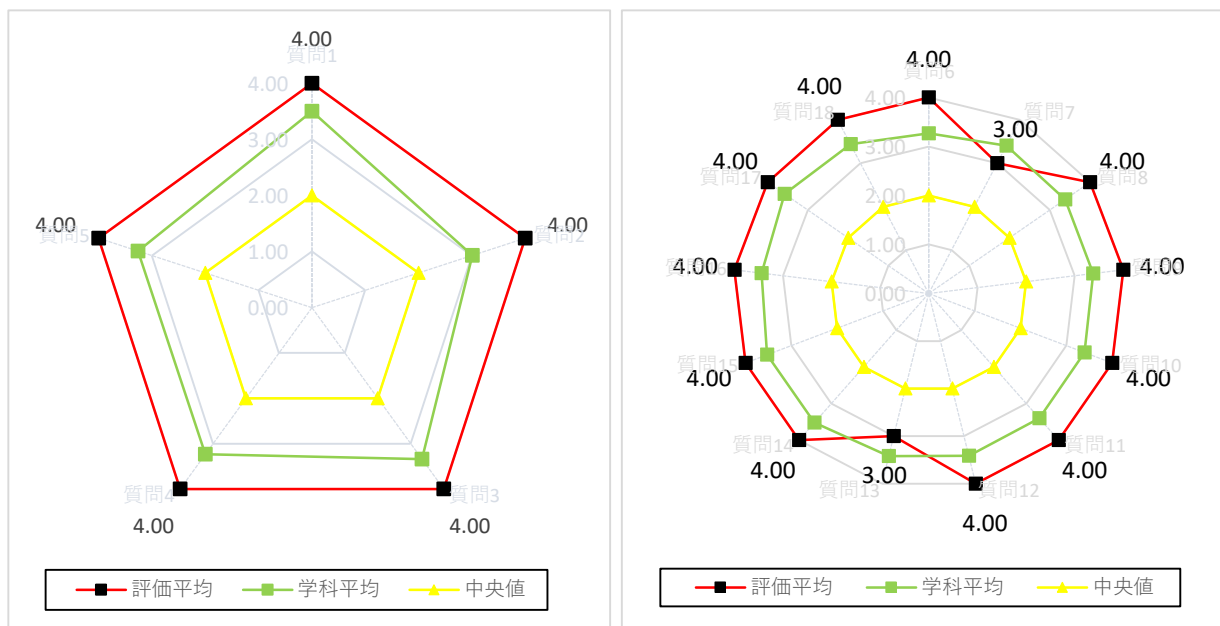
質問1～5は平均よりやや高い結果であった。質問1～18についてはおおむね平均に近い点数であった。実習に向けて、個別支援計画を作成するという、主体性、積極性が求められる科目であることが影響していると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の理解度、進度に合わせた個別指導を工夫していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護過程演習Ⅲ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

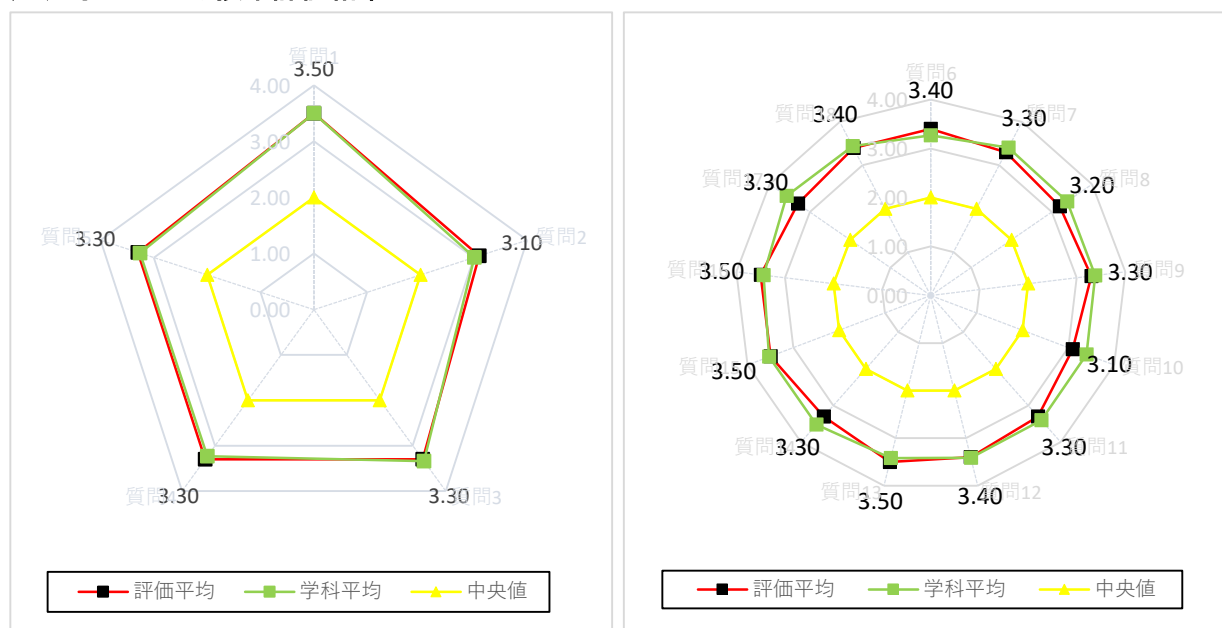
質問1～5については平均よりかなり高い結果となった。質問6～18については質問7（到達目標の明確化）と13（授業の進度）以外は平均より高い結果となった。実習の体験を事例研究の手法でまとめ発表する内容であり、主体性、積極性が発揮されたと考える。質問7および13については、学びの目標が十分に理解できなかったなどが考えられるので、終了時にはどのような力が身につくのか、説明する工夫が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の節目ごとの目標を設定し、学生の学びの意義を感じてもらう工夫に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護総合演習 I	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

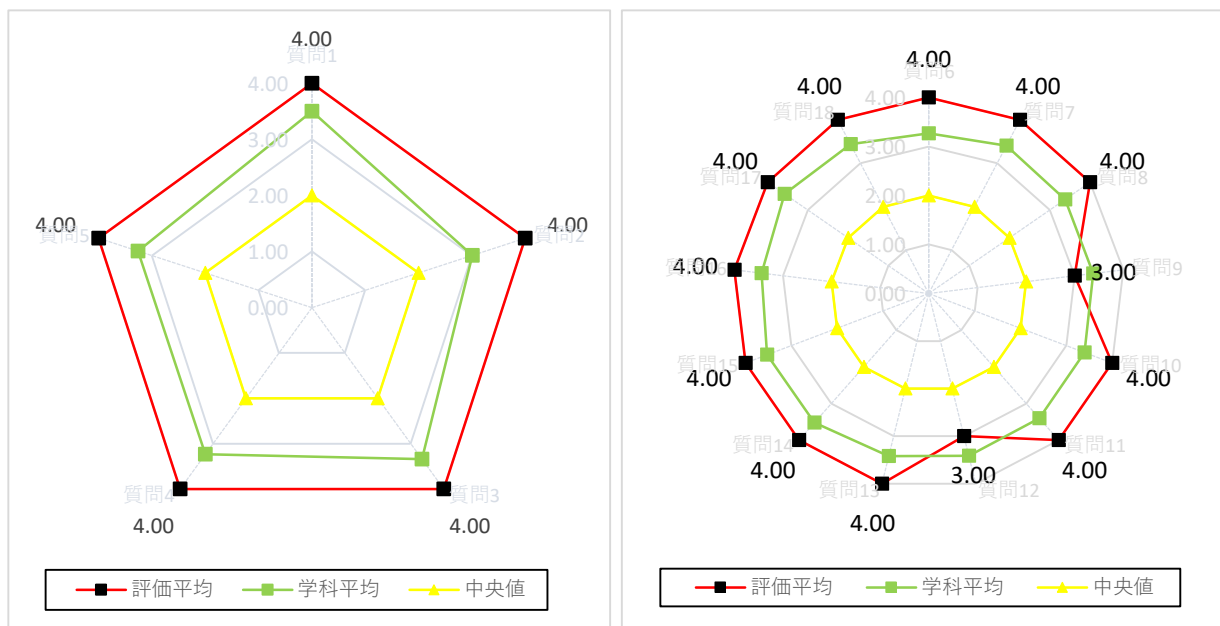
いずれもおおよそ平均に近い点数であった。実習指導という特徴を持つ科目のため、さらに学生の主体性、積極性が発揮できる内容にしていく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

先輩からの講話や指導者からのコメントなど、教員以外の声などを紹介しながら、上記課題を改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護総合演習Ⅳ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生の積極性や主体性に関する質問は平均値より高く、実習指導の側面を持つ科目であることが要因としてあげられる。

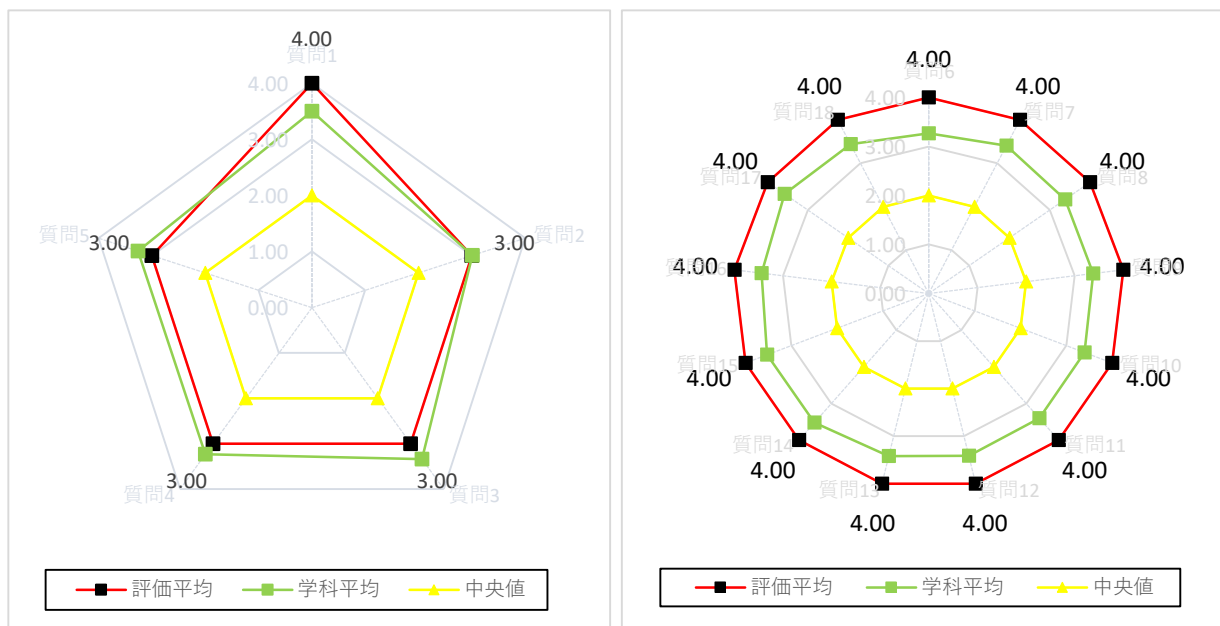
平均より低かった質問9（わかりやすくする工夫）、質問12（声の大きさ）等については、担当教員と共有をしながら改善していく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

ほか科目との連動を意識しながら、教材の工夫等に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護総合演習Ⅱ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

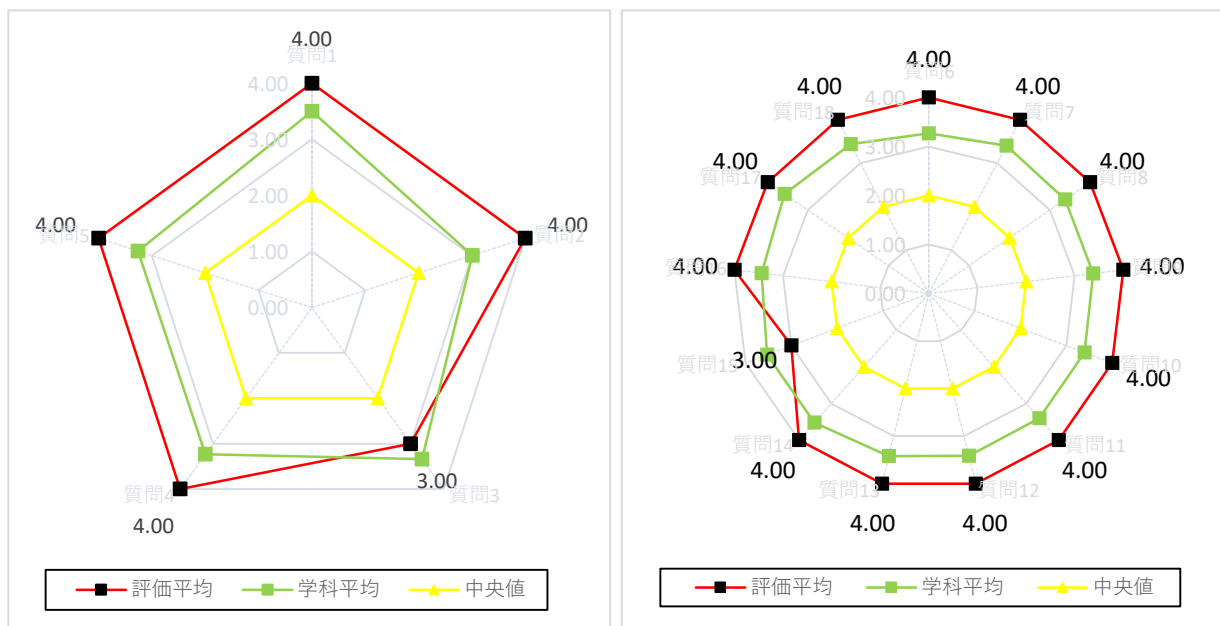
質問1～5については平均より高い項目、低い項目がそれぞれあった。質問6から18については平均よりいずれも高い結果となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

先輩からの講話や指導者からのコメントなど、教員以外の声などを紹介しながら、上記課題を改善していきたい。また複数教員で担当するので、課題や進め方についての共有を行う必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護総合演習Ⅲ	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

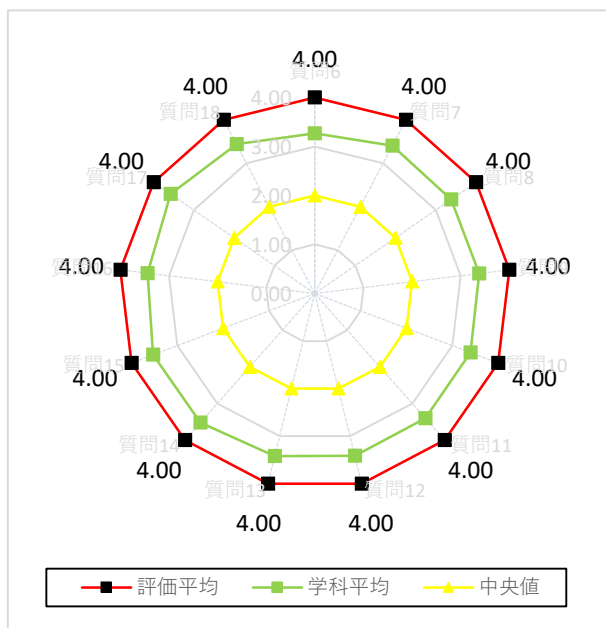
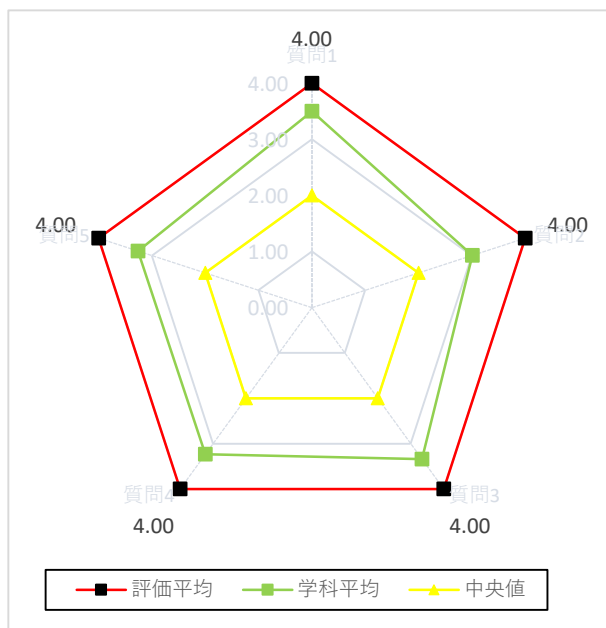
質問1～5については1項目以外は平均より高い結果となった。質問6から18については、質問15（公平さ）が低かった。実習指導という特徴を持つ科目の中で、複数教員が担当することから評価項目や課題の設定については協議しながら進めてきたところであるが、個別指導の機会も多々あることが要因として考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、複数教員で評価項目や課題の設定については協議しながら進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		地域再生・創生論	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

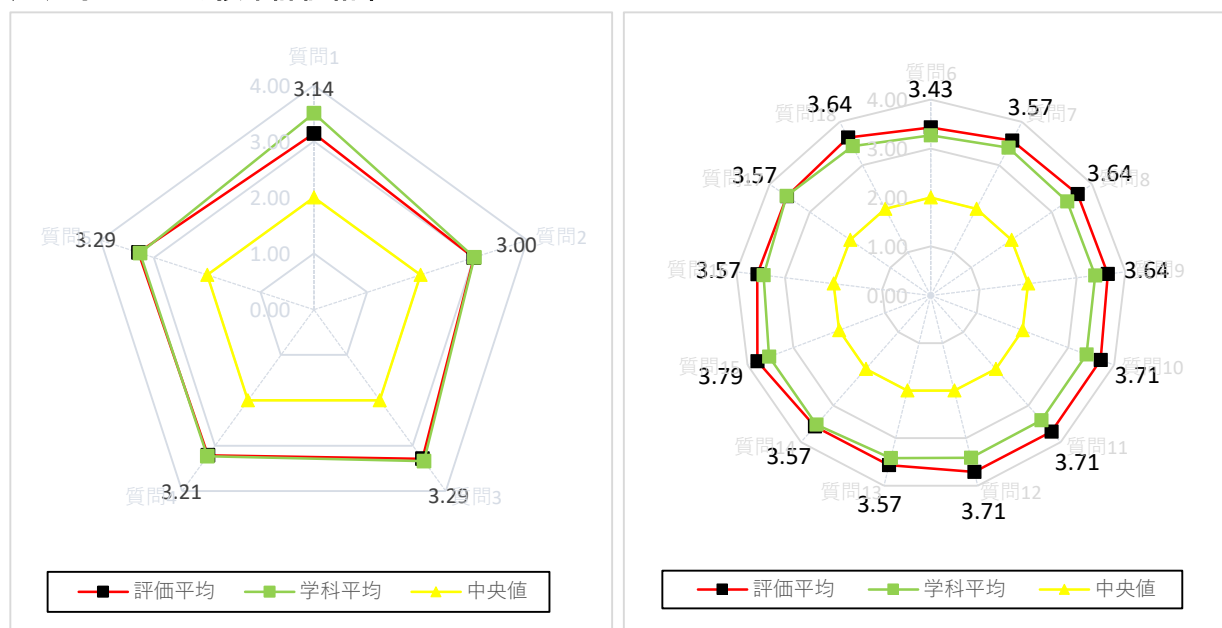
おおむね好評であったが、
学生の積極的な取り組みという面では
やや不十分であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生により積極的に講義・演習に参加してもらえるように
内容を工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		スクールソーシャルワーク	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

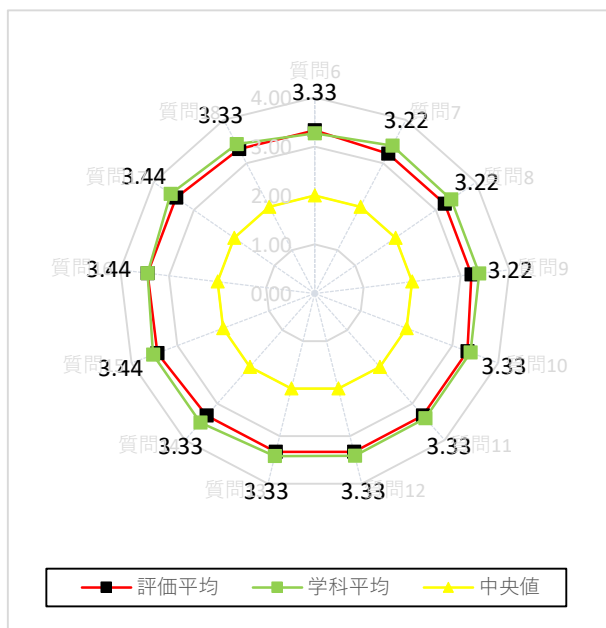
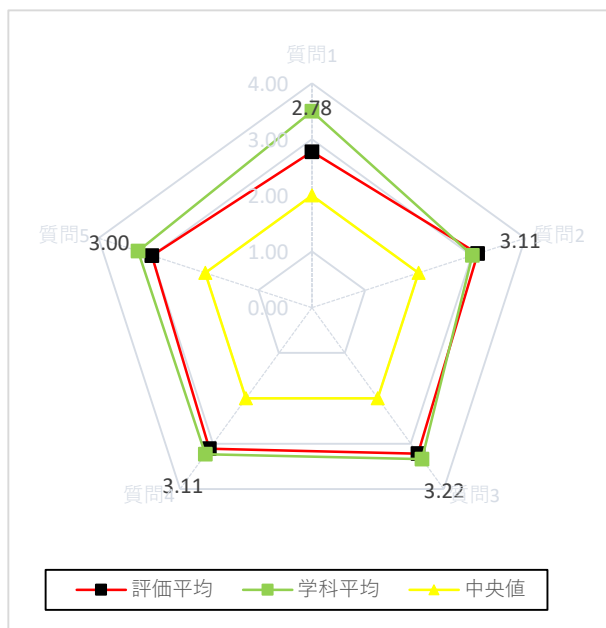
- ・初回講義では、シラバスをもとにどのように授業を行っていくか、教員の役割、学生への期待など説明を行い、各授業では目的、授業の展開を説明してきた。見通しをもって授業に参加してもらえたと思われる。
- ・学科平均より評価が高めであった質問項目については、受講生が約30人と比較的少なめの科目であったことから、机間巡回をしながら学生とコミュニケーションを図ることを意図したこと、小集団交流の演習を取り入れたことが、「関心が持てる工夫」「わかりやすくする工夫」「公平な学生への対応」などの評価につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・全質問項目においてシラバスの説明が低めであったが、単にシラバスに記載していることを確認するのではなく、履修年次が4年生であることから、国家試験や進路、既習科目に関連させて説明を行っていきたい。
- ・4年時の選択科目であることから、履修生の変動は想定されるが、可能な限り学生と教員、学生同士、小集団とクラス全体と意図的な交流を仕組みながら学習効果を高めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		健康福祉海外演習	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

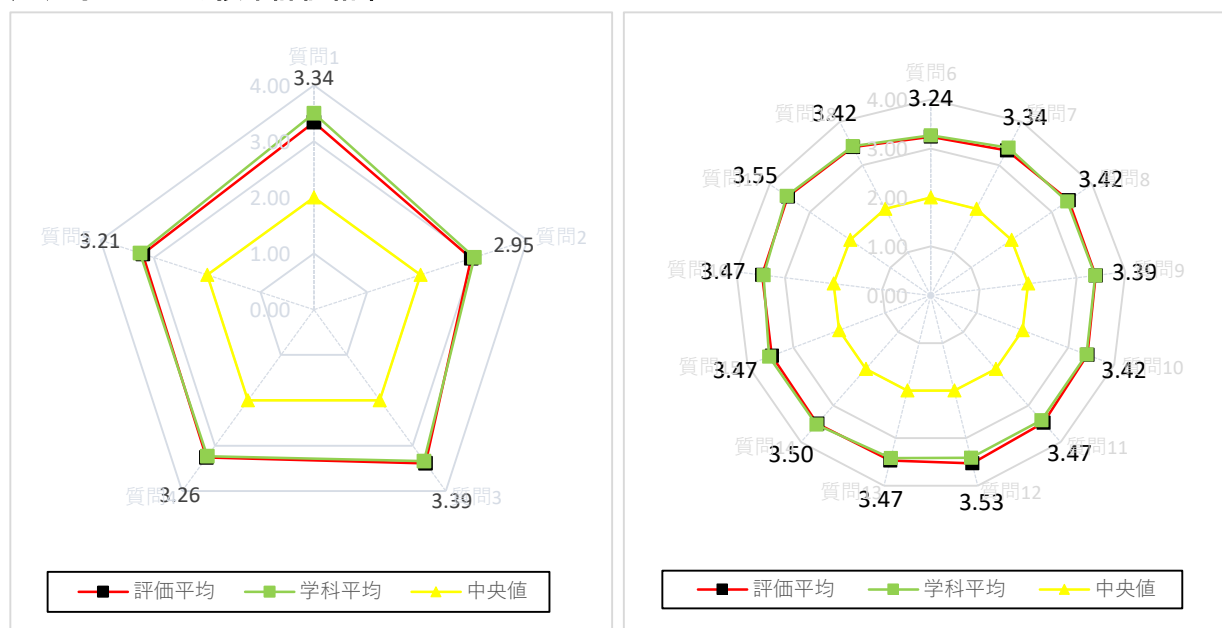
すべての項目でほぼ学科平均値に近い数値を示している。

(3) 次年度に向けての取り組み

学科平均値を上回るよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉特講 I	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

56名中38名の回答。各教科の先生方のオムニバス方式で実施。質問13は学科平均より高く、学生の満足度が高かった結果と考える。国家試験対策の一環を担っているので、授業評価というより、学生の能力がいかに高まるかが大切ではあるが、学生自身は満足していると捉える。課題として、国家試験の合格率にどのようにリンクをしているかが大切である。学生の満足＝合格率の高さ ではないため、こんご、どのような方針で実施していくかは、その年度ごとの学生の状況を確認して、進めなければならない、難しいところではある。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後担当を持つ場合、その年度の学生の状況に応じて、国家試験の各教科の理解度、レベルに合わせた個人的な指導をどのように入れていくかを分析しながら進めていくことが必要であると捉えている。